



Voyager™ 1200g/1202g

Single-Line Laser Scanner

ユーザーズガイド

免責事項

Honeywell International Inc. (以下、ハネウエル社) は、本書に記載された仕様およびその他の情報を事前に断り無く変更することがあります。何らかの変更の有無を確認するときは、かならずハネウエル社にお問い合わせください。本書の情報について、ハネウエル社では一切の保証をいたしません。

本書に技術的または編集上の誤りや記載漏れがあった場合、また本書の内容の保管、実施、あるいは使用の結果生じた事故や損害については、ハネウエル社では一切の責任を負いません。本書には著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象となります。本書のどの部分も、ハネウエル社の文書による事前承諾を得ずに複製、編集、または多言語への翻訳を行うことはできません。

© 2010-2011 Honeywell International Inc. All rights reserved.

本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

ウェブアドレス: www.honeywellaidc.com

Microsoft® Windows®ならびに Windows ロゴは Microsoft Corporation の商標または登録商標です。本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

Bluetooth® の文字マークならびにロゴは、Bluetooth SIG Inc. が権利を有しています。

本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

コンプライアンス情報 Voyager 1202g

アメリカ

FCC パート 15 サブパート B クラス B 適合について

この装置は FCC 規制のパート 15 に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

この装置は FCC 規制のパート 15 に準拠するクラス B デジタル機器に対する制限に適合することがテストで確認されています。これらの制限は、居住地域に設置したときに妨害を適切に防止できるように設定されています。この装置はラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、また場合によって放射します。指示通りに設置して使用しなければ、ラジオ受信を妨害することがあります。ただし、個々の設置例で妨害が起きないという保証はありません。この装置がラジオやテレビ受信への妨害の原因になった場合、妨害しているかどうかは装置の有効・無効にて確認可能です。使用者は以下の対策を 1 つまた複数試して妨害を解消してください。

- 受信アンテナの方向または位置を変える。
- 装置と受信機の間を離す。
- 装置を受信機とは別の回路のコンセントに接続する。
- 販売店あるいは経験のあるラジオ・テレビ技術者に相談する。

必要な場合には、販売店もしくは経験のあるラジオやテレビの技術者にさらなるアドバイスを受けください。また、「インターフェースについて」というブックレットもご参考ください。これは FCC の現地オフィスにて入手可能です。ハネウェル社は当製品の無断の変更やハネウェル社からの指定を受けていない接続ケーブルや機器の置換や取り付けによるラジオやテレビへの妨害について、責任を追いません。その処理はユーザーの責任となります。

本機器にはシールド済みケーブルを使用してください。本機器は 3m 以下のケーブルで試験を行っており、3m 以上のケーブルを使用した場合、クラス B に適合しない可能性がありますので、ご注意ください。

注意：ハネウェルから明確に認可されていない変更や修正を機器に対して行った場合、この機器の操作に対する FCC の認証が無効になることがあります。

UL について

UL は UL60950-1、2nd Edition に適合しています。

カナダ

Industry Canada ICES-003

このクラス B デジタル装置は Canadian ICES-003 に対応しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

Conformité à la réglementation canadienne

Cet appareil numérique de la Classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada. Son fonctionnement est assujéti aux conditions suivantes :

1. Cet appareil ne doit pas causer de brouillage préjudiciable.
2. Cet appareil doit pouvoir accepter tout brouillage reçu, y compris le brouillage pouvant causer un fonctionnement indésirable.

cUL について

cUL は CSA C22.2 No.60950-1-07、2nd Edition に適合しています。

ヨーロッパ



製品についている CE マークは EN55022 CLASS B、EN55024、EN61000-3-2、EN61000-3-3 基準による 2004/108/EC EMC Directive に適合していることを示しています。

また、推奨される電源で出荷されている場合は 2006/95/EC Low Voltage Directive に適合しています

詳細については、以下にお問い合わせください。

Honeywell Imaging & Mobility Europe BV
Nijverheidsweg 9-13
5627 BT Eindhoven
The Netherlands

ハネウェルは、当社の製品を CE マークが無い、Low Voltage Directive に適合しない機器（電源装置、パーソナルコンピュータなど）と使用された場合の一切の責任を負いません。

廃電気電子製品 (WEEE) について

ハネウェル製品は 2003 年 1 月 27 日付の廃電気電子機器 (WEEE) 指令、2002/96/EC OF THE EUROPEAN PAR-LIAMENT AND OF THE COUNCIL に適合しています。

この製品は製造につき、天然資源の抽出と使用を求められています。適切に処理しなければ、健康に影響を及ぼすおそれのある有害物質が含まれている場合があります。

有害物質が環境に散布されないよう、また天然資源に対する圧力を軽減するため、製品の廃棄には適切な回収システムを利用されることをお勧めします。そのような回収システムでは、廃棄される製品のほとんどの材料が安全な方法で再使用またはリサイクルされます。



車輪付きゴミ箱にバツ印がついた記号は、製品を都市ゴミとともに廃棄してはならないことを示すものであり、製品の廃棄には適切な分別回収システムの利用が望まれるものです。収集、再使用、およびリサイクルの各システムの詳細が必要な場合は、地方自治体の廃棄物管理局にお問い合わせください。また、この製品の環境への影響についてはサプライヤーにお問い合わせください。

ドイツ



GS ステートメント

お使いの製品に GS マークが付いている場合は、その製品が GS 認証を受け、IEC60950-1 2nd Edition に適合していることを示しています。

オーストラリア・ニュージーランド

C-Tick について



AS/NZS 3548 に合致しています。

メキシコ



NOM-019 に合致しています。

ロシア



Gost-R 認証を取得しています。

韓国



韓国における規格承認に準拠しています。

台湾



BSMI 基準 : CNS13438, CNS 14336

依據標準 : CNS13438, CNS14336

世界各国向け

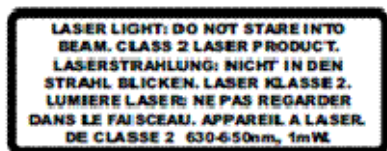
LED の安全性について

この装置は IEC 62471: 2006 LED 安全規格に従ってテストされ、「EXEMPT RISK GROUP」に分類されました。

CB スキーム

CB スキームの IEC60950-1、Second Edition に適合しています。

レーザーの安全性



この製品は IEC60825-1 ed2.0、21 CFR 1040.10、1040.11 に準拠しています。ただし、2007 年 6 月 24 日付け Laser Notice No. 50 による偏差は除きます。

レーザー光です。ビームを見つめないでください。クラス 2、最高出力 1.0 mW : 630-650nm のレーザー製品です。

スキャナのレーザー光

波長 645 ~660 nm

拡がり角 < 1.5 mrad、IEC 60825-1 による最低値。

最大出力 < 1mW

レーザーダイオードは、埋め込みレーザーと認識されます。レーザービームを見つめないでください。

埋め込み型レーザー

波長 645～660 nm

拡がり角 < 1.5 mrad、IEC 60825-1 による最低値。

最大出力 < 10 mw

警告：本書で指定されている以外の手順による制御や調整、履行による使用は深刻な放射線爆をもたらす可能性があります。

防塵防水

Voyager 1200g は IP42 等級で、外部粒子と水滴に対して耐性があります。

特許

特許情報に関しては、当社ウェブサイト (www.honeywellaidc.com/patents) をご覧ください。

コンプライアンス情報 Voyager 1202g ならびに CCB00-010BT

アメリカ

FCC パート 15 サブパート C

この装置は FCC 規制のパート 15 に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

警告: ハネウェル社から明確に認可されていない変更や修正を機器に対して行った場合は、この機器操作に対する FCC の認証が無効となることもあります。

本システムには、シールド済みデータケーブルのみを使用してください。本製品は、3m 未満のケーブルを接続して検査を行なっています。3m 以上のケーブルを使用した場合、クラス B の性能を満たさない可能性があります。

UL について



UL は UL60950-1 2nd Edition に適合しています。

カナダ

Industry Canada

この装置は Canadian RSS-210 に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

Conformité à la réglementation canadienne

Cet appareil ISM est conforme à la norme CNR-210 du Canada. Son fonctionnement est assujéti aux conditions suivantes :

1. Cet appareil ne doit pas causer de brouillage préjudiciable.
2. Cet appareil doit pouvoir accepter tout brouillage reçu, y compris le brouillage pouvant causer un fonctionnement indésirable.

UL について



C-UL については、I.T.E 製品安全性の CSA C22.2 No.60950-1-07 2nd Edition に適合しています。

ヨーロッパ



製品についている CE マークは 1999/5/EC R&TTE Directive の必須条件を満たしていることを示しています。また、また、推奨される電源で出荷されている場合は 2006/95/EC Low Voltage Directive に適合しています。詳細については、以下にお問い合わせください。

Honeywell Imaging & Mobility Europe BV
International Inc.
Nijverheidsweg 9-13
5627 BT Eindhoven
The Netherlands

ハネウェル社は、当社の製品を CE マークが無く、Low Voltage Directive に適合しない機器(電源装置、パーソナルコンピュータなど)と使用された場合の一切の責任を負いません。この製品は EC での使用を前提としたもので、以下の基準に適合しています。

EN 300 328
EN 301 489-1
EN 301 489-17
EN60950-1

廃電気電子機器について

ハネウェル製品は廃電気電子機器(WEEE)指令、2002/96/EC OF THE EUROPEAN PARLIAMENT AND OF THE COUNCIL に適合しています。

この製品は製造につき、天然資源からの抽出や使用を求められています。この製品には、適切に処理しなければ、健康と環境に影響を及ぼすおそれのある有害物質が含まれている場合があります。

有害物質が環境に散布されないよう、また天然資源に対する圧力を軽減するため、製品の廃棄には適切な回収システムを利用されることをお勧めします。そのような回収システムでは、安全な方法で廃棄される製品のほとんどの材料が再利用またはリサイクルされます。



車輪付きゴミ箱にバツ印がついた記号は、製品を都市ゴミとともに廃棄してはならないことを示すものであり、製品の廃棄には適切な分別回収システムの利用が望まれるものです。

収集、再使用、およびリサイクルの各システムの詳細が必要な場合は、地方自治体の廃棄物管理局にお問い合わせください。

また、この製品の環境パフォーマンスの詳細については、購入先にお問い合わせください。

オーストラリア/ニュージーランド

C-Tick



AS/NZS 3548 EMC の要件に適合しています。

中国

SRRC 無線認証を取得しています。



CCC 安全性 (CCB00-010BT ベースのみ) に準拠しています。

日本



特定無線機器の技術基準適合証明を取得しています。

韓国



韓国における企画承認に準拠しています。

ロシア



МЛ04 Gost-R 認証を取得しています。

台湾

下のラベルがお使いの製品に貼付されている場合、その製品は台湾における規格基準を満たしています。



BSMI Standard: CNS13438, CNS14336

依據標準 : CNS13438, CNS14336



基準:低電力周波数電気機械技術基準:LP0002 に準拠しています。

全世界

LED 安全表示

この装置は IEC 62471: 2006 LED 安全規格に従ってテストされ、「EXEMPT RISK GROUP」に分類されました。

無線技術



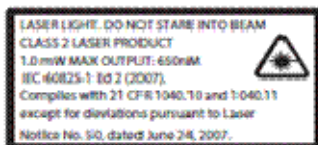
クラス II に適合しています。

CB スキーム

CB スキーム IEC 60950-1 Second Edition に適合しています。

レーザー安全表示

本製品には下記のラベルが貼付されており、製品にレーザーエンジンまたはレーザーエイマーが含まれていることを示します。



本製品は IEC60825-1 ed2 (2007) パルス長 15.5mSec に従って検査されています。2007 年 6 月 24 日付けのレーザー通知 No. 50 から逸脱するものを除き、21 CFR 1040.10、1040.11 に準拠しています。

本製品はレーザー光、クラス 2 レーザー製品 (1.0mW 最大出力 650nm) です。レーザービームを凝視しないでください。

スキャナのレーザー光

波長 645 ~ 660 nm

拡がり角 < 1.5 mrad、IEC 60825-1 による最低値。

最大出力 < 1mW

レーザーダイオードは、埋め込みレーザーと認識されます。レーザーの内臓ビームを防ぎます。

埋め込み型レーザー

波長 645 ~ 660 nm

拡がり角 < 1.5 mrad、IEC 60825-1 による最低値。

最大出力 < 10 mW

注意 - 本書で記されていない管理、調整、手続きの実行は有害な放射物の露出を引き起こす可能性があります。

防滴・防塵規格

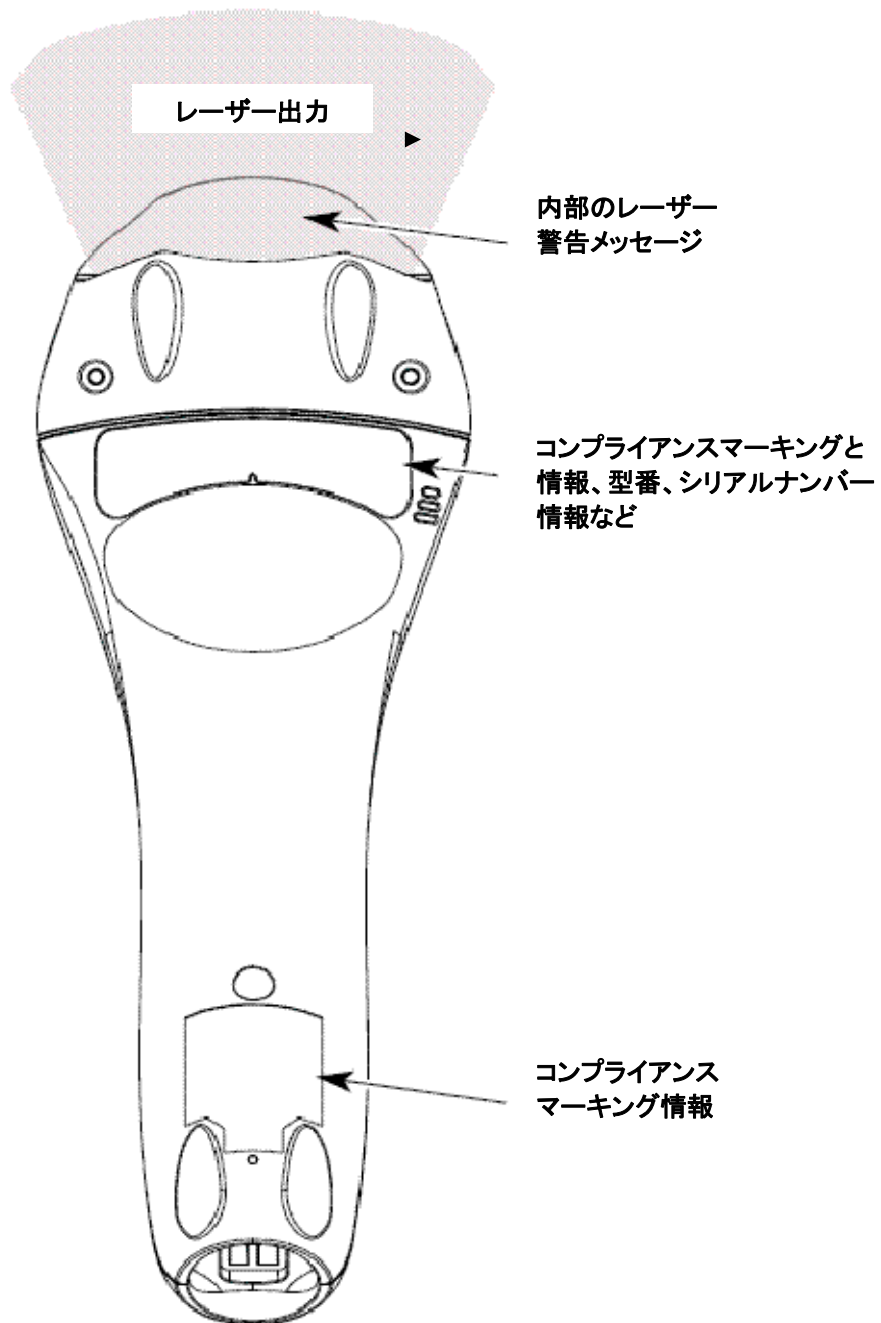
Voyager 1202g は IP42 等級で、外部粒子と水滴に対して耐性があります。

特許

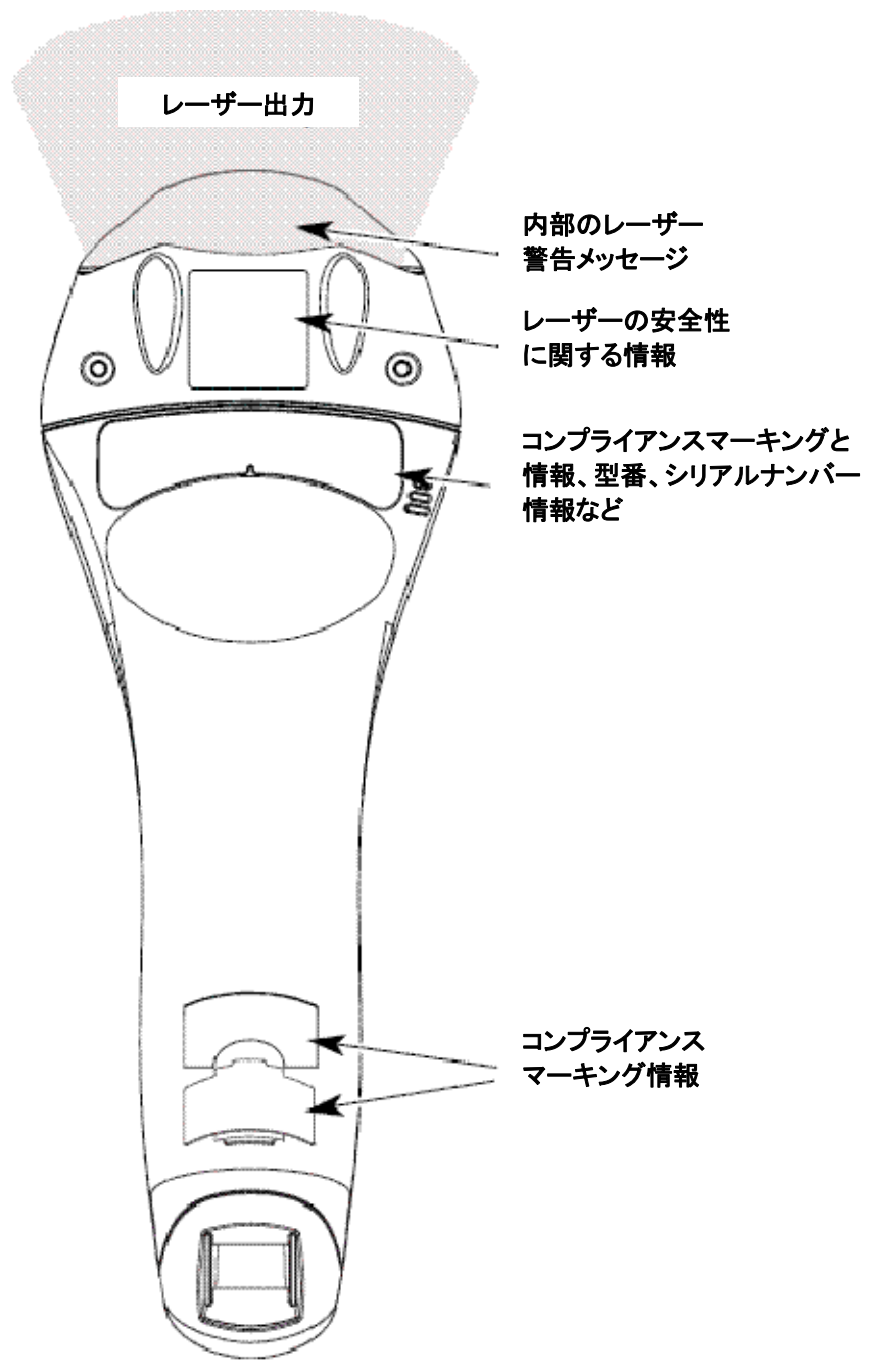
特許の一覧については、製品のパッケージを参照のこと。

求められる安全ラベル

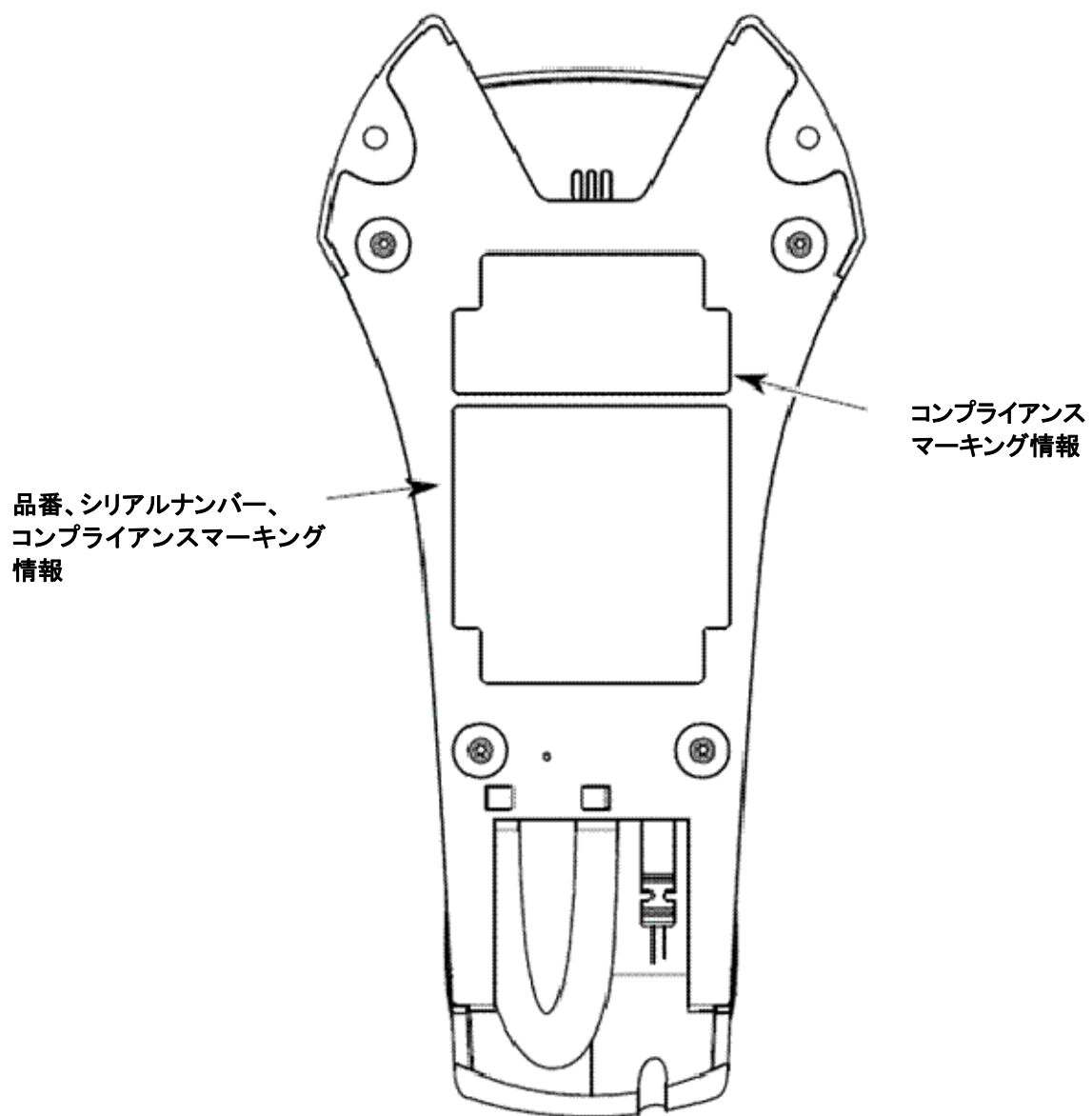
Voyager 1200g 安全ラベルの位置



Voyager 1202g 安全ラベルの位置



CCB00-010BT 安全ラベルの位置





目次

第1章:はじめに	1-1
本マニュアルについて	1-1
製品の開梱	1-1
スキャナの接続	1-2
USB での接続	1-2
キーボードウェッジでの接続	1-3
RS232 シリアルポートでの接続	1-4
RS485 での接続	1-5
読み取り方法	1-6
メニューバーコードのセキュリティ設定	1-7
カスタムデフォルト設定	1-7
カスタムデフォルトへのリセット	1-8
工場出荷時初期設定へのリセット	1-8
第2章: インターフェースの設定	2-1
はじめに	2-1
インターフェースの設定 – プラグ&プレイ	2-1
キーボードウェッジ	2-1
IBM PS2 キーボード	2-1
RS232 シリアルポート	2-2
RS485	2-2
OPOS モード	2-3
USB IBM SurePOS	2-4
IBM 補助インターフェース	2-4
パソコン USB もしくはマッキントッシュキーボード	2-5
USB HID	2-5
HID フォールバックモード	2-5
USB シリアルコマンド	2-6
USB シリアルエミュレーション	2-6
CTS/RTS エミュレーション	2-6
ACK/NAK モード	2-7
通信タイムアウト	2-7
NAK の再試行	2-8
ACK/NAK での BEL/CAN サポート	2-8
Verifone® Ruby 端末の初期設定	2-9
Gilbarco®端末の初期設定	2-9
ハネウェル2面式カウンタースキャナの補助ポート設定	2-10
Datalogic™ Magellan©2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定	2-10
NCR 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定	2-11
Wincor Nixdorf 端末の初期設定	2-11
Wincor Nixdorf Beetle™端末の初期設定	2-12
国別キーボード	2-13
キーボードウェッジの設定	2-15
ALT モード	2-15
キーボードスタイル	2-15
キーボード変換	2-16
キーボード設定	2-17
スキャンコード間ディレー	2-18
<F0> ブレイク文字	2-18
キーボードウェッジの初期設定	2-18

RS232 の設定.....	2-19
RS232 ボーレート.....	2-19
RS232 ワード長：データビット、ストップビット、パリティ.....	2-20
RS232 ハンドシェイク.....	2-21
RS232 タイムアウト.....	2-22
XON/XOFF.....	2-23
ACK/NAK.....	2-23
通信タイムアウト.....	2-23
NAK の再試行.....	2-24
ACK/NAK での BEL/CAN サポート.....	2-25
RS232 デフォルト設定.....	2-25
NCR 設定.....	2-25
NCR ACK/NAK.....	2-25
ブロックチェックキャラクタ.....	2-26
NCR プリフィクス.....	2-26
NCR サフィックス.....	2-26
NCR プリフィクス/サフィックス.....	2-27
NCR NOF (Not-on-File) エラー.....	2-27
スキャナから 2 面式カウンタースキャナへの通信.....	2-27
スキャナ - 2 面式カウンタースキャナパケットモード.....	2-28
ACK/NAK.....	2-28
通信タイムアウト.....	2-28
第 3 章：コードレスシステムの操作.....	3-1
コードレスチャージベースの仕組.....	3-1
スキャナのチャージベースへの接続.....	3-1
コードレスシステムとホストデバイス間の通信.....	3-2
RF (無線周波) モジュールの操作.....	3-2
システム条件.....	3-3
通信プロセス.....	3-3
スキャナが通信可能範囲外にあるとき.....	3-3
スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき.....	3-3
バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り.....	3-3
ページ(呼出し)ボタン.....	3-3
バッテリーについて.....	3-4
Voyager 1202g バッテリーの取り外し.....	3-4
充電について.....	3-5
バッテリーについての推奨事項.....	3-5
リチウム電池の安全に関する注意事項.....	3-5
バッテリーの適切な処分.....	3-6
フラッシュアップデート.....	3-6
ブザー・LED のシーケンスと意味.....	3-6
スキャナの LED シーケンスと意味.....	3-6
ベースユニットの LED シーケンスと意味.....	3-7
ベースユニットのパワー通信インジケータ.....	3-7
スキャナのリセット.....	3-8
スキャナをベースに置いた状態での読み取り.....	3-8
ページング(スキャナの呼び出し).....	3-9
ページングモード(スキャナの呼び出し).....	3-9
ページング(呼び出し)音の音程.....	3-9
スキャナアドレス.....	3-10
ベースユニットアドレス.....	3-10
スキャナモード.....	3-11
充電限定モード.....	3-11
通信モード.....	3-12
通信固定モード:スキャナ 1 台の場合.....	3-12

通信オープンモード	3-12
スキャナとの通信解除	3-13
通信の上書き	3-13
通信範囲外アラーム	3-13
アラーム音の種類	3-14
アラームの鳴動時間	3-14
スキャナパワータイムアウトタイマー	3-14
バッチモード	3-15
バッチモード: ブザー音	3-16
バッチモード: 個数	3-16
個数の入力	3-17
個数コード	3-18
最後のコードを削除	3-19
レコードカウンター	3-19
レコードの合計件数	3-19
バッチモード: 出力順序	3-20
データ送信後にすべてのデータを削除	3-20
すべてのコードを削除	3-20
レコードの自動送信	3-21
ホストシステムへのデータ送信	3-21
バッチモード: 送信ディレー(間隔)	3-22
スキャナ名	3-22
Bluetooth 対応機器との併用	3-24
スキャナの Bluetooth 暗証コード変更	3-24
Bluetooth/ISM 帯域ネットワーク干渉の最小化	3-25
自動再接続モード	3-25
再接続試行最高限度回数	3-26
再接続タイムアウト	3-27
Bluetooth / ISM ネットワークアクティビティの例	3-27
スキャナおよびベースユニットのリセット	3-28
第 4 章: 入力・出力設定	4-1
起動ブザー	4-1
BEL キャラクタでのブザー音	4-1
読み取り成功および失敗時のインジケータ	4-2
ブザー: 読み取り成功時	4-2
ブザー音量: 読み取り成功時	4-2
ブザー音程: 読み取り成功時	4-3
ブザー順序: データ送信	4-3
ブザー音程: 読み取り失敗またはエラー発生時	4-3
ブザーの長さ: 読み取り成功時	4-4
ブザー回数: 読み取り成功時	4-4
ブザー回数: 読み取り失敗時およびエラー発生時	4-4
LED インジケータ	4-5
LED 設定	4-5
LED の明るさ	4-6
スタンド使用時・スタンド不使用時の動作設定	4-7
スタンド使用時、不使用時の初期設定	4-7
プレゼンテーションモード	4-7
マニュアルトリガーモード	4-8
読み取り成功後のマニュアルトリガーモードの終了	4-9
マニュアルトリガーモード時のレーザータイムアウト: ボタンの設定	4-10
物体検出モード	4-11
読み取り成功後の物体検出モード終了	4-12
物体検出モード時のレーザータイムアウト	4-12

物体検出距離.....	4-13
シリアルトリガーモード：起動.....	4-13
起動キャラクタ.....	4-14
読み取り成功後のシリアルトリガーモードの終了.....	4-14
シリアルトリガーモード時のレーザータイムアウト.....	4-14
シリアルトリガーモード：終了.....	4-15
終了キャラクタ.....	4-15
同一シンボル再読み取りのディレー（間隔）.....	4-16
ユーザー定義の再読み取りディレー（間隔）.....	4-16
アウトプットシーケンスの概要.....	4-17
アウトプットシーケンスの要求.....	4-17
アウトプットシーケンスエディタ.....	4-17
アウトプットシーケンスの追加.....	4-17
他のプログラミング設定.....	4-18
アウトプットシーケンスの例.....	4-18
アウトプットシーケンスエディタ.....	4-19
シーケンスタイムアウト.....	4-19
シーケンス一致のブザー.....	4-20
部分的シーケンス.....	4-20
アウトプットシーケンスの要求.....	4-21
No Read.....	4-21
第5章：データの編集.....	5-1
プリフィクス/サフィックスについて.....	5-1
プリフィクスまたはサフィックスの追加手順.....	5-2
1つまたはすべてのプリフィクス・サフィックスの削除.....	5-2
全シンボル体系へのキャリッジリターンサフィックス追加.....	5-3
プリフィクスの選択.....	5-3
サフィックスの選択.....	5-4
代替拡張 ASCII キャラクタの送信.....	5-4
代替拡張 ACSII キャラクタ表.....	5-5
ファンクションコード送信.....	5-6
通信チェックキャラクタ.....	5-6
キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間のディレー（間隔）.....	5-7
キャラクタ間ディレー.....	5-7
ユーザー指定のキャラクタ間ディレー.....	5-7
ファンクション間ディレー.....	5-8
メッセージ間ディレー.....	5-8
第6章：データフォーマット.....	6-1
データフォーマットエディタについて.....	6-1
データフォーマットの追加.....	6-2
その他のプログラミング.....	6-3
ターミナル ID 表.....	6-4
データフォーマットエディタコマンド.....	6-4
送信コマンド.....	6-4
移動コマンド.....	6-5
検索コマンド.....	6-6
その他のコマンド.....	6-7
データフォーマッタ.....	6-9
データフォーマット不適合エラーブザー.....	6-10
基準/代用データフォーマット.....	6-11
シングルスキャンデータフォーマット変更.....	6-11
第7章：シンボル.....	7-1
すべてのシンボル.....	7-1
読み取り桁数.....	7-2
Codabar.....	7-3

Codabar 有効/無効	7-3
Codabar スタート/ストップキャラクタ	7-3
Codabar チェックキャラクタ	7-3
Codabar 連結機能	7-4
連結タイムアウト	7-5
Codabar 照合設定	7-5
Codabar 読み取り桁数	7-5
Code 39	7-6
Code 39 有効/無効	7-6
Code 39 スタート/ストップキャラクタ	7-6
Code 39 チェックキャラクタ	7-6
Code 39 照合設定	7-7
Code 39 読み取り桁数	7-7
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	7-8
Full ASCII	7-8
Interleaved 2 of 5 (ITF)	7-9
Interleaved 2 of 5 有効/無効	7-9
Follett フォーマット	7-9
NULL キャラクタ	7-9
チェックデジット	7-10
Interleaved 2 of 5 照合設定	7-10
Interleaved 2 of 5 読み取り桁数	7-11
NEC 2 of 5	7-12
NEC 2 of 5 有効/無効	7-12
チェックデジット	7-12
NEC 2 of 5 照合設定	7-13
NEC 2 of 5 読み取り桁数	7-13
Code 93	7-14
Code 93 有効/無効	7-14
Code 93 照合設定	7-14
Code 93 読み取り桁数	7-14
Straight 2 of 5 Industrial (3バー スタート/ストップ)	7-15
Straight 2 of 5 Industrial 有効/無効	7-15
Straight 2 of 5 Industrial 照合設定	7-15
Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数	7-16
Straight 2 of 5 IATA (2バー スタート/ストップ)	7-16
Straight 2 of 5 IATA 有効/無効	7-16
Straight 2 of 5 IATA 照合設定	7-17
Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数	7-17
Matrix 2 of 5	7-18
Matrix 2 of 5 有効/無効	7-18
Matrix 2 of 5 チェックキャラクタ	7-18
Matrix 2 of 5 照合設定	7-19
Matrix 2 of 5 読み取り桁数	7-19
Code 11	7-20
Code 11 有効/無効	7-20
必要チェックデジット数	7-20
チェックデジットの有効化	7-21
Code 11 照合設定	7-21
Code 11 読み取り桁数	7-21
Code 128	7-22
Code 128 有効/無効	7-22
128 グループ分離キャラクタ出力	7-22
Code 128 照合設定	7-23
Code 128 読み取り桁数	7-23

ISBT 128.....	7-23
連結タイムアウト.....	7-24
ISBT 128 定義済連結シーケンス.....	7-24
ISBT 128 定義済連結シーケンスの有効/無効.....	7-25
ISBT 128 ユーザー定義の連結シーケンス.....	7-25
ISBT 128 ユーザー定義の連結シーケンス 有効/無効.....	7-27
コンテンツ確認.....	7-27
送信 ID.....	7-28
フラグ変換.....	7-28
GS1-128.....	7-29
GS1-128 有効/無効.....	7-29
GS1-128 アプリケーション識別子パーズング.....	7-29
GS1-128 照合設定.....	7-30
GS1-128 読み取り桁数.....	7-30
Telepen.....	7-31
Telepen 有効/無効.....	7-31
Telepen 出力.....	7-31
Telepen 照合設定.....	7-32
Telepen 読み取り桁数.....	7-32
UPC-A.....	7-33
UPC-A 有効/無効.....	7-33
UPC-A のナンバーシステムとチェックデジット.....	7-33
UPC-A システム番号.....	7-33
UPC-A チェックデジット.....	7-34
UPC-A アドオン.....	7-34
UPC-A アドオンの要求.....	7-35
アドオンのタイムアウト.....	7-35
UPC-A アドオンセパレーター.....	7-35
UPC-A 照合設定.....	7-36
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13.....	7-37
ナンバーシステム 4 の UPC-A アドオン要求.....	7-37
ナンバーシステム 5 の UPC-A アドオン要求.....	7-38
アドオンタイムアウト.....	7-39
UPC-E0.....	7-40
UPC-E0 有効/無効.....	7-40
UPC-E0 の拡張.....	7-40
UPC-E0 ナンバーシステム.....	7-41
UPC-E0 のナンバーシステムとチェックデジット.....	7-41
UPC-E0 先頭の 0.....	7-42
UPC-E0 アドオン.....	7-42
UPC-E0 アドオン要求.....	7-43
アドオンタイムアウト.....	7-43
UPC-E0 アドオンセパレーター.....	7-43
UPC-E0 照合設定.....	7-44
EAN/JAN-13.....	7-45
EAN/JAN-13 有効/無効.....	7-45
EAN/JAN-13 チェックデジット.....	7-45
EAN/JAN-13 アドオン.....	7-46
EAN/JAN-13 アドオン要求.....	7-46
2 から始まる EAN-13 アドオン要求.....	7-47
290 から始まる EAN-13 アドオン要求.....	7-48
378/379 から始まる EAN-13 アドオン要求.....	7-49
414/419 から始まる EAN-13 アドオン要求.....	7-50
434/439 から始まる EAN-13 アドオン要求.....	7-51
977 から始まる EAN-13 アドオン要求.....	7-52

978 から始まる EAN-13 アドオン要求	7-53
979 から始まる EAN-13 アドオン要求	7-54
アドオンタイムアウト	7-55
EAN/JAN-13 アドオンセパレータ	7-55
EAN/JAN-13 照合設定	7-55
ISBN 変換	7-56
ISBN 13 桁への変換	7-56
ISBN 再変換	7-56
ISSN 変換	7-57
ISSN 再変換	7-57
EAN/JAN-8	7-58
EAN/JAN-8 有効/無効	7-58
EAN/JAN-8 チェックデジット	7-58
EAN/JAN-8 アドオン	7-59
EAN/JAN-8 アドオン要求	7-59
アドオンタイムアウト	7-60
EAN/JAN-8 アドオンセパレータ	7-60
EAN/JAN-8 照合設定	7-60
MSI	7-61
MSI 有効/無効	7-61
MSI チェックキャラクタ	7-61
MSI 照合設定	7-62
MSI 読み取り桁数	7-62
Plessey	7-63
Plessey コード 有効/無効	7-63
Plessey チェックキャラクタ	7-63
Plessey 照合設定	7-64
Plessey 読み取り桁数	7-64
GS1 データバー 標準型 (オムニディレクショナル)	7-65
GS1 データバー標準型 有効/無効	7-65
GS1 データバー標準型 照合設定	7-65
GS1 データバー限定型 (リミテッド)	7-66
GS1 データバー限定型 有効/無効	7-66
GS1 データバー限定型 照合設定	7-66
GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド)	7-67
GS1 データバー拡張型 有効/無効	7-67
GS1 データバー拡張型 照合設定	7-67
GS1 データバー拡張型 読み取り桁数	7-67
Trioptic Code	7-68
Trioptic Code 有効/無効	7-68
GS1 エミュレーション	7-69
郵便コード	7-70
中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5)	7-70
中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 有効/無効	7-70
中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 照合設定	7-70
中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 読み取り桁数	7-71
第8章：インターフェースキー	8-1
第9章：ユーティリティ	9-1
すべてのシンボル体系へのテストコード ID プリフィクス追加	9-1
ソフトウェアの改訂情報表示	9-1
データフォーマットの表示	9-1
テストメニュー	9-2
EZConfig について	9-2
EZConfig の操作	9-2
ウェブからの EZConfig のインストール	9-3

第 10 章 : シリアルプログラミングコマンド	10-1
記述上の語句.....	10-1
メニューコマンドシンタックス (構文)	10-1
質問コマンド.....	10-2
:Name:フィールドの使い方 (オプション).....	10-2
Tag フィールドの使い方	10-2
SubTag フィールドの使い方	10-2
Data フィールドの使い方.....	10-2
複数コマンドの連結機能.....	10-2
レスポンス.....	10-3
質問コマンドの例.....	10-3
シリアルトリガーコマンド.....	10-4
読み取りタイムアウト.....	10-4
標準の製品初期設定へのリセット.....	10-4
メニューコマンド	10-5
第 11 章 : 製品仕様	11-1
CCB00-010BT 取り付け図.....	11-4
標準ケーブルのピン配列.....	11-5
キーボードウェッジ	11-5
標準ケーブルのピン配列	11-6
シリアルアウトプット.....	11-6
標準ケーブルのピン配列.....	11-7
標準ケーブルのピン配列.....	11-8
第 12 章 : 保守	12-1
修理	12-1
保守	12-1
機器の清掃.....	12-1
ケーブルとコネクタの点検	12-1
ケーブル交換	12-2
コードレスシステムのケーブルの交換	12-2
Voyager スキャナのトラブルシューティング.....	12-3
第 13 章 : カスタマーサポート	13-1
テクニカルサポート.....	13-1
製品のサービスと修理	13-1
オンラインでの製品のサービスと修理.....	13-2
条件付保証	13-3
付録チャート	A-1
シンボルチャート	A-1
ASCII 変換チャート (コードページ 1252)	A-3
印刷バーコードのコードページマッピング.....	A-6
サンプルシンボル	A-7
プログラミングチャート	9

はじめに

本マニュアルについて

本書では、Voyager 1200g/1202g シングルラインレーザースキャナの取り付けとプログラム設定の手順について説明しています。また、製品の仕様、外形寸法、保証内容、およびカスタマーサポートに関する情報も含まれています。

ハネウエルのバーコードスキャナは、工場出荷時に一般的な端末および通信装置用にプログラム設定されています。設定変更が必要な場合は、本書記載のバーコードを読み取って設定を変更してください。尚、アスタリスク（*）がついているオプションは工場出荷時の設定を示しています。

製品の開梱

梱包箱開封後、以下の手順に従ってください。

- 出荷時の損傷がないか、確認します。損傷があった場合は、すみやかに配送した運送会社へ連絡してください。
- 箱の中身に間違いがないか確認します。
- 返却もしくは保管用に、梱包箱はそのまま保管ください。

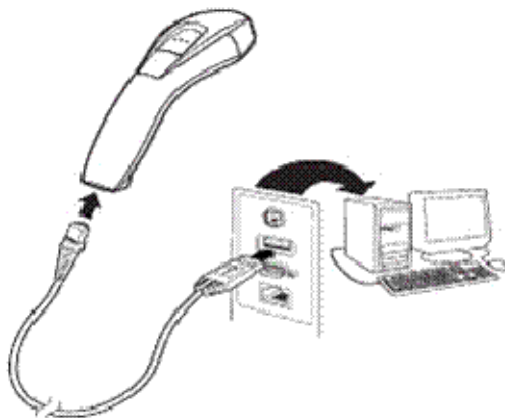
スキャナの接続

USB での接続

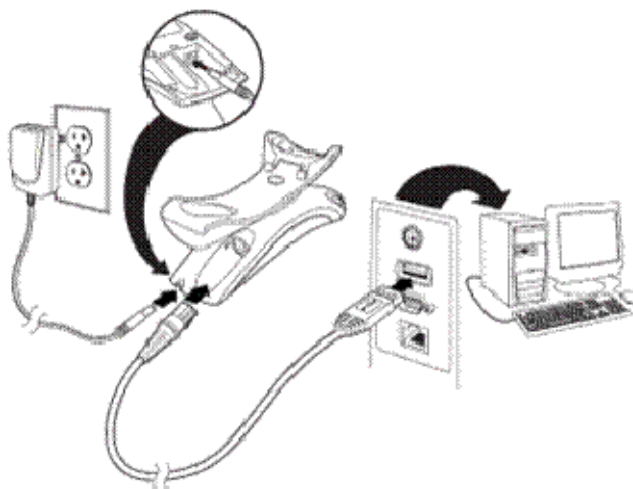
スキャナは、ホストデバイスの USB ポートに接続することができます。

1. まず、適切なインターフェースケーブルと接続し、次にホストデバイスと接続します。
2. 1202g の場合、ケーブルがベースユニット底部にあるコネクタに接続されたことを確認し、ベースユニットが水平面に平らに置かれるよう注意してください。
3. スキャナからピーツという音がします。
4. 本書裏表紙のサンプルシンボルページにあるバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。

この機器は、PC の USB キーボード用に初期設定されています。その他の USB 端末との接続については、本書の [2-5 ページ](#) をご参照ください。その他の USB のプログラム設定と技術情報については、当社ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) の「USB Application Note」をご参照ください。



通信充電ベースユニットの USB 接続



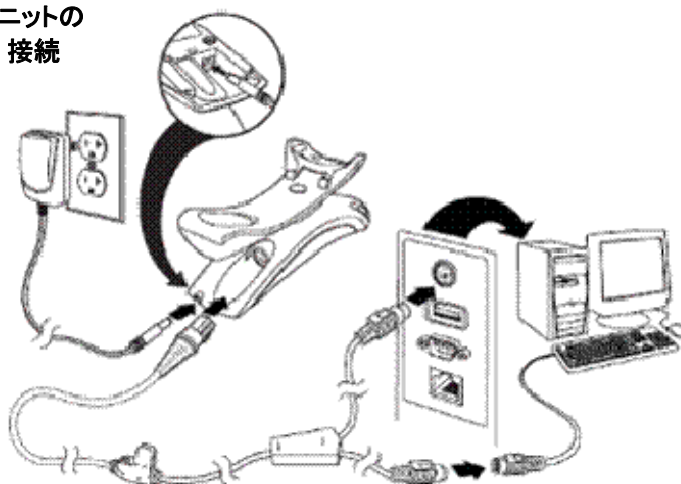
キーボードウェッジでの接続

スキャナはキーボードとコンピュータの間を「キーボードウェッジ」で接続できます。他にもシリアルポートとの接続や、またはワンドエミュレーション・モードやノンデコード出力モードでポータブルデータ端末に接続できます。以下はキーボードウェッジ接続の一例です。

1. ホストデバイスの電源をオフにし、裏側のキーボードケーブル接続をはずします。
2. 適切なインターフェースケーブルを当機器およびホストデバイスに接続します。
3. 1202g の場合、ケーブルがベースユニット底部にあるコネクタに接続されたことを確認し、ベースユニットが水平面に平らに置かれるよう注意してください。



通信充電ベースユニットの キーボードウェッジ 接続



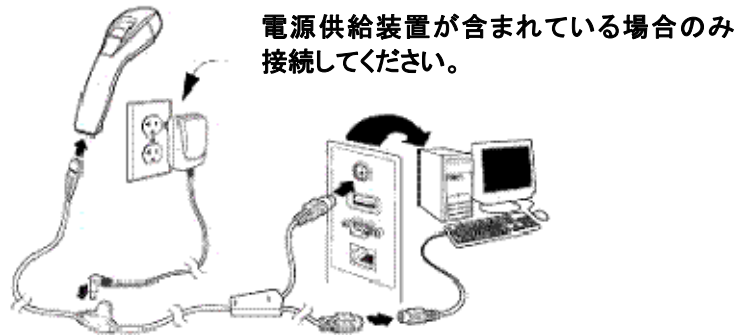
4. ホストデバイスの電源をオンにします。スキャナからピーツという音がします。
5. 本書裏表紙のサンプルシンボルページにあるバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。スキャナが一度鳴ります。

お使いのスキャナは、IBM PC AT およびその互換機の米国キーボード用キーボードウェッジインターフェースに設定されています。バーコードデータにはキャリッジリターン (CR) サフィックスが追加されます。

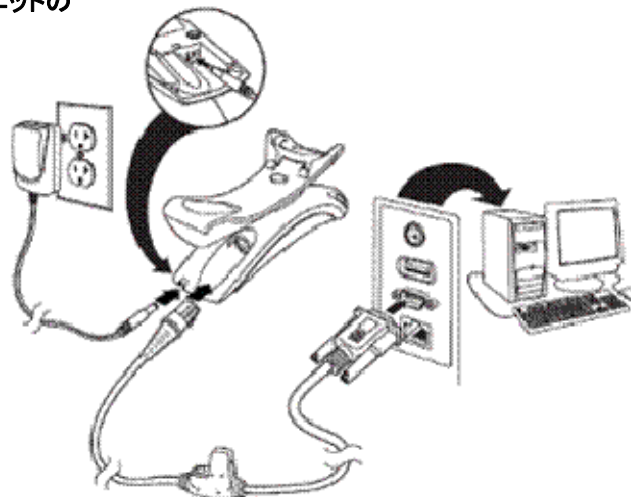
RS232 シリアルポートでの接続

1. ホストデバイスの電源をオフにします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続します。

注意：スキャナおよびベースユニットを正常に動作させるには、コンピューターや端末に合った適切なケーブルを使用してください。



通信充電ベースユニットの RS232C 接続



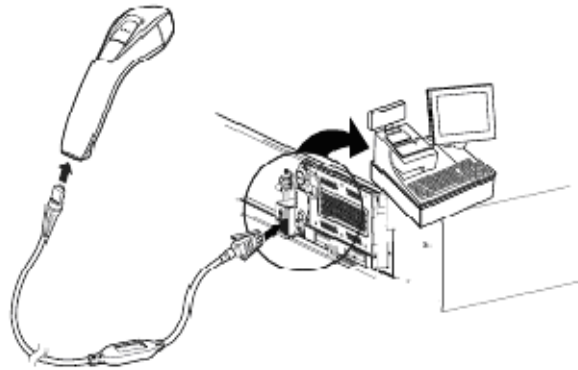
3. 1202g の場合、ケーブルがベースユニット底部にあるコネクタに接続されたことを確認し、ベースユニットが水平面に平らに置かれるよう注意してください。
4. シリアルコネクタをホストデバイスのシリアルポートに差し込みます。2本のネジを締めてコネクタをポートに固定します。
5. スキャナの接続が完了したら、ホストデバイスの電源を入れます。

このインターフェースはボーレート 9600、8 データバイト、パリティなし、1 ストップビットに設定されています。

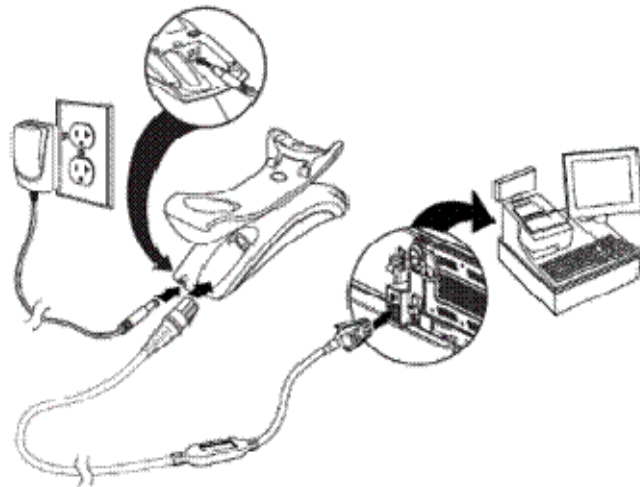
RS485 での接続

このスキャナは IBM POS 端末と接続できます。

1. まず、適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続した後、ホストデバイスに接続します。
2. 1202g の場合、ケーブルがベースユニット底部にあるコネクタに接続されたことを確認し、ベースユニットが水平面に平らに置かれるよう注意してください。



通信充電ベースユニットの RS485 接続



3. ホストデバイスの電源をオンにします。スキャナからピーツという音がします。
4. 本書裏表紙のサンプルシンボルページにあるバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。スキャナが一度鳴ります。

詳しい RS485 の設定については、[2-2 ページ](#)の RS485 の項を参照してください。

読み取り方法

スキャナにはスキャナの横方向の視界に相当する明るい赤のエイミングビームを投射するビューファインダがあります。エイミングビームは横向きにバーコードの中央に合わせ、すべてのバーコードの縦線に光が当たるようにしてください。ただし、読み取りやすくするためにどの方向にしてもかまいません。



エイミングビームは、スキャナがバーコードに近づくと小さくなり、遠ざかると大きくなります。バーまたはエレメントが小さいシンボル（ミルサイズ）はスキャナを近づけて読み取り、大きなシンボル（ミルサイズ）は離して読み取ってください。1個または複数のシンボル（1ページまたは1個の物体の）を読み取る時は、目標から適切な距離でスキャナを保持し、ボタンを押し、エイミングビームをシンボルの中心に合わせます。読み取るバーコードの反射が大きい場合は（ラミネートされている場合など）、無用な反射を避けるため、バーコードを15度～18度傾けることが必要な場合があります。

メニューバーコードのセキュリティ設定

ハネウェルのスキャナはメニューバーコードを読み取るか、シリアルコマンドを送ることでプログラム設定されます。メニューコードの読み取りを規制したい場合は、メニューバーコードのセキュリティ設定を利用してください。詳しくは、お近くのテクニカルサポートオフィス（[13-1 ページ](#)の『テクニカルサポート』を参照）にご連絡ください。

カスタムデフォルト設定

お客様自身のカスタムデフォルトのメニューコマンドをお作りになることができます。そのためには、保存したいメニューコマンドもしくはシーケンスの前に以下の **Set Custom Defaults** バーコードを読み取ってください。コマンドが裏表紙から数字のコードを読み取る必要がある場合は、そのあとに **Save (保存)** のコードを読み取ればシーケンス全体がカスタムデフォルトとして保存されます。次のカスタムデフォルトのためのコマンドを保存する前に **Set Custom Defaults** コードを再度読み取ります。

保存したいカスタムデフォルトをすべて入力したあとは、**Save Custom Defaults** バーコードを読み取ります。



Set Custom Defaults
(カスタムデフォルト設定)

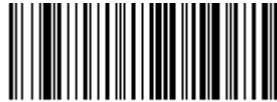


Save Custom Defaults
(カスタムデフォルト保存)

複数のカスタムデフォルトがあり、そのうち1つの設定を変えたい場合は、古い設定を上書きするだけです。例えば、ブザー音量をカスタムデフォルトでは低に設定しており、高に設定しようと思う場合、**Set Custom Defaults** バーコードを読み取り、それから **Beeper Volume High** のメニューコードを読み取った後に **Save Custom Defaults** を読み取るだけです。他のカスタムデフォルトは残り、ブザー音量の設定は更新されません。

カスタムデフォルトへのリセット

ご使用のスキヤナでカスタムデフォルトを修復したい場合、以下の **Activate Custom Defaults** バーコードを読み取ってください。これはスキヤナの設定をカスタムデフォルト設定に再設定するものです。カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時の初期設定値になります。カスタムデフォルトによって指定されていない設定はすべて工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

Active Custom Defaults
(カスタムデフォルトへ戻す)

注意：1202g コードレスシステムを使用している場合、上記のバーコードを読み取るとスキヤナおよびベースユニット両方をリセットし、通信を切断してしまいます。その際にカスタムデフォルトが設定されてないと、スキヤナは工場出荷時初期設定に戻されます。通信を再度接続できるように、設定バーコードを読み取る前にスキヤナをベースユニットの置いてください。その他詳細につきましては、[3-1 ページ](#)の「コードレスシステムの操作」をご覧ください。

工場出荷時初期設定へのリセット



警告：これを選択するとスキヤナの設定を消去し、元々の工場出荷時初期設定値に再設定されますのでご注意ください。

お使いのスキヤナのプログラミングオプション状態がわからない場合や、オプションを変更し、スキヤナの工場出荷時初期設定を修復したい場合は、まず、**Remove Custom Defaults (カスタムデフォルトの削除)** バーコードを読み取った後、**Activate Defaults (初期設定へ戻す)** バーコードを読み取ります。これでスキヤナは工場出荷時設定に再設定されます。



DEFOVR.

Remove Custom Defaults
(カスタムデフォルトの消去)



DEFAULT.

Activate Defaults
(初期設定へ戻す)

注意：1202g コードレスシステムを使用している場合、**Activate Defaults** バーコードを読み取るとスキヤナおよびベースユニット両方をリセットし、通信を切断してしまいます。その際にカスタムデフォルトが設定されていないと、スキヤナは工場出荷時初期設定に戻されます。通信を再度接続できるように、設定バーコードを読み取る前にスキヤナをベースユニットの置いてください。その他詳細につきましては、[3-1 ページ](#)の「コードレスシステムの操作」をご覧ください。

[10-5 ページ](#)からのシリアルプログラミングコマンド表には各コマンドの初期設定値がリストアップされています。(設定ページにアスタリスク (*) で表示)

インターフェースの設定

はじめに

この章では、最適なインターフェースのためのシステム設定についてご紹介します。

インターフェースの設定 - プラグ&プレイ

プラグ&プレイバーコードを読み取ることで、一般的なインターフェース用にスキャナを簡単に設定できます。

注意：コードの1つを読み取った後、インターフェースの設定を有効にするため、ホスト端末を再起動する必要があります。

キーボードウェッジ

ご使用のシステムを IBM PC AT 互換機や米国向けのキーボードと互換性のある キーボードウェッジインターフェースで使用される場合は、以下のバーコードを読み取ってください。キーボードウェッジは初期設定のインターフェースです。

注意：以下のバーコードはキャリッジリターン (CR) サフィックスも設定します。



PAP_AT.

IBM PC AT and Compatibles with CR Suffix
(IBM PC AT および互換機、CR サフィックスつき)

IBM PS2 キーボード

以下のバーコードを読み取ると、米国向けキーボードの IBM PS2 キーボードウェッジインターフェース用にスキャナを設定できます。

注意：以下のバーコードはキャリッジリターン (CR) サフィックスも設定します。



PAPPS2.

IBM PS2 with CR Suffix
(IBM PS2、CR サフィックスつき)

RS232 シリアルポート

RS232 インターフェースバーコード は、パソコンもしくは端末のシリアルポートとの接続に用います。以下の RS232 インターフェースバーコード もキャリッジ・リターン (CR) やラインフィード (LF) サフィックス、ならびに以下で示されるようなボーレートやデータフォーマット設定を行います。

オプション	設定
ボーレート	115,200bps
データフォーマット	8 ビット、パリティなし、1 ストップビット



PAP232.

RS232C Interface
(RS232C インターフェース 有効)

RS485

以下の「プラグ&プレイ」コードのうち 1 つを読み取り、IBM POS の端末インターフェース向けにスキャナを設定してください。

注意：コード読み取りの後、キャッシュレジスターを再起動してください。



PAPP5B.

IBM Port 5B Interface
(IBM ポート 5B インターフェース)



PAP9B1.

IBM Port 9B HHBCR-1 Interface
(IBM Port 9B HHBCR-1 インターフェース)



PAPP17.

IBM Port 17 Interface
(IBM ポート 17 インターフェース)



PAP9B2.

IBM Port 9B HHBCR-2 Interface
(IBM ポート 9B HHBCR-2 インターフェース)

上記の各バーコードは以下のそれぞれのシンボルへのサフィックスを設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC-A	0D	Code 128*	00 0A 0B
UPC-E	0A	Code 128**	00 18 0B

* このサフィックスは IBM 4683 Port 5B、IBM 4683 Port 9B、HHBCR-1、ならびに IBM 4683 Port 17 インターフェース用の Code 128 に設定されています。

** このサフィックスは IBM 4683 Port 9 HHBCR-2 インターフェースの Code 128 用に設定されています。

OPOS モード

以下の設定バーコードを読み取って OPOS 関連の設定を変更し、スキャナを OPOS (OLE for Retail Point of Sale) 対応にすることができます。

項目	設定
インターフェース	RS232C
ボーレート	38400
RS232 ハンドシェイク	フロー制御、タイムアウトなし XON/XOFF 無効 ACK/NAK 無効
データビット、ストップビット、パリティ プリフィクス/サフィックス	8 データビット、1 ストップビット、パリティなし すべてのプリフィクスおよびサフィックスを削除 コード ID および AIM ID プリフィクスを付加 CR サフィックスを付加
キャラクタ間のディレー (間隔) シンボル	無効 チェックデジットおよびシステム番号つき UPC-A 読み取り許可 チェックデジットつき UPC-E0 読み取り許可 チェックデジットつき EAN/JAN - 8 読み取り許可 チェックデジットつき EAN/JAN - 13 読み取り許可 Code 128 読み取り許可 Code 39 読み取り許可 自動無効化つき OPOS 有効



PAPOPS.

OPOS Mode
(OPOS モード 有効)

USB IBM SurePOS

以下の「プラグ & プレイ」コードのうち 1 つを読み取り、IBM SurePOS (USB ハンドヘルドスキャナ)もしくは IBM SurePOS (USB 卓上スキャナ) インターフェイス用にスキャナの設定を変更してください。

注意：コード読み取りの後、キャッシュレジスターを再起動して、インターフェイスを有効にしてください。



PAPSPH.

USB IBM SurePOS
USB Handheld Scanner Interface
(IBM SurePOS
USB ハンドヘルドスキャナインターフェイス)



PAPSPT.

USB IBM SurePOS
USB Tabletop Scanner Interface
(IBM SurePOS
USB 卓上スキャナインターフェイス)

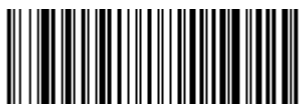
上記の各バーコードはそれぞれのシンボルに対するサフィックスも設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN - 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN - 13	16	Interleaved 2 of 5 (ITF)	00 0D 0B
UPC-A	0D	Code 128	00 18 0B
UPC-E	0A	Code 39	00 0A 0B

IBM 補助インターフェイス

旧式の IBM のキャッシュレジスターによっては、補助もしくはマネージメントインターフェイスを無効にする必要があります。特に 4690 V2R4 オペレーションシステムを使用する IBM のレジスターでは必要であると確認されています。以下のバーコードはその為の設定です。

初期設定= Enable Secondary Interface (補助インターフェイス 有効)



REMIFC1.

* Enable Secondary Interface
(補助インターフェイス 有効)



REMIFC0.

Disable Secondary Interface
(補助インターフェイス 無効)

パソコン USB もしくはマッキントッシュキーボード

以下のコードのうち 1 つを読み取り、PC の USB キーボードもしくはマッキントッシュ USB キーボード用にスキャナの設定を行ってください。これらの設定コードを読み取ると、CR（キャリッジリターン）ならびに LF（ラインフィード）も追加されます。



PAP124.

USB Keyboard – PC
(PC USB キーボード)



PAP125.

USB Keyboard – Mac
(マッキントッシュ USB キーボード)



PAP134.

USB Japanese Keyboard – PC
(PC USB 日本語キーボード)

USB HID

以下のコードを読み取り、スキャナに USB HID バーコードスキャナ用の設定を行ってください。



PAP131.

USB HID Barcode Scanner
(USB HID バーコードスキャナ)

HID フォールバックモード

スキャナに USB インターフェースを設定しようとしてホストシステムでセットアップが成功しなかった場合、セットアップの時間後、HID キーボードインターフェースに戻るようスキャナを設定することができます。例えば、スキャナがシリアルエミュレーションモードに設定されているが、ホストシステムが的確なドライバを有していない場合、スキャナの設定がうまくいかないことがあります。HID フォールバックモードをある程度の時間、たとえば 5 分後で設定すると、スキャナは 5 分間シリアルエミュレーションとして試行の後、HID キーボードインターフェースになります。

ブザー音が鳴り、このモードに入ったことを知らせます。HID フォールバックモード中、スキャナは一般のバーコードをスキャンすることができず、スキャナがフォールバックモードであることを知らせるブザー音が続きます。ただし、スキャナの設定を変更できるよう、HID フォールバックモード中でも設定コードを読み取ることができるようになっています。

以下のバーコードを読み取った後、プログラミングチャートから数字を読み取って HID フォールバックの時間（0～60 分）を設定し、最後に **Save**（保存）を読み取ってください。

初期設定= 5 分



USBFT0.

HID Fallback Mode
(HID フォールバックモード)

USB シリアルコマンド

USB シリアルエミュレーション

以下のコードを読み取り、標準の RS232 ベースの COM Port にエミュレートするようスキャナを設定してください。お客様が Microsoft® Windows® のパソコンをお使いの場合は、当社ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) からドライバをダウンロードしていただく必要がございます。このドライバには以下の COM Port 番号を用います。Apple® Macintosh コンピュータはスキャナを USB CDC クラスデバイスと見なし、クラスドライバを自動的に用います。どちらのバーコード設定の場合も、CR と LF が追加されます。



PAP130.

USB Serial Emulation for Windows XP, Windows Server 2003, and later
(USB シリアルエミュレーション – Windows XP、Windows Server およびそれ以降)



REMIFC0;PAP130.

USB Serial Emulation for Windows 2000
(USB シリアルエミュレーション – Windows 2000)

注意：その他の設定（ボーレートなど）は、必要ありません。

CTS/RTS エミュレーション



USBCTS1.

CTS/RTS Emulation On
(CTS/RTS エミュレーション 有効)



USBCTS0.

*** CTS/RTS Emulation Off**
(CTS/RTS エミュレーション 無効)

ACK/NAK モード



USBACK1.

ACK/NAK Mode On
(ACK/NAK モード 有効)



USBACK0.

*** ACK/NAK Mode Off**
(ACK/NAK モード 無効)

通信タイムアウト

この設定ではホストの ACK/NAK レスポンスタイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定できます。以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ってタイムアウト時間（0～65535 ミリ秒）を設定し、最後に **Save（保存）** を読み取ってください。

初期設定= 2000 ミリ秒



232DLK.

Communication Timeout
(通信タイムアウト)

タイムアウト再試行

この設定は、通信タイムアウトの再試行回数を制限します。再試行回数を 0 に設定した場合、最初の通信タイムアウトの後、送信は中止されます。

以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取って再試行回数（0～255）を設定し、最後に **Save（保存）** を読み取ってください。（推薦設定値は 5 です。）

初期設定= 0



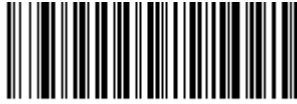
HSTRTY.

Timeout Retries
(タイムアウト 再試行)

通信タイムアウトブザー

この設定を有効にすると、通信タイムアウトが発生した際にスキャナからエラーブザーが鳴るように設定できます。エラーブザー音はブザー回数 - エラー ([4-4 ページ](#)) から設定できます。

初期設定= On



HSTTOAD.

Off
(無効)



HSTTOA1.

* On
(有効)

NAK の再試行

この設定を有効にすると、ACK/NAK モード中の NAK の再試行回数を制限できます。以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取って再試行回数 (0~255) を設定し、最後に **Save (保存)** を読み取ってください。(推薦設定値は5です。)

初期設定= 0 もしくは disabled (無効)



HSTRTN.

NAK Retries
(NAK 再試行)

ACK/NAK での BEL/CAN サポート

このプロトコルでは、スキャナが ACK/NAK モードの場合に<BEL>ならびに<CAN>コマンドに応答します。<BEL> コマンドがホストから発せられた場合、スキャナはエラーブザー音を発します。ホストから<CAN>が発せられた場合には、送信を終了します。

初期設定= BEL/CAN Off (BEL/CAN 無効)



BELCAN1.

BEL/CAN On
(BEL/CAN 有効)



BELCAN0.

* BEL/CAN Off
(BEL/CAN 無効)

Verifone® Ruby 端末の初期設定

お使いのホストシステムが Verifone Ruby 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 1200 bps、データフォーマットを 8 データビット、マークパリティ、1 ストップビット、RTS/CTS はタイムアウトなしに設定します。また、LF（ラインフィード）サフィックスを付加し、各シンボルに対して以下のようなプリフィクス設定を行います。

シンボル	プリフィクス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN – 8	FF
EAN – 13	F



PAPRBY.

Verifone Ruby Settings
(Verifone Ruby 設定)

注意：上記のバーコードによって予期し得ない結果を得た場合は、[1-8 ページ](#)の Activate Defaults バーコードを読み取り、その後上記のバーコードを再度読み取ってください。

Gilbarco® 端末の初期設定

ホストシステムが Gilbarco 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 2400 bps に、データフォーマットを 7 データビット、偶数パリティビット、2 ストップビットに設定します。また、CR（キャリッジリターン）サフィックスを付加し、各シンボルに対して以下のようなプリフィクス設定を行います。

シンボル	プリフィクス
UPC-A	A
UPC-E	E0
EAN – 8	FF
EAN – 13	F



PAPGLB.

Gilbarco Settings
(Gilbarco 設定)

注意：上記のバーコードによって予期し得ない結果を得た場合は、[1-8 ページ](#)の Activate Defaults バーコードを読み取り、その後上記のバーコードを再度読み取ってください。

ハネウェル 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定

ハネウェル 2 面式カウンタースキャナの補助ポートにスキャナを接続する場合は、以下のプラグ & プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 38400 bps、データフォーマットを 8 データビット、パリティビットなし、1 ストップビットに設定します。また、タイムアウト付き RTS/CTS および 232 ACK/NAK も使用可能となります。



PAPBIO.

Honeywell Bioptic Settings (ハネウェル 2 面式スキャナ 設定)

注意：上記のバーコードによって予期し得ない結果を得た場合は、[1-8 ページ](#)の Activate Defaults バーコードを読み取り、その後に上記のバーコードを再度読み取ってください。

Datalogic™ Magellan© 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定

Datalogic Magellan 2 面式カウンタースキャナの補助ポートにスキャナを接続する場合は、以下のプラグ & プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 9600 bps、データフォーマットを 8 データビット、パリティビットなし、1 ストップビットに設定します。



PAPMAG.

Datalogic Magellan Bioptic Settings (データロジック 2 面式スキャナ 設定)

注意：上記のバーコードによって予期し得ない結果を得た場合は、[1-8 ページ](#)の Activate Defaults バーコードを読み取り、その後に上記のバーコードを再度読み取ってください。

NCR 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定

NCR 2 面式カウンタースキャナの補助ポートにスキャナを接続する場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。この設定では、掃除に各シンボルに対して以下のようなプリフィクス設定も行います。このバーコードはボーレートを 9600 bps、データフォーマットを 7 データビット、偶数パリティ、1ストップビット、タイムアウト付きの Message RTS/CTS に設定します。

シンボル	プリフィクス	シンボル	プリフィクス
UPC-A	A	Code 39	B1
UPC-E	E0	Interleaved 2 of 5 (ITF)	B2
EAN-8	FF	その他バーコード	B3
EAN-13	F		



PAPNCR.

NCR Bioptic Settings
(NCR 2 面式スキャナ 設定)

注意：上記のバーコードによって予期し得ない結果を得た場合は、[1-8 ページ](#)の Activate Defaults バーコードを読み取り、その後上記のバーコードを再度読み取ってください。

Wincor Nixdorf 端末の初期設定

Wincor Nixdorf 端末にスキャナを接続する場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 9600 bps、データフォーマットを 8 データビット、パリティビットなし、1ストップビットに設定します。



PAPWNX.

Wincor Nixdorf Terminal Settings
(Wincor Nixdorf 端末 設定)

注意：上記のバーコードによって予期し得ない結果を得た場合は、[1-8 ページ](#)の Activate Defaults バーコードを読み取り、その後上記のバーコードを再度読み取ってください。

Wincor Nixdorf Beetle™端末の初期設定

Wincor Nixdorf Beetle 端末にスキャナを接続する場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。この設定では、同時に各シンボルに対して以下のようなプリフィクス設定も行います。

シンボル	プリフィクス	シンボル	プリフィクス
Code 128	K	EAN-13	A
Code 93	L	GS1-128	P
Codabar (NW-7)	N	Interleaved 2 of 5 (ITF)	I
UPC-A	A0	Plessey	O
UPC-E	C	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-8	B	その他バーコード	M



PAPBTL.

Wincor Nixdorf Beetle Settings (Wincor Nixdorf Beetle 設定)

注意：上記のバーコードによって予期し得ない結果を得た場合は、[1-8 ページ](#)の Activate Defaults バーコードを読み取り、その後に上記のバーコードを再度読み取ってください。

国別キーボード

以下から該当する国コードを読み取り、自国もしくは自言語用のキーボードを設定します。原則として、以下の記号をサポートしますが、米国以外の国では特別な留意が必要です。

: @ | \$ # { } [] = / ' \ < > ~



KBDCTY0.

*** United States**
(アメリカ)



KBDCTY1.

Belgium
(ベルギー)



KBDCTY2.

Finland
(フィンランド)



KBDCTY4.

Germany
(ドイツ)



KBDCTY90.

IBM Financial
(IBM 財務)



KBDCTY91.

Arabic
(アラビア語)



KBDCTY92.

Chinese
(中国語)



KBDCTY3.

France
(フランス)



KBDCTY19.

Hungary
(ハンガリー)



KBDCTY5.

Italy
(イタリア)

国別キーボード (続き)



KBDCTY28.
Japan ASCII
(日本語 ASCII)



KBDCTY26.
Russia
(ロシア)



KBDCTY10.
Spain
(スペイン)



KBDCTY94.
Thailand
(タイ)



KBDCTY7.
United Kingdom
(英国)



KBDCTY93.
Korea
(韓国)



KBDCTY31.
Slovenia
(スロヴェニア)



KBDCTY6.
Switzerland – German
(スイス – ドイツ語)



KBDCTY24.
Truckey Q
(トルコ)



KBDCTY95.
Vietnam
(ベトナム)

キーボードウェッジの設定

ALT モード

例えば、読み取りたいバーコード e にアクセント記号のついた(è)といった拡張 ASCII チャートの特別な文字が含まれている場合、ALT モードを使用してください。(A-5 ページの拡張 ASCII 文字を参照のこと)。

注意：該当する国別キーボードコードを読み取った後、ALT モードバーコードを読み取ってください。

ALT キーと 3 文字分キーを打つ必要がある場合は、**3 Characters** バーコードを、ALT キーと 4 文字分キーを打つ必要がある場合は、**4 Characters** バーコードを読み取ることで、特別な文字として出力することができます。

初期設定= Off (無効)



KBDALT0.

* Off
(無効)



KBDALT6.

3 Characters
(3 文字)



KBDALT7.

4 Characters
(4 文字)

キーボードスタイル

Caps Lock や Shift Lock などのキーボードスタイルを設定します。キーボード変換設定を行った場合は、以下のキーボードスタイル設定はすべて上書きされます。

初期設定= Regular

Regular : Caps Lock キーがオフの場合は、Regular を使用します。



KBDSTY0.

* Regular
(通常)

Caps Lock : Caps Lock キーがオンの場合は Caps Lock を使用します。



KBDSTY1.

Caps Lock
(Caps ロック)

Shift Lock : Shift Lock キーがオンの場合は、Shift Lock を使用します。(米国向けキーボードでは通常使用できません。)



KBDSTY2.

Shift Lock
(Shift ロック)

Num Lock via Autocaps : Caps Lock の切り換えに Caps Lock キーを使用できない国 (ドイツ、フランスなど) では Autocaps via NumLock のバーコードを読み取ります。NumLock オプションは、通常の Autocaps と同じ働きをしますが、Caps Lock の現在の状態を元に戻すには NumLock キーを使用します。



KBDSTY7.

Autocaps via Num Lock
(Num ロック経由の Autocaps)

外部キーボード : 外付けキーボード (IBM AT または互換機) を使用していない場合は、**Emulate External Keyboard** を読み取ります。



KBDSTY5.

Emulate External Keyboard
(外付けキーボードエミュレーション)

注意 : **Emulate External Keyboard** のバーコードを読み取った後は、必ずコンピュータを再起動してください。

キーボード変換

アルファベットのキーボード文字を強制的にすべて大文字またはすべて小文字にできます。例えば、「abc569GK」というバーコードの場合、**Convert All Characters to Upper Case (全ての文字を大文字に変換)** バーコードを読み取ると、「ABC569GK」と出力させることができます。また、**Convert All Characters to Lower Case (全文字を小文字に変換)** バーコードを読み取ると、「abc569gk」と出力します。この設定はキーボードスタイルでの設定を上書きします。

初期設定 = Keyboard Conversion Off (キーボード変換 無効)



KBDCNV0.

* **Keyboard Conversion Off**
(キーボード変換 無効)



KBDCNV1.

Convert All Characters to Upper Case
(すべてのキャラクタを大文字に変換)



KBDCNV2.

Convert All Characters to Lower Case
(すべてのキャラクタを小文字へ変換)

キーボード設定

ここでは、CTRL+ ASCII コードやターボモードといった特別なキーボードの機能調節を行います。

Control + ASCII Mode On : スキャナは、00~1F の値（印刷不可文字については [A-3 ページ](#) の ASCII チャートを参照）で構成される ASCII 制御文字のコンビネーションを送信します。Windows は、推奨されるモードであり、すべての国別キーボードに対応しています。DOS モードは旧式モードですので、すべての国別キーボードに対応しているわけではありません。新規ユーザーは、Windows モードをお使いください。

Windows Mode Prefix/Suffix Off : スキャナは、00~1F の値（印刷不可文字については [A-3 ページ](#) の ASCII チャートを参照）で構成される ASCII 制御文字のコンビネーションを送信しますが、プリフィクスならびにサフィックスの情報転送は一切行いません。

初期設定 = Control + ASCII Mode Off (Ctrl + ASCII モード 無効)



KBDCAS2.

Windows Mode Control + ASCII Mode On
(Windows モード Control + ASCII モード 有効)



KBDCAS0.

*** Control + ASCII Mode Off**
(Control + ASCII モード 無効)



KBDCAS1.

DOS Mode Control + ASCII Mode Off
(DOS モード Control + ASCII モード 無効)



KBDCAS3.

Windows Mode Prefix/Suffix Off
(Windows モードプリフィクス/サフィックス 無効)

Numeric Keypad Mode : テンキーで入力したように数字を送信します。

初期設定 = Off (無効)



KBDNPS1.

Numeric Keypad Mode On
(数字キーパッドモード 有効)



KBDNPS0.

*** Numeric Keypad Mode Off**
(数字キーパッドモード 無効)

スキャンコード間ディレー

キーボードのキーが押されていたり、リリースされたり、もしくは押されたままの止まった状態であることをキーボードが感知した場合、キーボードは、「スキャンコード」と呼ばれる情報のパケットをホストシステムに送信します。このセクションでは、スキャンコード間の間隔を調節することができます。間隔の長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取って間隔（1～30）を設定し、最後に **Save（保存）** を読み取ってください。

初期設定= 0 (800 μ s)



KBDDLY.

Inter-scan Code Delay
(スキャンコード間のディレー)

<F0> ブレイク文字

キーボードのキーが押されていたり、リリースされたり、もしくは押されたままの止まった状態であることをキーボードが感知した場合、キーボードは、「スキャンコード」と呼ばれる情報のパケットをホストシステムに送信します。スキャンコードには「メイクコード」と「ブレイクコード」の二種類があり、「メイクコード」はキーが押されたままや止まったままのときに送信されます。「ブレイクコード」はキーがリリースされたときに送信されます。以下のバーコードで、ブレイクコードの文字シーケンス送信の可否選択することができます。

初期設定= Transmit (送信する)



KBDF0B0.

Suppress
(送信不可)



KBDF0B1.

*** Transmit**
(送信許可)

キーボードウェッジの初期設定

お使用のスキヤナにキーボードウェッジのカスタムデフォルト設定を保存したい場合は、以下の **Keyboard Wedge Defaults** バーコードを読み取ってください。この設定は、スキヤナをカスタムデフォルト設定に再設定します（[1-7 ページ](#)の『カスタムデフォルトの設定』を参照）。

カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時初期設定へと再設定します。カスタムデフォルトで指定されていない設定はすべて工場出荷時初期設定に設定されます。



KBDDFT.

Keyboard Wedge Defaults
(キーボードウェッジの初期設定)

RS232 の設定

RS232 ボーレート

スキャナからホストシステムに指定の速度でデータを送信します。ホストシステムはスキャナと必ず同じボーレートに設定してください。

初期設定 =9600



232BAD0.

300



232BAD2.

1200



232BAD4.

4800



232BAD6.

19200



232BAD8.

57600



232BAD1.

600



232BAD3.

2400



232BAD5.

*** 9600**



232BAD7.

38400



232BAD9.

115200

RS232 ワード長 : データビット、ストップビット、パリティ

データビットは、ワード長をキャラクタあたり 7 または 8 データビットに設定します。アプリケーションが ASCII HEX キャラクタの 0~7F (文字、数値、句読点) だけを必要としている場合は、7 データビットを選択してください。フルセットの ASCII 文字を使用するアプリケーションの場合は、キャラクタあたり 8 データビットを選択してください。

初期設定= 8

ストップビット : 1 または 2 に設定します。 初期設定= 1

パリティ : キャラクタビットパターンが適正かどうかをチェックします。 初期設定= None



232WRD3.

7 Data, 1 Stop, Parity Even
(7 データビット、1 ストップビット、パリティ Even)



232WRD0.

7 Data, 1 Stop, Parity None
(7 データビット、1 ストップビット、パリティ なし)



232WRD6.

7 Data, 1 Stop, Parity Odd
(7 データビット、1 ストップビット、パリティ Odd)



232WRD4.

7 Data, 2 Stop, Parity Even
(7 データビット、2 ストップビット、パリティ Even)



232WRD1.

7 Data, 2 Stop, Parity None
(7 データビット、2 ストップビット、パリティ なし)



232WRD7.

7 Data, 2 Stop, Parity Odd
(7 データビット、2 ストップビット、パリティ Odd)



232WRD5.

8 Data, 1 Stop, Parity Even
(8 データビット、1 ストップビット、パリティ Even)



232WRD2.

* 8 Data, 1 Stop, Parity None
(8 データビット、1 ストップビット、パリティ なし)



232WRD8.

8 Data, 1 Stop, Parity Odd
(8 データビット、1 ストップビット、パリティ Odd)



232WRD9.

7 Data, 1 Stop, Parity Space
(7 データビット、1 ストップビット、パリティ Space)



232WRD10.

7 Data, 2 Stop, Parity Space

(7 データビット、2 ストップビット、パリティスペース)



232WRD11.

8 Data, 1 Stop, Parity Space

(8 データビット、1 ストップビット、パリティスペース)



232WRD12.

7 Data, 1 Stop, Parity Mark

(7 データビット、1 ストップビット、パリティマーク)



232WRD13.

7 Data, 2 stop, Parity Mark

(7 データビット、2 ストップビット、パリティマーク)



232WRD14.

8 Data, 1 Stop, Parity Mark

(8 データビット、1 ストップビット、パリティマーク)

RS232 ハンドシェイク

RS232 ハンドシェイクとは、ホストデバイスからのソフトウェアコマンドを使用して、スキャナからのデータ送信を制御できるようにするものです。RTS/CTS を無効にすると、データのフロー制御は使用されません。

Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし) : 送信するデータがある場合、スキャナは RTS をアサートし、無期限にホストからアサートされた CTS を待ちます。

Character-Based Flow Control, No Timeout (キャラクタベースのフロー制御、タイムアウトなし) : スキャナに送信するキャラクタがある場合、スキャナは RTS をアサートし、無期限にホストからアサートされた CTS を待ちます。

Two-Direction Flow Control (二方向フロー制御) : スキャナはホストへの送信が可能な場合、RTS をアサートし、ホストはデバイスへの送信が可能な場合 CTS をアサートします。

Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり) : スキャナは送信するデータがある場合、RTS をアサートし、ホストにアサートされた CTS を指定された時間分 (2-22 ページの RS232 タイムアウトを参照) 待ちます。もしその時間が過ぎても CTS がアサートされていない場合、デバイスが送るバッファは取り消され、読み取りを再開します。

Character-Based Flow Control with Timeout (キャラクタベースのフロー制御、タイムアウトあり) : スキャナに送信するキャラクタがある場合、RTS をアサートし、ホストにアサートされた CTS を指定された時間分 ([2-22 ページ](#)の『RS232 タイムアウト』を参照) 待ちます。もしその時間が過ぎても CTS がアサートされていない場合、デバイスが送るバッファは取り消され、読み取りを再開します。

初期設定 = RTS/CTS Off (RTS/CTS 無効) - Voyager 1200g

RTS/CTS Off and RTS Inactive (RTS/CTS 無効 および RTS 休止) - Voyager 1202g



232CTS0.
* RTS/CTS Off
(RTS/CTS 無効)



232CTS1.
Flow Control, No Timeout
(フロー制御、タイムアウトなし)



232CTS2.
Two-Direction Flow Control
(双方向フロー制御)



232CTS9.
Character-Based Flow Control with Timeout
(キャラクタベースのフロー制御、タイムアウトあり)



232CTS10.
* RTS/CTS Off, RTS Inactive
(RTS/CTS 無効、RTS 休止)



232CTS7.
Character-Based Flow Control, No Timeout
(キャラクタベースのフロー制御、タイムアウトなし)



232CTS3.
Flow Control with Timeout
(フロー制御、タイムアウトあり)

RS232 タイムアウト

タイムアウト付きのフロー制御を用いる場合は、ホストからの CTS 待機時間の長さを設定しなければなりません。タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ってタイムアウト（1～5100 ミリ秒）を設定し、最後に **Save**（保存）を読み取ります。

初期設定=1000 ミリ秒（1 秒）



232DEL.
RS232 Timeout
(RS232C タイムアウト)

XON/XOFF

データ送信(XON/XOFF On)や送信中止(XON/XOFF Off)をスキャナに行わせる際には標準 ASCII 制御文字が用いられます。ホストシステムが XOFF キャラクタ(DC3、HEX 13)をスキャナに送信することで、送信を一時中断します。送信を再開するにはホストシステムから XON キャラクタ(DC1、HEX 11)を送信します。データ送信は、XOFF 送信によって停止された箇所から続行されます。

初期設定=XON/XOFF Off



232XON1.
XON/XOFF On
(XON/OFF 有効)



232XON0.
*** XON/XOFF Off**
(XON/OFF 無効)

ACK/NAK

データ送信後、スキャナはホストシステムからの ACK キャラクタ(HEX 06)もしくは NAK キャラクタ(HEX 15)レスポンスを待ちます。ACK を受け取ると、通信は完成し、スキャナは次のバーコードを探します。NAK を受け取ると、最後のバーコードが送信され、スキャナは ACK や NAK を再度待ち受けます。ACK/NAK プロトコルをオンにする場合は、以下の **ACK/NAK On (ACK/NAK 有効)** バーコードを読み取ってください。ACK/NAK プロトコルをオフにする場合は **ACK/NAK Off (ACK/NAK 無効)** を読み取ります。

初期設定=ACK/NAK Off (ACK/NAK 無効)



232ACK1.
ACK/NAK On
(ACK/NAK 有効)



232ACK0.
*** ACK/NAK Off**
(ACK/NAK 無効)

通信タイムアウト

この設定はホストの ACK/NAK レスポンスタイムアウト時間 (ミリ秒単位) を設定できます。以下のバーコードを読み取り、次にプログラミングチャートから数字を読み取って、タイムアウト時間 (0~65535 ミリ秒) を設定し、最後に **Save (保存)** を読み取ってください。

初期設定=2000 ミリ秒



232DLK.
Communication Timeout
(通信タイムアウト)

タイムアウト再試行

この設定は、通信タイムアウトの再試行回数を制限します。再試行回数を 0 に設定した場合、最初の通信タイムアウトの後、送信はすぐに中止されます。

以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取って、再試行回数（0～255）を設定し、最後に **Save（保存）** を読み取ってください。（推薦設定値は 5 です。）

初期設定= 0



HSTRTY.
Timeout Retries
(タイムアウト再試行)

通信タイムアウトブザー

これを選択すると、通信タイムアウトが発生した場合、スキャナからエラーブザーが鳴るように設定できます。エラーブザー音はブザー回数 - エラー ([4-4 ページ](#)) のセクションで設定できます。

初期設定= On (有効)



HSTTOA0.
Off
(無効)



HSTTOA1.
*** On**
(有効)

NAK の再試行

この機能は、ACK/NAK モードの際の NAK 再試行回数を制限します。以下のバーコードを読み取り、次にプログラミングチャートから数字を読み取って、再試行回数（0～255）を設定し、最後に **Save（保存）** を読み取ってください。（推薦設定値は 5 です。）

初期設定= 0 or disabled (無効)



HSTRTN.
NAK Retries
(NAK 再試行)

ACK/NAK での BEL/CAN サポート

このプロトコルは ACK/NAK モードでの<BEL>ならびに<CAN>コマンドに応答します。<BEL>コマンドがホストシステムから発せられた場合、スキャナはエラーブザーを発します。逆にホストシステムから<CAN>が発せされると、送信を終了します。

初期設定= BEL/CAN Off (BEL/CAN 無効)



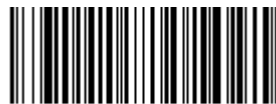
BELCAN1.
BEL/CAN On
(BEL/CAN 有効)



BELCAN0.
* BEL/CAN Off
(BEL/CAN 無効)

RS232 デフォルト設定

お使いのスキャナに RS232 のカスタムデフォルト設定を保存したい場合は、次の RS232 Defaults バーコードを読み取ってください。これはスキャナをカスタムデフォルト設定に再設定します ([1-7 ページ](#)の『カスタムデフォルト設定』を参照)。カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時初期設定へと再設定します。カスタムデフォルトで指定されていない設定はすべて工場出荷時初期設定に設定されます。



232DFT.
RS232C Defaults (RS232C の初期設定)

NCR 設定

NCR ACK/NAK

ACK/NAK 処理用の NCR 通信プロトコルです。

初期設定=NCR ACK/NAK Off (NCR ACK/NAK 無効)



NCRACK0.
* NCR ACK/NAK Off
(NCR ACK/NAK 無効)



NCRACK1.
NCR ACK/NAK On
(NCR ACK/NAK 無効)

ブロックチェックキャラクタ

この設定が Transmit (送信する) にされている場合、NCR ブロックチェックキャラクタ(BCC) は入力メッセージとともに受け取られ、出力されるメッセージとともに送信されます。

初期設定= Transmit (送信する)



NCRBCC1.
* Transmit
(送信する)



NCRBCC0.
Don't transmit
(送信しない)

NCR プリフィクス

この設定では、NCR の指定プリフィクスの設定が行えます。[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参考にして NCR プリフィクスとして追加したいキャラクタに当たる同等の HEX 値 (STX は通常 02) を見つけてください。その後次のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取って HEX 値 (0~FF) を設定した後、最後に **Save (保存)** を読み取ってください。

初期設定= 0



NCRPR2.
NCR Prefix
(NCR プリフィクス)

NCR サフィックス

NCR の指定サフィックスの設定が行えます。[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参考にして NCR サフィックスとして追加したいキャラクタに当たる同等の HEX 値 (ETX は通常 03) を見つけてください。その後次のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ることで HEX 値 (0~FF) を設定した後、Save (**保存**) を読み取ってください。

初期設定= 0



NCRSF2.
NCR Suffix
(NCR サフィックス)

NCR プリフィクス/サフィックス

Transmit (送信) に設定すると、NCR プリフィクスとサフィックスのどちらもバーコードと共に送信されます。通常、プリフィクスとサフィックスはデータ編集 (5-1 ページからのデータ編集参照) を用いて設定されますが、以下のコマンドは他のすべてのプリフィクス/サフィックス設定を上書きします。

初期設定 = Don't Transmit (送信しない)



NCRBCP1.
Transmit
(送信する)



NCRBCP0.
* Don't Transmit
(送信しない)

NCR NOF (Not-on-File) エラー

価格パラメータとバーコードの相互参照が行えない場合、スキャナは POS から NOF (Not on File) コマンドを受け取ります。この設定を有効にすると、NOF に対してエラーブザーが鳴り (4-4 ページ、ブザー回数- エラーから設定)、キャッシャーが価格を手動で探している間、スキャナを無効にします。設定を無効にすると、NOF に対して何のエラーブザーも鳴りません。

初期設定 = Off



NCRRAZ1.
On
(有効)



NCRRAZ0.
* Off
(無効)

スキャナから 2 面式カウンタースキャナへの通信

以下の設定は、ハネウエルのスキャナと 2 面式カウンタースキャナ間の通信設定に用います。

注意: 2 面式カウンタースキャナとの通信には、ボーレートを 38400 に、RS232 タイムアウトを 3000 に設定しなければなりません。詳しくは、2-19 ページの『RS232 の設定』ならびに 2-22 ページの『RS232 タイムアウト』をご参照ください。

スキャナ - 2 面式カウンタースキャナパケットモード

Packet Mode On は、2 面式カウンタースキャナとの互換性を確立する為、スキャナをフォーマットする設定です。

初期設定= Packet Mode Off (パケットモード 無効)



232PKT0.

* Packet Mode Off
(パケットモード 無効)



232PKT2.

Packet Mode On
(パケットモード 有効)

ACK/NAK

データ送信後、スキャナはホストシステムからの ACK キャラクタ(HEX 06)もしくは NAK キャラクタ(HEX 15)レスポンスを待ちます。ACK を受け取ると、通信は完成し、スキャナは次のバーコードを探します。NAK を受け取ると、最後のバーコードが送信され、スキャナは ACK や NAK を再度待ち受けします。ACK/NAK プロトコルをオンにする場合は、以下の **ACK/NAK On (ACK/NAK 有効)** バーコードを読み取ってください。ACK/NAK プロトコルをオフにする場合は **ACK/NAK Off (ACK/NAK 無効)** を読み取ります。

初期設定= ACK/NAK Off (ACK/NAK 無効)



232ACK1.

ACK/NAK On
(ACK/NAK 有効)



232ACK0.

* ACK/NAK Off
(ACK/NAK 無効)

通信タイムアウト

この設定はホストの ACK/NAK レスポンスタイムアウト時間 (ミリ秒単位) を設定できます。以下のバーコードを読み取り、次にプログラミングチャートから数字を読み取って、タイムアウト時間 (0~65535 ミリ秒) を設定し、最後に **Save (保存)** を読み取ってください。

初期設定= 2000 ミリ秒



232DLK.

Communication Timeout
(通信タイムアウト)

コードレスシステムの操作

注意：本章はコードレススキャナのみを対象としています。コードつきスキャナには適用できませんので、ご注意ください。

コードレスチャージベースの仕組

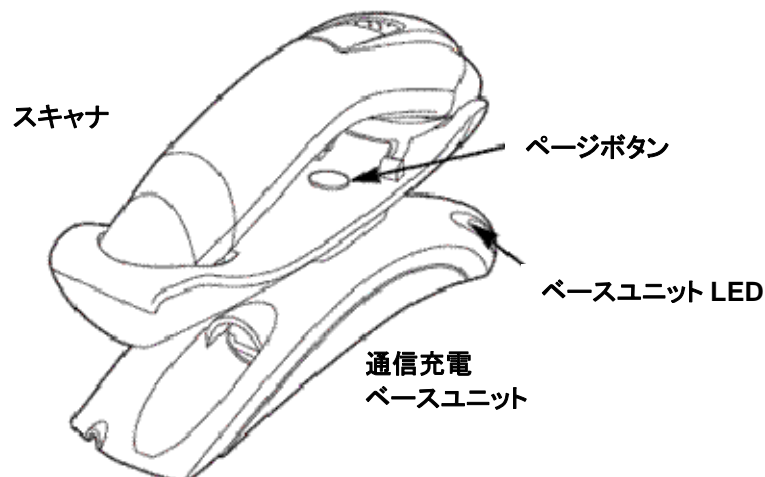
コードレスチャージベースはコードレススキャナとホストシステム間の通信を行います。ベースはインタフェースアセンブリと無線周波(RF)モジュールから成ります。RFモジュールは、コードレススキャナとインタフェースアセンブリ間のデータ交換を行います。制御アセンブリは中枢インタフェースの動作を調整します。それには、ホストシステムとの間で行われるコマンドやデータの送受信、ソフトウェアの実行(パラメータのメニュー化、視覚インジケータのサポート、パワーオン診断)、ホストシステムのために必要なデータ変換を含みます。

コードレスチャージベースはスキャナの充電器でもあります。詳しくは [3-5 ページ](#)の「充電について」をご覧ください。

スキャナのチャージベースへの接続

ベースを接続する前に電源をオフにし、ベースが完全に接続された時点でホストデバイスを起動してください。ベースが接続され、ホストデバイスが起動してからスキャナをベースに差しこみ、通信します。ベースの緑色の LED が点滅すると、スキャナのバッテリーが充電中であることを示します。

スキャナとベースが以前に通信していた場合は、反応はありません。スキャナとベースが今回初めて通信接続された場合、双方の無線が通信した時点でスキャナとベースの両方から音が鳴ります。これでこの一台のスキャナが一台のベースに接続されたこととなります。

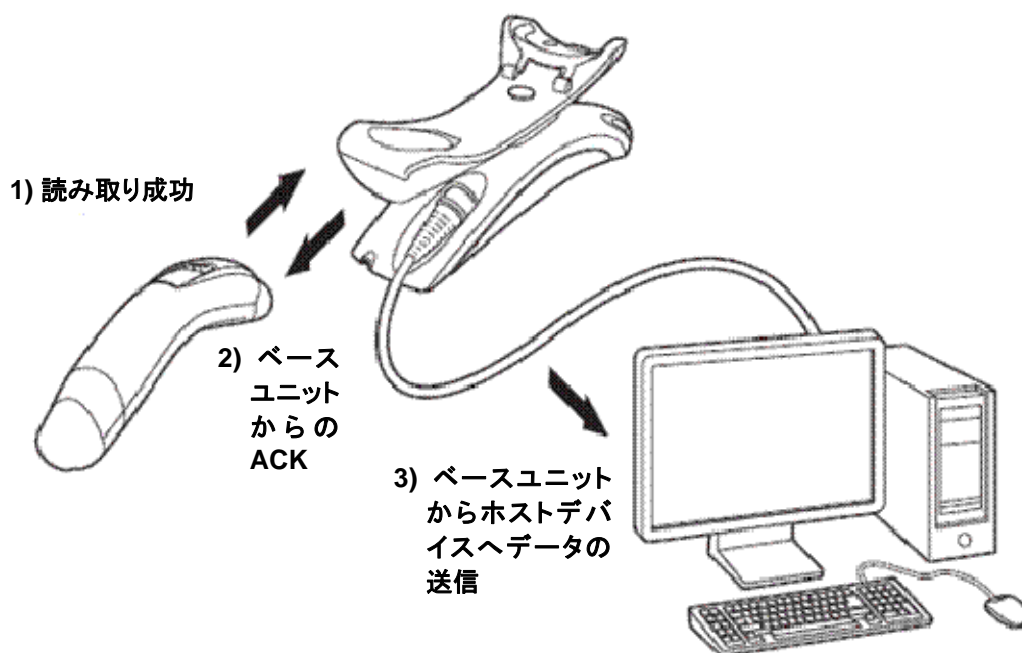


コードレスシステムが正しく設定されているか判断するには、本書の終わりにあるサンプルバーコードの1つを読み取ってみてください。スキャナから読み取り有効を示すピーツという音が一発発せられ、緑の LED が点灯した場合、スキャナとベースの連結が成功しています。エラーブザーが鳴り、赤い LED が点灯した場合、スキャナはベースに接続されていません。問題解決に関する情報は [12-3 ページ](#)のトラブルシューティングの項目を参照してください。

コードレスシステムとホストデバイス間の通信

バーコードが正しく読み取られてベースがデータの受信を認知すると、コードレススキャナは「読み取り成功」を視覚的かつ聴覚的(スキャナ上部の緑色 LED が点灯し、とピーツという音が鳴る)に表示します。コードレスシステムはスキャナとベースの間で双方向通信するため、このようなことが可能になります。

データが読み取られると、データはベースを介してホストシステムへ送られます。コードレススキャナはベースからのデータの認知(ACK)を認識します。データがベースへ正しく送信されたか否か判定できない場合は、スキャナはエラーを表示します。その際には、スキャンされたデータがホストシステムによって受信されたかをチェックしなければなりません。



RF (無線周波) モジュールの操作

コードレスシステムは二方向 Bluetooth® 無線を利用して、スキャナおよびベース間におけるデータの送受信を行いません。1 対 1 および複数対 1 ポイントのアプリケーション用に設計されております。ライセンス不要な ISM 帯域を使用することで、周波数が無作為に変化する無線信号に、比較的小さいデータパケットを載せて高速なデータレートで送信しています。それ故に、当コードレスシステムを多様なデータ収集アプリケーションに対応でき、かつノイズの多い無線周波環境に対して強い耐性のある製品にしています。

Bluetooth クラス 2 の出力レベルでは、環境によりませんが、スキャナとベースとの間の距離が 10m (33 フィート) まで通信可能です。

システム条件

あるスキャナをベースに連動させたり、スキャナを通信可能範囲外へ持ち出したり、更の中へ再び持ち込んだり、2 つのコードレスシステムの間でスキャナを交換したりする際、コードレスシステムの構成部分は、特定の相互作用を起こします。下記はコードレスシステムの動作条件について説明したものです。

通信プロセス

スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれると、スキャナのバッテリー残量がチェックされ、ソフトウェアは自動的にスキャナを検知します。選択された接続モードに合わせてスキャナをベースに接続します。

スキャナが通信可能範囲外にあるとき

コードレススキャナはバーコードデータを送信していないときも、ベースと通信しています。スキャナが数秒にわたってベースと通信できないときは、スキャナが通信可能範囲外にあることとなります。

スキャナが通信可能範囲外にあるときにバーコードを読み取ると、スキャナはエラーブザーを発してベースと通信していないことを示します。コードレスチャージベースもアラーム音を発することがあります。[3-13 ページ](#)の通信可能範囲外アラームの項目をご参照ください。

スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき

スキャナまたはベースがリセットされたか、スキャナが通信可能範囲内に戻ったとき、スキャナは再度通信を開始します。スキャナが通信を再度確立する際、通信再確立プロセス(パラメータテーブルのアップロード)が完了すると、音が一回鳴ります。詳しくは [3-13 ページ](#)の通信可能範囲外アラームの項目をご参照ください。

バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り

スキャナは通信可能範囲外において数多くのシンボル(UPC シンボル約 500 個、他はばらつきあり)を保存し、通信可能範囲内に戻った時点でベースへ送信することができます([3-15 ページ](#)のバッチモードの項参照)。

このモードでは、通信エラーブザーは聞こえませんが、無線通信が機能していない場合、トリガーを引いたときに短いブザー音が聞こえます。無線接続がされてデータがベースに送信されている間、スキャナは一連のピーツという音を発します。

ページ(呼出し)ボタン

ベースのページボタンを押すと、そのベースに接続しているスキャナがピーツという音(3 回短く、1 回長く)を鳴らし始めます。呼び出しに応じて鳴っているスキャナのトリガーを引くか、ベースのページボタンをもう一回押すと、接続しているすべてのスキャナが鳴り止みます。ページボタンの設定に関する詳細は、[3-9 ページ](#)のページング(呼出し)の項をご覧ください。

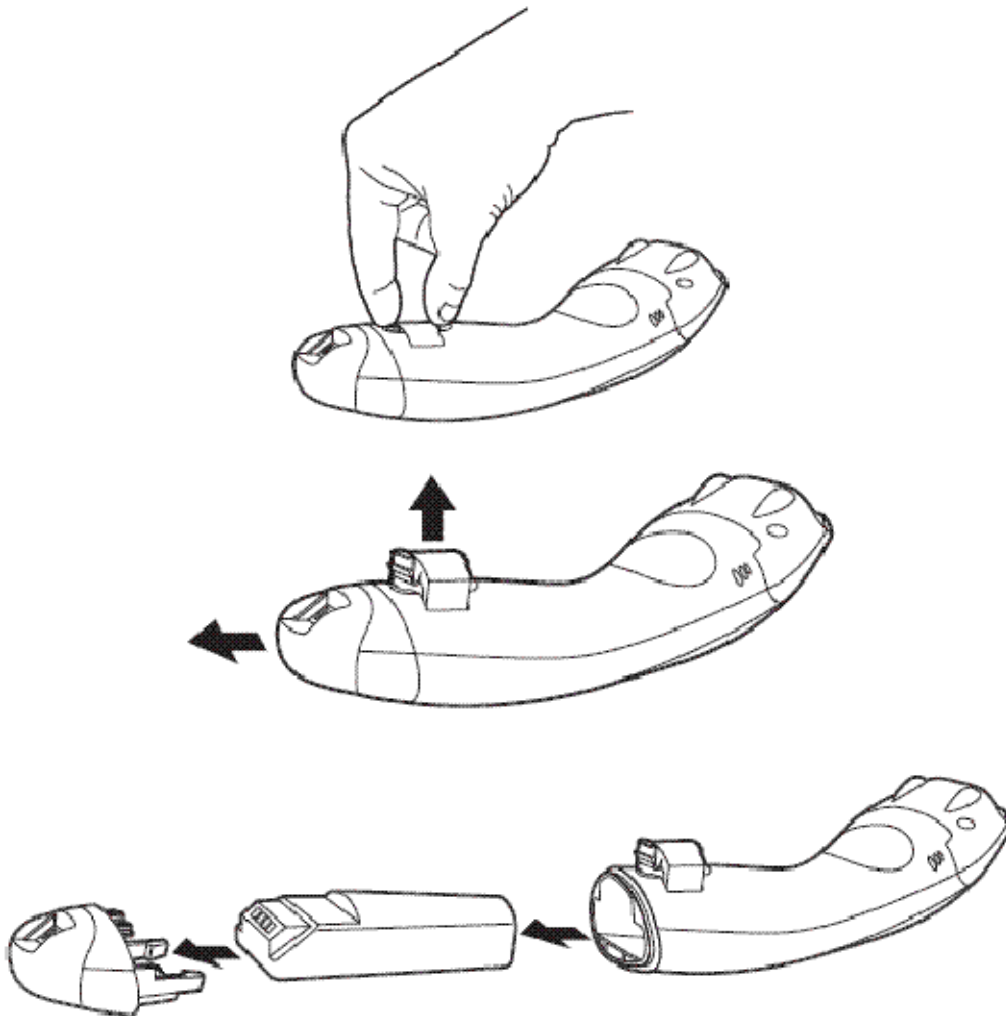
バッテリーについて



警告: バッテリー交換を誤ると、爆発するおそれがあります。ハネウェルが推奨するバッテリーのみに交換してください。使用済みバッテリーは、それを廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法に従って処分してください。

コードレススキャナの電源は、スキャナハンドル内に組み込まれた充電式バッテリーから供給されます。出荷時には、約 30%から 60%程度バッテリーを充電してありますが、充電容量最大限まで完全に充電することを推奨致します。最初に使用する際、最適な性能を確保する為に最低 4 時間の充電を行なってください。

Voyager 1202g バッテリーの取り外し



充電について

バッテリーは、スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれている間に充電される設計になっています。充電状態を現すインジケータの解釈については、[3-7 ページ](#)のベースの LED シーケンスに関する項目をご覧ください。

スキャナをベースに接続することなく充電する必要がある場合は、[3-11 ページ](#)の充電限定モードの項目をご覧ください。または、無線通信機能の無い充電専用チャージベースをお使いください。

Voyager 1202g は Honeywell 社のバッテリー100000495(リチウムイオンバッテリー、7VDC、7.4Wh/時間)と一緒に使用してください。

適切な電源がベースに接続されていることを確認し、スキャナをベースに差し込んでください。定格出力 5~5.2Vdc、1A の Limited Power Source (LPS) かクラス 2 タイプの電源のみをご使用ください。

注意: 外部電源をチャージベースの補助ポートに差し込まず、インターフェースケーブル(例えば USB ケーブル)を介してホストデバイスからベースへ電力を供給する場合、充電に使える電力が減ってしまいますので、充電時間がより長くなります。

バッテリーについての推奨事項

- バッテリーはリチウムイオン電池で、完全に充電せずに使えますし、耐用寿命に悪影響を及ぼすことなく、放電しきってからでなくても充電できます。
この種のバッテリーについては、充電/放電コンディショニングをする必要がありません。
- ホストデバイスを使用していないときは、ベースを電源に接続しておいてください。
- 欠陥のあるバッテリーは、スキャナ破損の原因になりますので、直ちに交換してください。
- バッテリーは何回も充電できますが、最終的には消耗してしまいます。十分な充電量を維持できなくなったときにはバッテリーを交換してください。
- 電池や充電器が正常に機能しているか判らないときには、ハネウェルか正規サービスセンターへ送って点検してください。詳細は [13-1 ページ](#)のカスタマーサポートの項をご覧ください。



警告: CCB00-010BT ベースユニットは、Voyager 1202g と一緒に使用するよう設計されています。ハネウェル製以外のバッテリーを使用しますと故障の原因になりますので語周囲ください。

リチウム電池の安全に関する注意事項

- バッテリーを燃やしたり、加熱したりしないこと。
- 火気・高温の場所を避けて保管すること。
- 金属製品とともにバッテリーを保管したり、所持したりしないこと。
- 水気を避け、バッテリーを濡らさないようにすること。
- 金属製品を使ってバッテリーの陽極と陰極を接続(ショート)しないこと。
- バッテリーに穴を開けたり、たたいたり、踏んだり、強い衝撃を与えたりしないこと。
- バッテリーを解体・改造しないこと。



警告: バッテリー交換を誤った場合、爆発の恐れあり。使用済みのバッテリーは廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法にしたがって処分してください。

バッテリーの適切な処分



バッテリーが耐用年数の終わりに達したときは、資格を持つリサイクル業者ないし危険物取扱業者によって処分してください。バッテリーを一般廃棄物と共に焼却したり、処分したりしないでください。スキヤナのバッテリーを弊社に御返却いただくことも可能です。使用済みバッテリーの梱包、表示、明細書作成、輸送に関するすべての国・連邦・州・自治体法規の遵守は輸送業者の責任です。

リサイクル・処分に関しては、製品サービス部門(13-1 ページ)にお問い合わせください。バッテリーをご返送いただく費用が高額な場合、地元のリサイクル処理業者にて処分された方が経費を抑えられる場合もありますので、まずは御問い合わせください。

フラッシュアップデート

スキヤナをベースユニットの置いた状態でも、置いていない状態でもフラッシュアップデートすることができますが、スキヤナをベースユニットに置いた状態でフラッシュアップデートを行うことを推奨します。スキヤナがベースユニットに置かれていなかったり、バッテリーが低かったり、スキヤナが通信圏外にあると、フラッシュアップデートを終了することができません。

ブザー・LED のシーケンスと意味

スキヤナ上部には LED が組み込まれており、通電・通信・電池残量を表示します。簡単に言うと、赤色 LED=エラー、緑色 LED=あらゆる種類の正常な完了を意味します。本体の音声によるインジケータにも意味があります。エラーブザー1回=エラー、2回ピーツ=メニュー変更、1回ピーツ=それ以外のすべての正常な完了です。下記の表にスキヤナの LED 点灯・ブザーによる表示のしかたとその原因をまとめてあります。

スキヤナの LED シーケンスと意味

注意: スキヤナのボタンを押すと、スキヤナが通信確立に成功するまで LED を赤く白熱する原因になります。

LED 表示	ブザー表示	原因
正常な操作		
赤点灯	なし	バッテリー残量少
緑点灯	1 回ピーツと鳴る	通信またはリンクに成功
赤点滅	エラーブザー	通信失敗
メニュー操作		
緑点灯	2 回ピーツと鳴る	メニュー変更成功
赤点滅	エラーブザー	メニュー変更失敗

ベースユニットのLEDシーケンスと意味

ベースについている赤色LEDが本体の状態を表し、ホストシステムとの通信状態を確認することができます。また、緑色LEDはスキャナのバッテリー充電状況を表します。

赤色 LED:ホストとの通信	
LEDの状態	通信の状態
オフ	USB 保留
継続してオン	電源オン、システムアイドル
複数回にわたり短く点滅。無線モジュール またはホストポートとの間のデータ通信中点滅	データ受信
緑色 LED:スキャナのバッテリー (ベースのみ)	
LEDの状態	通信の状態
オフ	バッテリーが検出されないか、充電が中止されたとき
ゆっくり点滅(1秒点灯、1秒消灯)	充電前と充電中
継続して点灯	充電完了
速く点滅(300ミリ秒点灯、300ミリ秒消灯)	充電エラー

ベースユニットのパワー通信インジケータ

ベースユニットのパワーインジケータを表示するには、**Base Power Communication Indicator On**(ベースパワー通信インジケータ 有効)バーコードを読み取ってください。パワーインジケータを無効にするには、**Off** バーコードを読み取ってください。

初期設定 = On (有効)



.*:BASRED1.

*** Base Power Communication Indicator ON**
(ベースパワー通信インジケータ 有効)



.*:BASREDO.

Base Power Communication Indicator OFF
(ベースパワー通信インジケータ 無効)

スキャナのリセット

下のバーコードを読み取ることによって、スキャナは再起動され、ベースと再接続します。



スキャナをベースに置いた状態での読み取り

スキャナをベースに置いた状態でバーコードを読み取ることができるようにしたい場合は、下記の **Scanning in Cradle On**(ベースに置いた状態で読み取り 許可)バーコードを読み取ってください。

スキャナがベースに置かれていない状態でのみ読み取りを行うようにしたい場合は、**Scanning in Cradle Off**(ベースに置いた状態での読み取り 禁止)を読み取ってください。

スキャナをベースに置いてシャットダウンしたい場合は、**Shut Down Scanner In Cradle**(ベースにおいてスキャナをシャットダウン)を読み取ってください。

初期設定 = Scanning in Cradle On(ベースに置いた状態での読み取り 許可)



Scanning in Cradle Off
(ベースに置いた状態での読み取り 禁止)



*** Scanning in Cradle On**
(ベースに置いた状態での読み取り 許可)

ページング(スキャナの呼び出し)

ページングモード(スキャナの呼び出し)

初期設定では、ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信を確立しているスキャナを呼び出します。ベースのページングボタンを無効にしたい場合は、下記の **Paging Mode Off (ページングモード 無効)** バーコードを読み取ってください。ページングモードが無効のときは、ボタンを押してもベースはスキャナを呼び出さなくなります。ベースの赤色 LED は点灯したままになり、ページングモードが無効であることを示します(LED はボタンを押すと消え、ボタンが解除されると再度点灯します)。

初期設定 = *Paging Mode On* (ページングモード 有効)



***Paging Mode On**
(ページングモード 有効)



Paging Mode Off
(ページングモード 無効)

ページング(呼び出し)音の音程

ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信しているスキャナがピーッと鳴り始めます(3-9 ページのページボタンの項参照)。下記のバーコードの1つを読み取ることによってスキャナのページング音の高さを設定することができます。

初期設定 = *Low* (低 1000Hz)



*** Low: 1000Hz**
(低 1000Hz)



Medium: 3250Hz
(中 3250Hz)



High: 4200Hz
(高 4200Hz)

スキャナアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のスキャナのアドレスを決定することができます。



BT_LDA.

Scanner Address
(スキャナアドレス)

ベースユニットアドレス



:.BASLDA.

Base Address
(ベースユニットアドレス)

スキャナモード

CCB01-010BT チャージベース以外の Bluetooth 対応機器とあわせて機能することができます。

充電限定モード

スキャナを充電したいけれど、ベースと通信させたくない場合があるかもしれません。例えば、スキャナが他の Bluetooth 対応機器と通信しており、スキャナを充電する必要があるものの、その既存の通信を維持したい場合などです。

ベースを充電限定モードに設定するには、そのベースにスキャナを1台接続しなければなりません。ベースにスキャナを接続したら、**Charge Only Mode (充電限定モード)**バーコードを読み取ってください。その後、そのベースに差し込まれるスキャナはベースと通信せずに充電できます。設定のために使用したスキャナは、ベースに接続したままとなります。そのスキャナとの通信を切断するには、[3-13 ページ](#)の **Unlink Scanner (スキャナとの通信解除)**を読み取ってください。



*:BASLNK0.

Charge Only Mode
(充電限定モード)

注意: 充電限定モード時、スキャナは定期的に起動し、ピーツとブザーを鳴らします。この設定を変更するには、[4-1 ページ](#)の起動ブザーを参照してください。

スキャナを充電し、ベースと通信を接続したい場合は、**Charge and Link Mode (充電および通信モード)**を使用してください。ベースが充電限定モードに設定されている場合、充電および通信モードに設定しなおすためには、まずスキャナ 1 台をそのベースと接続しなければなりません。ベースのバーコードを読み取って、スキャナを接続してから **Charge and Link Mode**を読み取ります。

初期設定 = *Charge and Link Mode (充電および通信モード)*



*:BASLNK1.

*** Charge and Link Mode**
(充電および通信モード)

通信モード

Locked Link Mode (通信固定モード)と**Open Link Mode (通信オープンモード)**は、各々異なるアプリケーションに対応するモードです。これらモードを切り換えるには、下記の説明にある該当バーコードを読み取ってください。

初期設定 = Open Link Mode (通信オープンモード)

通信固定モード: スキャナ 1 台の場合

通信固定モードを使うと、スキャナをベース 1 台と通信させている時に誤って他のスキャナをそのベースと通信を確立しないように阻止できます。他のスキャナをベースに差し込んだ場合、スキャナは充電されますが、通信はできません。



.*:BASCON0.

Locked Link Mode: Single Scanner
(通信固定モード: シングルスキャナ)

異なるスキャナを使用する場合は、**Unlink Scanner (スキャナとの通信解除)**のバーコードを読み取って元のスキャナとの通信を切断します(詳細は、[3-11 ページ](#)のスキャナモードの項を参照してください。)

通信オープンモード

納品されたばかりのときや初期設定に戻された場合、スキャナはベースと接続していません。スキャナをベースに差し込むと通信が確立されます。通信オープンモードの場合、新しいスキャナをベースに差し込むと新しい通信を確立します。

スキャナを1台ベースに差し込むたびにそのスキャナはベースに接続し、以前に接続していたスキャナとの通信は解除されます。



.*:BASCON1.

*** Open Link Mode: Single Scanner**
(通信オープンモード: シングルスキャナ)

スキャナとの通信解除

ベースとスキャナが通信している場合、まずスキャナの通信を解除しなければ次の新しいスキャナと接続することができません。元のスキャナとの通信解除を行うと、ベースは通信を切断します。ベースとスキャナの通信を解除するには、下記の **Unlink Scanner (スキャナとの解除)** バーコードを読み取ってください。



BT_RMV.
Unlink Scanner
(スキャナとの解除)

通信の上書き

ベースと通信しているスキャナが破損したか、もしくは紛失して交換する必要がある場合、新しいスキャナで下記の **Override Locked Scanner (通信固定されたスキャナの上書き)** バーコードを読み取り、そのスキャナをベースに差し込んでください。

これで通信状態が上書きされます。破損した、もしくは紛失したスキャナとベースとの通信は解除され、新たなスキャナと接続を開始します。



BT_RPL1.
Override Locked Scanner: Single Scanner
(通信固定されたスキャナの上書き: シングルスキャナ)

通信範囲外アラーム

ベースの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、ベースとスキャナの両方からアラーム音が鳴ります。そのスキャナがベースに近づくか、ベースが別のスキャナと接続するか、もしくはアラーム音継続の設定時間が経過すると、アラームは止まります。

注意: バーコード読み取り時に通信範囲外にいる場合、アラームを設定していなくても、エラーブザーが鳴ります。ベースへデータを送信することができない場合でも、同じくエラーブザーが鳴るようになっています。

アラーム音の種類

下記のバーコードを読み取って、スキャナのアラーム音の種類を設定してください。アラームが有効になっていると、スキャナは長く高音のアラーム音を3回鳴らします。

初期設定 = Alarm Off (アラーム 無効)



BT_ORW0.

Alarm Off
(アラーム 無効)



BT_ORW1.

*** Alarm On**
(アラーム 有効)

アラームの鳴動時間

スキャナまたはベースのアラームを有効にし、アラームが鳴る時間を設定するには下記の該当するバーコードを読み取り、その後、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値を読み取り、タイムアウト時間(0~3000 秒の間)を設定し、**Save (保存)**を読み取ります。

初期設定 = 1 sec (1 秒)



BT_ORD.

Scanner Alarm Duration
(スキャナアラーム鳴動時間)

スキャナパワータイムアウトタイマー

注意: スキャナパワータイムアウトタイマーは、コードレスシステムのみ適用されます。有線スキャナには適用できませんので、ご注意ください。

指定時間内に動作しない場合、スキャナは低パワーモードに入ります。適切なスキャナパワータイムアウトバーコードを読み取って、タイムアウトの長さを秒単位で変更してください。

注意: タイムアウトの長さを「0」にすると、タイムアウトがない状態になります。

タイムアウト時間内にスキャナのトリガーを引かなかった場合、スキャナはパワーダウンモードに入ります。トリガーが有効・無効に関わらず、タイマーはリセットされます。スキャナがベースユニットに置かれていて、かつバッテリーが充電中の場合は、パワーダウンモードにはなりません。

初期設定=3,600 秒



BT_LPT0.

Timer Off
(タイマー 無効)



BT_LPT400.

400 Seconds
(400 秒)



BT_LPT3600.

*** 3600 Seconds**
(3600 秒)



BT_LPT200.

200 Seconds
(200 秒)



BT_LPT900.

900 Seconds
(900 秒)



BT_LPT7200.

7200 Seconds
(7200 秒)

注意: スキャナがパワーダウンモードに入っている時にトリガーを引くと、パワーが戻ります。起動ブザーが鳴り、無線通信に入るまで数秒の遅れが発生します。その後、スキャナを使用できます。

バッチモード

バッチモードは、スキャナがベースの通信範囲外にあるとき、または棚卸をするときのバーコードデータ保存に使用します。スキャナが通信範囲内に戻ったとき、あるいは記録が手作業で送信されたとき、データはベースへ送信されます。

Automatic Batch Mode (自動バッチモード)はスキャナがベースの通信範囲外にあるとき、バーコードデータを保存します。スキャナが通信範囲内に戻ると、データはベースへ自動的に送信されます。スキャナのバッファスペースが満杯になると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、スキャナをベースの通信範囲内に戻り、データが送信できるようにしなければなりません。

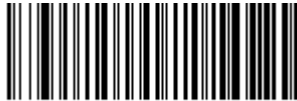
Inventory Batch Mode (棚卸バッチモード)ではベースの通信範囲内に居る・居ないに関わらず、バーコードデータを保存します。保存されたデータをベースへ送信するには、スキャナをベースに差し込むか、[3-2 ページ](#)の **Transmit Inventory Records (棚卸レコードを送信)**を読み取ります。スキャナのバッファスペースが満杯になると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、データをベースへ送信しなければなりません。

初期設定 = Batch Mode Off (バッチモード 無効)



BATENA0.

* **Batch Mode Off**
(バッチモード 無効)



BATENA2.

Inventory Batch Mode
(棚卸バッチモード)



BATENA1.

Automatic Batch Mode
(自動バッチモード)

バッチモード:ブザー音

バッチモード使用時に **Batch Mode Beep On**(バッチモードブザー 有効)を読み取ると、各バーコードを読み、そして保存するたびにスキヤナがカチッと鳴るように設定できます。

初期設定 = *Batch Mode Beep Off*(バッチモードブザー 無効)



BATBEP1.

Batch Mode Beep On
(バッチモードブザー 有効)



BATBEP0.

* **Batch Mode Beep Off**
(バッチモードブザー 無効)

バッチモード:個数

バッチモードにおいて、同一のバーコードを何個も送信するのではなく、バーコードの個数を送信したいことがあるかもしれません。例えば、**Batch Mode Quantity Off**(バッチモードの個数 無効)の状態ではXYZという3つのバーコードを読み取ったとすると、そのデータを送信したときには、XYZが3個表示されます。

Batch Mode Quantity On(バッチモードの個数 有効)と [3-18 ページ](#)の **Quantity Codes**(個数コード)を使えば代わりに「XYZ, 00003」と出力することができます。

注意: 出力した内容をフォーマットしたい場合、例えばバーコードデータと数量の間に *CR* や *Tab* を挿入したいときは、[6-1 ページ](#)の **データフォーマットの項**を参照してください。

初期設定 = *Batch Mode Quantity Off*(バッチモードの個数 無効)



BATQTY0.

* **Batch Mode Quantity Off**
(バッチモードの個数 無効)



BATQTY1.

Batch Mode Quantity On
(バッチモードの個数 有効)

個数の入力

3-18 ページの **Quantity Codes (個数コード)** を用いれば、最後に読み取ったバーコードについて、9999 までの個数 (初期設定 = 1) を入力できます。個数の数字は右から左へ移動しますので、5 桁目の数字が読み込まれると既に読み込んだ 1 桁目の数字がなくなり、2・3・4 桁目の数字が左へずれて、新たな 1 桁を迎え入れます。

例えば、個数が 1234 に設定されたあとで、**Quantity 5** バーコードを読み取ると、1 が脱落し、個数は 2345 になります。

初期設定 = 1

例:最後に読み取ったアイテムに 5 という個数を付与する場合

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. **Quantity 5** のバーコードを読み取ってください。

例:最後に読み取ったアイテムに 1500 という個数を付与する場合

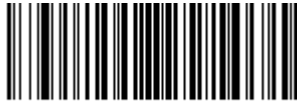
1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. **Quantity 1** のバーコードを読み取ります。
3. **Quantity 5** のバーコードを読み取ります。
4. **Quantity 0** のバーコードを読み取ります。
5. **Quantity 0** のバーコードを読み取ります。

例:個数を 103 から 10 に変更する場合

間違った個数を訂正するには、**Quantity 0** のバーコードを読み取り、間違った数字を置き換えます。その後、正しい数量コードを読み取ります。

1. **Quantity 0** バーコードを読み取って個数を 1030 に変更します。
2. **Quantity 0** バーコードを読み取って個数を 0300 に変更します。
3. **Quantity 1** バーコードを読み取って個数を 3001 に変更します。
4. **Quantity 0** バーコードを読み取って個数を 0010 に変更します。

個数コード



BATNUM0.

0



BATNUM2.

2



BATNUM4.

4



BATNUM6.

6



BATNUM8.

8



BATNUM1.

1



BATNUM3.

3



BATNUM5.

5



BATNUM7.

7



BATNUM9.

9

最後のコードを削除

バッチモードにおいて、最後に読み取ったバーコードを削除したい場合は **Delete Last Code (最後のコードを削除)** を読み取ってください。



BATUND.

Delete Last Code
(最後のコードを削除)

レコードカウンター

バッチモードで読み取ったバーコード一つ一つにカウンターを付加したい場合、下記の **Record Counter On (レコードカウンター 有効)** を読み取ります。各バーコードの前に連続した番号を追加します。

例:

0001, bar code 1

0002, bar code 2

初期設定 = Record Counter Off (レコードカウンター 無効)



BATENTO.

* Record Counter Off
(レコードカウンター 無効)



BATENT1.

Record Counter On
(レコードカウンター 有効)

レコードの合計件数

バッチモードの間に読み取ったバーコードの数量を出力したい場合は、**Total Records (レコードの合計件数)** を読み取ってください。



BATNRC.

(レコードの合計件数)

バッチモード:出力順序

バッチモードでデータを送信する際には、データを FIFO(先入れ先出し)で送信するか、LIFO(後入れ先出し)で送信するかを選択してください。

初期設定 = Batch Mode FIFO (バッチモード 先入れ先出し)



* Batch Mode FIFO
(バッチモード 先入れ先出し)



Batch Mode LIFO
(バッチモード 後入れ先出し)

データ送信後にすべてのデータを削除

バーコードデータがホストシステムに送信された後にバッチモードに累積したすべてのデータのバッファを削除したい場合、**Clear All Codes After Transmission (データ送信後にすべてのコードを削除する)**を読み取ってください。逆に削除したくない場合は、**Don't Clear All Codes After Transmission (データ送信後にすべてのデータを削除しない)**を読み取ってください。

初期設定 = Clear All Codes After Transmission (データ送信後にすべてのコードを削除する)



* Don't Clear All Codes After Transmission
(データ送信後にすべてのデータを削除しない)



Clear All Codes After Transmission
(データ送信後にすべてのコードを削除する)

すべてのコードを削除

スキャナのバッファからバッチモードで蓄積されたすべてのデータを消去したい場合は、**Clear All Codes(すべてのコードを削除)**を読み取ってください。



Clear All Codes
(すべてのコードを削除)

レコードの自動送信

棚卸バッチモード(3-15 ページの棚卸バッチモードを参照)でスキャナを使用している場合、スキャナをベースユニットに置くとバーコードのデータがホストシステムに送信されます。スキャナをベースユニットに置いてもバーコードデータを送信しないようにするには、**Don't Transmit Records Automatically (自動でデータを送信しない)** を読み取ってください。

初期設定 = *Don't Transmit Records Automatically (自動でデータを送信しない)*



*** Don't Transmit Records Automatically**
(レコードを自動で送信しない)



Transmit Records Automatically
(レコードを自動で送信する)

ホストシステムへのデータ送信

Inventory Batch Mode (棚卸バッチモード、3-15 ページの棚卸バッチモードの項参照)において、保存されたすべてのデータをホストシステムへ送信するには、下記のバーコードを読み取ってください。



Transmit Inventory Codes
(ホストシステムにデータを送信する)

バッチモード:送信デレイ(間隔)

蓄積されたスキャンデータをホストシステムへ送信する際、送信が速すぎてアプリケーションが処理しきれないことがあります。蓄積されたスキャンデータ間にデレイ(間隔)を設定するには、下記のデレイのいずれかを読み取ってください。

初期設定 = Off(無効)

注意:ほとんどの場合、デレイは短い(250 ミリ秒)ことが理想です。しかし、より長いデレイを設定することもできます。詳細については、テクニカルサポート([13-1 ページ](#))にご連絡ください。



* Batch Mode Transmit Delay Off
(バッチモードの送信デレイ 無効)



Batch Mode Transmit Delay - Medium
(バッチモードの送信デレイ 中)



Batch Mode Transmit Delay - Short
(バッチモードの送信デレイ 短)



Batch Mode Transmit Delay - Long
(バッチモードの送信デレイ 長)

スキャナ名

お使いの各スキャナを識別できるように、それぞれに名前をつけることができます。例えば、Voyager 1202g の初期設定名は「Voyager」です。

命名し直す場合は、次ページのバーコードを読み取るか、シリアルコマンド「:Voyager:BT_NAMname.」を送信します。この中の name 部分にはスキャナの新しい名前を書きます。他のスキャナの名称も変更したい場合は、1 台ずつ接続し、各スキャナに「:Voyager:BT_NAMname.」というコマンドを繰り返します。

スキャナに連続した番号で命名し直すには、下記のバーコードを読み取ってください。名称を変更するたびに、Reset(リセット)コードを読み取り、スキャナがベースと再度接続するまで待ってから、次のスキャナを命名し直すためのバーコードを読み取ってください。



BT_NAM0001.

0001



BT_NAM0003.

0003



BT_NAM0005.

0005



BT_NAM0007.

0007



BT_NAM0002.

0002



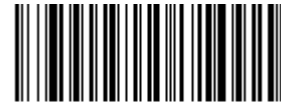
BT_NAM0004.

0004



BT_NAM0006.

0006



RESET_.

Reset
(リセット)

下記の **Scanner Name(スキャナ名)** バーコードを読み取り、その後スキャナ名として 30 桁までの数字またはキャラクタを読み取ることも可能です。例えば、通信済のスキャナを「312」と命名したい場合、下記のバーコードを読み取り、本書の裏表紙にあるプログラミングチャートから 3、1、2 のバーコードを読み取り、**Save(保存)** を読み取ってください。**Reset** バーコードを読み取り、スキャナがベースに再度接続されるまで待ってください。

スキャナの名前を出力するには、下記のバーコードを読み取ってください。スキャナの名前が製品名、機種番号、スキャナのシリアルナンバー(10 桁)と共に出力されます。



BT_NAM.

Scanner Name
(スキャナ名)

Bluetooth 対応機器との併用

スキャナは CCB00-010BT チャージベースや他の Bluetooth 対応機器とも併せて使用することが可能です。他の Bluetooth 対応機器には、PC、ノート型 PC、PDA/ハンディターミナルなどを含みます。

下記の **Non-Base BT Connection** (ベースなし BT 接続) バーコードを読み取ると、スキャナを他の Bluetooth 対応機器 (PC/ノート型 PC など) と併せて使用できるようになります。お使いの Bluetooth 対応機器添付の取扱説明書に従い、スキャナを認識し、接続してください。

注意: スキャナを持って通信可能範囲の外に出ると、通信可能範囲内に戻ってきたとしても Bluetooth 対応機器に接続しませんので、ご注意ください。

受信充電ベースユニットとスキャナの通信を接続させるには、**Base BT Connection** (ベースユニットとの BT 通信接続) を読み取ってください。



BT_DNG9.

Non-Base BT Connection
(ベースユニット以外と BT 通信接続)



BT_DNG8.

Base BT Connection
(ベースユニットとの BT 通信接続)

スキャナの Bluetooth 暗証コード変更

一部の機器には、Bluetooth セキュリティ機能の一環として、暗証コードが必要です。スキャナの初期設定の暗証記号は 0000 で、お使いの PDA または PC に初めて接続する際、入力が必要かもしれません。暗証コードは 1～16 文字の間でなければなりません。暗証コードを変更するには、下記のバーコードを読み取り、その後本書の裏表紙にあるプログラミングチャートから該当の数値バーコードを読み取ります。Save (保存) を読み取って選定した内容を保存してください。

初期設定 = 0000



BT_PIN.

Bluetooth PIN
(Bluetooth 暗証コード)

Bluetooth/ISM 帯域ネットワーク干渉の最小化

この設定は、コードレスエリアイメージングシステムの再接続時の動作をカスタマイズし、利便性を確保しながら、干渉を低く抑えるための最適な妥協点を見出すのに役立ちます。

注意: ISM 帯域とは、無線ネットワーク、コードレス電話、Bluetooth が使用する 2.4 GHz から 2.48 GHz の周波数帯域を指します。

自動再接続モード

自動再接続は、接続が中断されたことが検出されたときに、スキャナが自動的に再接続のプロセスを開始するか否かを制御するものです。**Auto Reconnect On (自動再接続 有効)**のバーコードを読み取ると、スキャナはユーザーの介入なしにただちに再接続のプロセスを開始します。

初期設定 = Auto Reconnect On (自動再接続 有効)



BT_ACM1.

* Auto Reconnect On
(自動再接続 有効)



BT_ACM0.

Auto Reconnect Off
(自動再接続 無効)

下の表は、**Auto Reconnect** が有効 および無効設定時の結果です。

事象	Auto Reconnect On (自動再接続 有効)	Auto Reconnect Off (自動再接続 無効)
スキャナが通信範囲外にあるとき	自動的に再接続されます。再接続を最高限度回数まで試行しても成功しない場合は、トリガーを引くか、スキャナをベースに差し込むか、接続バーコードを読み取るかのいずれかによってスキャナの再接続を行ってください。 (3-26 ページ の再接続試行最高限度回数を参照)	スキャナはトリガーを引くか、接続バーコードを読み取ることによって再度接続されます。
(ファームウェアのアップグレードもしくは電源再起動により)ベースがリセットされたとき	スキャナは通信範囲外にあるかのように動作します。	ベースがオフの間は、再接続を試行しません。再接続を始めるためには、トリガーを引いてください。
ファームウェアのアップグレードによりスキャナがリセットされたとき	自動的に再接続します。	
バッテリー交換により、スキャナがリセットされたとき	自動的に再接続します。	
スキャナが別のベースユニットに差し込まれたとき	自動的に新しいベースと接続します。	

再接続試行最高限度回数

再接続試行最高限度回数は、スキャナがベースとの接続を試みる回数を制御します。接続セットアッププロセスの間、スキャナはベースを捜し、接続すべく発信を行います。発信をし続けることによって、ISM 帯域の他のユーザーに影響するのを避けるため、この設定によって接続試行回数が制限されています。再接続試行最高限度回数に達すると、スキャナはベースへの再接続を断念します。トリガーを引くか、接続バーコードを読み込むか、スキャナをベースに差し込むかのいずれかを行うことで試行回数がリセットされ、スキャナは再度接続を試みるようになります。

Maximum Link Attempts(再接続試行最高回数)バーコードを読み取り、その後裏表紙の内側から設定試行回数(0~100)を読み取ってください。**Save(保存)**を読み取って、設定を保存します。

初期設定 = 0



BT_MLA.

Maximum Link Attempts
(再接続試行最高回数)

注意: 自動再接続モードが有効のとき、再接続試行最高限度回数を 0 に設定すると、スキャナはパワータイムアウトタイム一設定 ([3-14 ページ](#)参照) 時間が経過するまで、通信を試みます。自動再接続モードが無効のとき、再接続試行最高限度回数を 0 に設定すると、スキャナはトリガーが引かれたあと1回だけ再接続を試みます。

再接続タイムアウト

再接続タイムアウトは、再接続試行中のアイドル時間を制御します。ベースとの接続を再試行するには、一般に最高 5 秒ほどかかります。これはスキャナが実際にコンタクトしようと試みている時間です。再接続タイムアウトは1回接続を試み終わってから次に試み始めるまでの経過時間を秒単位で制御します。

Relink Time-Out(再接続タイムアウト)バーコードを読み取り、その後裏表紙の内側から設定秒数(0~100)を読み取ってください。**Save(保存)**を読み取って、設定を保存します。

初期設定 = 3 秒



BT_RLT.

Relink Timeout
(再接続タイムアウト)

Bluetooth / ISM ネットワークアクティビティの例

初期設定

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットへの接続を何回も試みます。1 回の試行には、アクティブタイム約 5 秒と、アイドルタイム約 3 秒がかかります。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

再接続試行最高限度回数 15、他の値は初期設定値の場合:

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットへの接続を 15 回試みます。1 回の試行には、アクティブタイム約 5 秒と、アイドルタイム約 3 秒がかかります。15 サイクル($8 \times 15 = 120$)すなわち、約 2 分後に、スキャナはベースユニットへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたであろうバーコードは保存されています。1時間後にスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

自動再接続モードを 0 に設定、再接続試行最高限度回数を 15 に設定、その他の値は初期設定値の場合:

スキャナが通信範囲外に出ても、再接続を一切試みません。トリガーを引くと、ベースユニットへのリンクを 15 回試みます。毎回の試行につきアクティブタイム約 5 秒と、アイドルタイム約 3 秒がかかります。15 サイクル($8 \times 15 = 120$)すなわち約 2 分後に、スキャナはベースユニットへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたであろうバーコードは保存されています。1 時間後にスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

他にどのような事象によって再接続プロセスが始まるか、[3-25 ページ](#)の自動再接続モードを参照してください。

スキャナおよびベースユニットのリセット

設定を変更した後、スキャナおよびベースユニットをリセットする必要があるかもしれません。下記の **Reset Base** (ベースユニットのリセット) を読み取って、スキャナがベースユニットとの通信を切断、再切断するまで待ちます。スキャナの再接続が終了したら、今度は **Reset Scanner** (スキャナのリセット) を読み取って、ベースの通信が切断・再接続されるまで待ちます。



RESET_.

Reset Scanner
(スキャナのリセット)



!*RESET_.

Reset Base
(ベースユニットのリセット)

入力・出力設定

起動ブザー

スキャナは電源が入るとブザーが鳴るようになっています。起動ブザーをお使いにならない場合は、下記の Off バーコードを読み取ってください。

初期設定 = Power Up Beeper On - Scanner (スキャナの起動ブザー 有効)



BEPPWR0.

Power Up Beeper Off – Scanner
(スキャナの起動ブザー 無効)



BEPPWR1.

*** Power Up Beeper On - Scanner**
(スキャナの起動ブザー 有効)

BEL キャラクタでのブザー音

ホストシステムからのコマンドに対して強制的にブザーを鳴らしたい場合は、下の **Beep on BEL On** バーコードを読み取ってください。スキャナがホストシステムから BEL キャラクタを受信する度にブザーが鳴ります。

初期設定 = Beep on BEL Off (BEL キャラクタ受信時のブザー音 無効)



BELBEP0.

***Beep on BEL Off**
(BEL ブザー 無効)



BELBEP1.

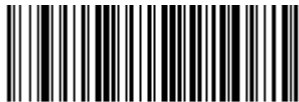
Beep on BEL On
(BEL ブザー 有効)

読み取り成功および失敗時のインジケータ

ブザー：読み取り成功時

読み取り成功時のブザーをオンまたはオフに設定できます。このオプションをオフにすると、読み取り成功時のブザーだけをオフにします。エラー等そのほかのブザーはすべて鳴動します。

初期設定= *Beeper - Good Read On* (読み取り成功時のブザー 有効)



BEPBEP0.

Beeper - Good Read Off
(読み取り成功時のブザー 無効)



BEPBEP1.

*** Beeper - Good Read On**
(読み取り成功時のブザー 有効)

ブザー音量：読み取り成功時

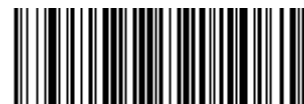
読み取り成功時にスキャンが出すブザーの音量を変更します。

初期設定= *High* (大)



BEPLVL1.

Low
(小)



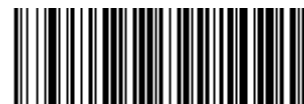
BEPLVL2.

Medium
(中)



BEPLVL3.

*** High**
(大)



BEPLVL0.

Off
(無効)

ブザー音程：読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが発するブザー音の音程（周波数）を変更します。

初期設定= Medium（中）



BEPFQ11600.
Low - 1600Hz
(低)



BEPFQ12350.
* Medium - 2350Hz
(中)



BEPFQ14200.
High - 4200Hz
(高)

ブザー順序：データ送信

読み取り成功時のブザーとデータ送信の順序を決定します。読み取り成功時のブザーをデータ送信の前か後か、いずれかに鳴動するよう設定することができます。

初期設定= Before Transmission（送信前）



BEPWHN1.
* Before Transmission
(送信前)



BEPWHN2.
After Transmission
(送信後)

ブザー音程：読み取り失敗またはエラー発生時

読み取り失敗やエラーが発生した際にスキャナが発するブザーの音程（周波数）を変更します。

初期設定= Razz（低）



BEPFQ2100.
* Razz - 100Hz
(低)



BEPFQ22000.
Medium - 2000Hz
(中)



BEPFQ24200.
High - 4200Hz
(高)

ブザーの長さ：読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが発するブザー音の長さを変更します。

初期設定= Normal (通常)



* Normal Beep
(通常)



Short Beep
(短い)

ブザー回数：読み取り成功時

読み取り成功時のブザー回数を 1~9 まで設定できます。ここで設定された回数が、読み取り成功時のブザーと LED 点滅の回数にも適用されます。例えば、この設定をブザー5 回に設定すると、読み取り成功時にブザーが 5 回鳴り、LED が同じく 5 回点滅します。ブザーと LED の点滅は互いに同期しています。

注意：LED は個々に設定可能です。[4-5 ページ](#)の『LED 設定』をご参照ください。

ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字 (1~9) バーコードを読み取ってから、最後に **Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 1



Number of Good Read Beeps/LED Flashes
(読み取り成功時のブザー、LED 回数)

ブザー回数：読み取り失敗時およびエラー発生時

読み取りの失敗やエラー発生の際にスキャナから発せられるブザーや LED の点滅回数を 1~9 まで設定できます。例えば、このオプションをブザー5 回に設定すると、エラーに対応してブザーが 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。

注意：LED は個々に設定可能です。[4-5 ページ](#)の『LED 設定』をご参照ください。

ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字 (1~9) バーコードと **Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 1



Number of Error Beeper /LED Flashes
(エラー発生時ブザーと LED の点滅回数)

LED インジケータ

緑色と赤色の LED はオン・オフ設定ができ、さまざまなスキャナの状態を示すために異なる明るさに設定ができます。以下のバーコードを読み取って、LED インジケータを設定してください。

LED 設定

初期設定= Red LED On with Laser (レーザーと同時に赤色 LED をオン)、
Green LED On with Good Scan (読み取り成功時に緑色の LED をオン)



LEDFN10.
Red LED Off
(赤色の LED オフ)



LEDFN11.
Red LED On with Good Scan
(読み取り成功時に赤色の LED オン)



LEDFN12.
*** Red LED On with Laser**
(レーザーと同時に赤色の LED オン)



LEDFN14.
Red LED On when CodeGate Disabled
(CodeGate 無効時に赤色の LED オン)



LEDFN18.
Red LED On when In-Stand
(スタンド使用時に赤色の LED オン)



LEDFN20.
Green LED Off
(緑の LED オフ)



LEDFN21.
*** Green LED On with Good Scan**
(読み取り成功時に緑色の LED オン)



LEDFN22.
Green LED On with Laser
(レーザーと同時に緑色の LED オン)



LEDFN24.
Green LED On when CodeGate Disabled
(CodeGate 無効時に緑色の LED オン)



LEDFN28.
Green LED On when In-Stand
(スタンド使用時に緑色の LED オン)



LEDFN1128.

Red LED On with CTS
(CTS に赤の LED オン)



LEDFN2128.

Green LED On with CTS
(CTS に緑の LED オン)



LEDFN11024.

Red LED On when Battery is Low
(バッテリーが Low の時に赤の LED オン)



LEDFN21024.

Green LED On when Battery is Low
(バッテリーが Low の時に緑の LED オン)

LED の明るさ

初期設定= Red High、Green High (赤色 LED 明るさ - 強、緑色 LED 明るさ - 強)



LEDIN10.

Red Off
(赤色 LED オフ)



LEDIN20.

Green Off
(緑色 LED オフ)



LEDIN11.

Red Low
(赤色 LED、明るさ - 弱)



LEDIN21.

Green Low
(緑色 LED、明るさ - 弱)



LEDIN12.

Red Medium
(赤色 LED、明るさ - 中)



LEDIN22.

Green Medium
(緑色 LED、明るさ - 中)



LEDIN13.

*** Red High**
(赤色 LED、明るさ - 強)



LEDFN23.

*** Green High**
(緑色 LED、明るさ - 強)

スタンド使用時・スタンド不使用時の動作設定

以下ではスタンド使用時、不使用時のスキャナの動作設定を行います（ハンドヘルドの場合）。

注意：スタンド使用時または不使用時の動作設定を行う際は、不要な設定を無効にするより前に必要な設定を有効にしてください。もし無効設定を先に行うと、スキャナに行った設定のためにバーコードを読めなくなる可能性があります。その場合は、スキャナを再起動し、[1-8 ページ](#)の初期設定バーコードを読み取ってください。

スタンド使用時、不使用時の初期設定

スタンド使用時および不使用時の初期設定をスキャナに保存したい場合は、以下の Defaults バーコードから適切なものを読み取ってください。スキャナをカスタムデフォルト設定（[1-7 ページ](#)カスタムデフォルト設定参照）へとリセットします。カスタムデフォルトがない場合は工場出荷時の初期設定へとリセットします。カスタムデフォルトで指定されていない設定はすべて工場出荷時の初期設定へとリセットされます。



In-Stand Defaults
(スタンド使用時の初期設定)



Out-of-Stand Defaults
(スタンド不使用時の初期設定)

プレゼンテーションモード

スキャナがスタンドに置かれている場合にバーコードがスキャナの読み取り範囲に入ると、自動的にそのバーコードを読み取るよう初期設定されています。一方、スキャナがスタンドに置かれていない場合は、スキャナの上にあるボタンを押さなければバーコードを読み取らないよう初期設定されています。スタンド不使用時のスキャナの動作を変更するには、以下のコマンドを使用してください。

注意：コードレスベースユニットをプレゼンテーションモードで使用する場合は、ベースユニットの補助ポートに外部電源アダプタを追加で接続してください。

Presentation Mode Out-of-Stand (スタンド不使用時のプレゼンテーションモード)：スタンドを使用せずにスキャナを使用する際、自動的にバーコードを検出し、読み取り、データを送信します。その後、レーザーが消えます。(Voyager 9520 を既にお使いのお客様にとっては、この設定は 9520 の初期設定と同様です。)

Presentation Mode with CodeGate® Out-of-Stand (スタンド不使用時の CodeGate 機能およびプレゼンテーションモード)：スタンドを使用せずにスキャナを操作する場合、自動的にバーコードを検出してデコードします。ただし、バーコードデータはボタンを押すまでは送信されません。データ送信後、暫くの間レーザーがオンの状態が続きます。

(Voyager 9540 を既にお使いのお客様にとっては、この設定は 9540 の初期設定と同様です。)



PAPPM1.

**Presentation Mode
Out-of-Stand**

(プレゼンテーションモード、スタンド不使用時)



PAPPM2.

**Presentation Mode with
CodeGate Out-of-Stand**

(CodeGate 付きプレゼンテーションモード、
スタンド不使用時)

マニュアルトリガーモード

マニュアルトリガーモードとは、ボタンを押してバーコードを読み取るモードです。スキャナはバーコードの読み取りが完了するまで読むか、もしくはボタンが離されるまで読み取りを実行します。

初期設定 = Manual Activation Mode Off In-Stand (スタンド使用時 マニュアルトリガーモード無効)、
Manual Activation On Out-of-Stand (スタンド不使用時 マニュアルトリガーモード有効)



AISMEND.

**Manual Activation Mode Off
In-Stand**

(スタンド使用時 マニュアルトリガーモード無効)



AISMEN1.

*** Manual Activation Mode On
In-Stand**

(スタンド使用時 マニュアルトリガーモード有効)



AOSMEND.

**Manual Activation Mode Off
Out-of-Stand**

(スタンド不使用時 マニュアルトリガーモード無効)



AOSMEN1.

*** Manual Activation Mode On
Out-of-Stand**

(スタンド不使用時 マニュアルトリガーモード有効)

読み取り成功後のマニュアルトリガーモードの終了

バーコードの読み取り成功後にレーザーの継続照射および連続読み取りを行うか、レーザーの消灯および読み取りの停止のいずれかを設定することができます。**End Manual Activation After Good Read**（読み取り成功後にマニュアルトリガーモードを終了する）が有効な場合、読み取り成功後にレーザーが消灯され、読み取りを終了します。

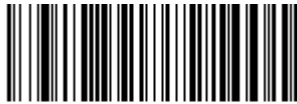
Do Not End Manual Activation After Good Read（読み取り成功後もマニュアルトリガーモードを維持する）を読み取った場合、レーザーは読み取り成功後も点灯しますが、次のバーコード読み取りにはボタンを再度押す必要があります。

初期設定= *End Manual Activation After Good Read*（読み取り成功後にマニュアルトリガーモードを終了する）



AISMGDD.

**Do Not End Manual Activation
After Good Read In-Stand**
(スタンド使用時に読み取り成功後も
マニュアルトリガーモードを維持)



AOSMGDD.

**Do Not End Manual Activation
After Good Read Out-of-Stand**
(スタンド不使用時読み取り成功後も
マニュアルトリガーモードを維持)



AISMGD1.

*** End Manual Activation After
Good Read In-Stand**
(スタンド使用時に読み取り成功後、
マニュアルトリガーモードを終了)



AOSMGD1.

*** End Manual Activation After
Good Read Out-of-Stand**
(スタンド不使用時に読み取り成功後、
マニュアルトリガーモードを終了)

マニュアルトリガーモード時のレーザータイムアウト：ボタンの設定

ボタンが押された状態ならびにボタンが離されてからのレーザー継続時間とバーコードのデコード試行時間の長さを設定できます。以下のバーコードのうち1つを読み取り、次にプログラミングチャートから数字を読み取ること
でタイムアウト時間（1~65535ミリ秒）を設定し、最後に **Save（保存）** バーコードを読み取ってください。

初期設定 = *Button Hold In-Stand 5000 ms*（ボタンが押された状態、スタンド使用時、5000 ミリ秒）、
Button Hold Out-of-Stand 30000 ms（ボタンが押された状態、スタンド不使用時、30000 ミリ秒）、
Button Release In or Out-of-Stand 0（ボタンが離された状態、スタンド不使用時、0）



AISMPT.

Laser Timeout - Button Hold, In-Stand
(スタンド使用時、ボタンが押された状態の
レーザータイムアウト)



AISMRT.

Laser Timeout - Button Release, In-Stand
(スタンド使用時、ボタンが離された状態の
レーザータイムアウト)



AOSMPT.

Laser Timeout - Button Hold, Out-of-Stand
(スタンド不使用時、ボタンが押された状態の
レーザータイムアウト)



AOSMRT.

Laser Timeout - Button Release, Out-of-Stand
(スタンド不使用時、ボタンが離された状態の
レーザータイムアウト)

CodeGate®

CodeGate を有効にすると、スキャナでデコードされたデータのホストへの送信がボタンによって操作されます。スキャナはバーコードの読み取りおよびデコードを続けますが、バーコードデータはボタンが押されるまで送信されません。CodeGate が無効の場合は、デコードされた時点でバーコードデータが送信されます。

初期設定= CodeGate Off in-Stand (スタンド使用時 CodeGate 無効)、
CodeGate On Out-of-Stand (スタンド不使用時 Code Gate 有効)



AISCGD0.

* CodeGate Off, In-Stand
(スタンド使用時 CodeGate 無効)



AISCGD1.

CodeGate On, In-Stand
(スタンド使用時 CodeGate 有効)



AOSCGD0.

CodeGate Off, Out-of-Stand
(スタンド不使用時 CodeGate 無効)



AOSCGD1.

* CodeGate On, Out-of-Stand
(スタンド不使用時 CodeGate 有効)

物体検出モード

物体検出モードは、物体（読み取り対象）がスキャナの読み取り範囲にあるとき、LED を使って検出します。物体が検出されたら、レーザーが点灯し、スキャナはバーコードの読み取りを開始します。

初期設定= Object Detection Mode On In-Stand (スタンド使用時 物体検出モード有効)



AISOEND.

Object Detection Mode Off, In-Stand
(スタンド使用時、物体検出モード無効)



AISOEN1.

* Object Detection Mode On, In-Stand
(スタンド使用時、物体検出モード有効)



AOSOEND.

* Object Detection Mode Off, Out-of-Stand
(スタンド不使用時、物体検出モード無効)



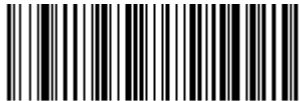
AOSOEN1.

Object Detection Mode On, Out-of-Stand
(スタンド不使用時、物体検出モード有効)

読み取り成功後の物体検出モード終了

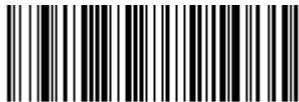
バーコードが検出され、スキャナでの読み取りに成功した後、そのままレーザーの照射とバーコードの読み取りを続けるか、レーザーを消灯してバーコードの読み取りを停止するか設定することができます。**End Object Detection After Good Read** を有効にすると、読み取り成功後にレーザーが消灯され、バーコードの読み取りを終了します。**Do Not End Object Detection After Good Read** を有効にすると、読み取り成功後もレーザーが照射されます

初期設定= *End Object Detection After Good Read* (読み取り成功後、物体検出モード終了)



AISOGD0.

**Do Not End Object Detection
After Good Read In-Stand**
(スタンド使用時に読み取り成功後、
物体検出モードを維持)



AOSOGD0.

**Do Not End Object Detection
After Good Read Out-of-Stand**
(スタンド不使用時に読み取り成功後、
物体検出モードを維持)



AISOGD1.

*** End Object Detection After
Good Read In-Stand**
(スタンド使用時に読み取り成功後、
物体検出モードを終了)



AOSOGD1.

*** End Object Detection After
Good Read Out-of-Stand**
(スタンド不使用時に読み取り成功後、
物体検出モードを終了)

物体検出モード時のレーザータイムアウト

物体が検出されてからのレーザー照射時間とバーコードのデコード試行時間を設定することができます。以下のバーコードを読み取り、次にプログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間（1～65535ミリ秒）を設定し、**Save**（保存）バーコードを読み取ってください。

初期設定= 5000 ミリ秒



AISODT.

Object Detection Laser Timeout, In-Stand
(スタンド使用時の
物体検出レーザータイムアウト)



AOSODT.

Object Detection Laser Timeout, Out-of-Stand
(スタンド不使用時の
物体検出レーザータイムアウト)

物体検出距離

スキャナとスタンドを使用していて、物体検出モードを有効にしている場合、物体を検出する範囲を設定することができます。Short ではスキャナから約 12.7cm 離れた物体を検出するよう設定されます。一方、Long ではスキャナから約 25.4cm 離れた物体を検出するよう設定されます。

初期設定= Short In-Stand (スタンド使用時、短距離)、Long Out-of-Stand (スタンド不使用時、長距離)



AISRNG2.

*** Short In-Stand**
(スタンド使用時、短距離)



AISRNG1.

Long In-Stand
(スタンド使用時、長距離)



AOSRNG2.

Short Out-of-Stand
(スタンド不使用時、短距離)



AOSRNG1.

*** Long Out-of-Stand**
(スタンド不使用時、長距離)

シリアルトリガーモード：起動

ホストシステムから特定のキャラクタを送ることによってスキャナが読み取りを開始するように設定することができます。起動キャラクタを受信すると、スキャナはシリアルトリガーモード時のレーザータイムアウト ([4-14 ページ](#)) に達するか、また停止キャラクタ ([4-15 ページ](#)の終了キャラクタ参照)を受信するか、もしくはバーコードデータが送信されるまで読み取りを続けます。シリアルトリガーモードを使用するには、以下のバーコードを読み取り、次にホストシステムから送信される読み取り開始を指示する起動キャラクタ (以下) を選択します。

初期設定= Off (無効)



HSTCEND.

*** Off**
(無効)



HSTCEND.

On
(有効)

起動キャラクタ

シリアルトリガーモード使用時に読み取りを開始させるキャラクタを設定します。[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート（コードページ 1252）から、読み取り開始に用いられるキャラクタを示す HEX 値を見つけてください。

以下のバーコードを読み取り、次にプログラミングチャートから ASCII 文字を示す英数字の組み合わせを読み取ります。その後、**Save（保存）**を読み取って完了です。



HSTACH.
Activation Character
(起動キャラクタ)

読み取り成功後のシリアルトリガーモードの終了

バーコードが検出され、スキャナがデータを読み取った後、レーザーの照射とバーコードの読み取りを継続するか、レーザーを消灯して読み取りを停止するかのいずれかを設定することができます。**End Character Activation After Good Read** を有効にすると、読み取り成功後にレーザーが消灯し、バーコードの読み取りを終了します。**Do Not End Character Activation After Good Read** を有効にすると、読み取り成功後もレーザーが照射されます。

初期設定= *End Character Activation After Good Read* (読み取り成功後、シリアルトリガーモードを終了)



HSTCGD0.
Do Not End Character Activation After Good Read
(読み取り成功後もシリアルトリガーモード
による起動を維持)



HSTCGD1.
*** End Character Activation After Good Read**
(読み取り成功後、シリアルトリガーモード
による起動を終了)

シリアルトリガーモード時のレーザータイムアウト

シリアルトリガーモード時のレーザー照射時間とバーコードのデコード試行時間を設定できます。タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、次にプログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間（1~65,535 ミリ秒）を設定し、最後に **Save（保存）**を読み取ってください。

初期設定= 5000 ミリ秒



HSTCDT.
Character Activation Laser Timeout
(シリアルトリガーモードによる起動時のレーザータイムアウト)

シリアルトリガーモード：終了

スキャナに読み取りを開始させるためにキャラクタを送った後は、同様に終了キャラクタを送って読み取りを終了させることができます。シリアルトリガーモードを使用するためには、以下のバーコードを読み取り、次にシリアルトリガーモードの終了キャラクタ（以下）を用いて、ホストシステムから読み取り終了の合図を出すためのキャラクタを選択します。

初期設定= Off（無効）



HSTDEN0.

* Off
（無効）



HSTDEN1.

On
（有効）

終了キャラクタ

シリアルトリガーモードを使用してバーコードの読み取りを終了させる際に用いられるキャラクタを設定します。[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート（コードページ 1252）から読み取り終了に用いたいキャラクタを示す HEX 値を見つけてください。そして、次のバーコードを読み取った後、プログラミングチャートから ASCII 文字を示す英数字の組み合わせを読み取ってください。最後に **Save（保存）** を読み取って完了です。



HSTDCH.

Deactivation Character
（終了キャラクタ）

同一シンボル再読み取りのディレー（間隔）

同じバーコードを 2 回目に読み取るまでの間隔を秒単位で設定します。再読み取りの間隔を設定することで、同じバーコードを誤って再読み取りするのを防ぎます。間隔を長くすると、同じバーコードを誤って再読するエラーを最小限にするのに効果的です。バーコードの連続読み取りが必要な場合は、間隔を短くします。

初期設定= Medium（中間）



DLYRRD500.

Short (500 ms)
(短 - 500ms)



DLYRRD1000.

Long (1000 ms)
(長 - 1000ms)



DLYRRD750.

*** Medium (750 ms)**
(中 - 750ms)



DLYRRD2000.

Extra Long (2000 ms)
(超長 - 2000ms)

ユーザー定義の再読み取りディレー（間隔）

再読み取りの間隔を独自の長さに設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取って間隔（0~30,000 ミリ秒）を設定し、最後に **Save（保存）** を読み取ります。



DLYRRD.

User-Specified Reread Delay
(ユーザー定義の再読み取りディレー)

アウトプットシーケンスの概要

アウトプットシーケンスの要求

アウトプットシーケンスを無効にすると、バーコードデータはスキャナがデコードしたままの状態ですべてのデータが出力されます。一方、有効の場合、すべてのバーコードデータは事前に設定したシーケンスで出力されなければならず、合っていない場合は、スキャナは出力データをホストシステムに送信しません。詳しくは、[4-21 ページ](#)の『アウトプットシーケンスの要求』をご参照ください。

アウトプットシーケンスエディタ

この設定により、バーコードが読み取られる順序に関係なく、(複数のシンボルを読み取るとき) アプリケーションに必要な任意の順序でデータを出力するようにスキャナを設定できます。**Default Sequence** (シーケンスの初期化) のバーコードを読み取ると、下記の汎用値にスキャナを設定します。これが初期設定になっています。**Default Sequence** のバーコードを読み取る前に必ずフォーマットをすべて削除するか、クリアしてください。

注意 : CodeGate が有効な場合、一連の各バーコードを読み取っている間、ボタンが押し続けなければなりません。

注意 : アウトプットシーケンスエディタを設定するときは、アプリケーションで求められているコード ID、コード長、および一致させたいキャラクタを確認する必要があります。プログラミングチャートの英数字シンボル (裏表紙の内側) を用いてこれらのオプションを読み取ってください。

アウトプットシーケンスの追加

1. **Enter Sequence** (シーケンス開始) のバーコードを読み取り、アウトプットシーケンスの追加を開始します。([4-21 ページ](#) の『アウトプットシーケンスの要求』を参照)
2. **Code I.D**
バーコードの種類を指定します。 [A-1 ページ](#) のシンボルチャートでアウトプットシーケンスフォーマットを適用するシンボルを確認します。シンボルの HEX 値を確認し、プログラミングチャート (裏表紙の内側) から 2 桁の HEX 値を読み取ります。
3. **コード長**
バーコードの長さ (最大 9,999 桁) を指定します。プログラミングチャートから 4 桁のデータ桁数を読み取ってください。(*注意* : 50 桁は 0050 と入力します。9999 は汎用の数字で、すべての長さを示しません。) 尚、(9999 を使用しない場合) この桁数には設定したプリフィクス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。
4. **キャラクタの照合**
バーコード先頭のキャラクタを指定し、照合します。 [A-3 ページ](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) で、照合させたいキャラクタを表す HEX 値を確認します。その後、プログラミングチャートを使用し、ASCII 文字を表す英数字の組合せを読み取ります。(99 は汎用の数字で、すべてのキャラクタを示します。)
5. アウトプットシーケンスエディタの終了
別のシンボル用にアウトプットシーケンスを開始するときは「F」「F」を読み取るか、または **Save** (保存) を読み取って入力を保存します。

他のプログラミング設定

- Discard (破棄)
アウトプットシーケンスの変更を保存しないで終了します。

アウトプットシーケンスの例

この例では、Code 93、Code 128、および Code 39 のバーコード読み取りに際し、下記のように Code 39 を始めに、次に Code 128 を、Code 93 を三番目に出力するよう読み取りたいとします。

注意：この例では、Code 93 を読み取り有効にしなければなりません。



A - Code 39



B - Code 128



C - Code 93

次のコマンド行でシーケンスエディタを設定します：

```
SEQBLK62999941FF6A999942FF69999943FF
```

コマンド行の内容は次のとおりです。

SEQBLK	シーケンスエディタの開始
62	Code 39 のコード ID
9999	Code 39 に適用するコード長、9999 = すべての長さ
41	Code 39 に適用する先頭キャラクタ、41h = 「A」
FF	最初のコードの終了
6A	Code 128 のコード ID
9999	Code 128 に適用するコード長、9999 = すべての長さ
42	Code 128 に適用する先頭キャラクタ、42h = 「B」
FF	2 番目のコードの終了
69	Code 93 のコード ID
9999	Code 93 のに適用するコード長、9999 = すべての長さ
43	Code 93 に適用する先頭キャラクタ、43h = 「C」
FF	3 番目のコードの終了

特定のデータ桁数を使用して先の例を設定するには、設定したプリフィクス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。[4-18 ページ](#)の例を使用しつつ <CR> サフィックスと特定のコード長を想定する場合は、次のコマンド行を使用します。

SEQBLK62001241FF6A001342FF69001243FF

コマンド行の内容は次のとおりです。

SEQBLK	シーケンスエディタの開始
62	Code 39 のコード ID
0012	A - Code 39 のコード長 (11)+CR サフィックス(1) = 12
41	Code 39 に適用する先頭キャラクタ、41h = 「A」
FF	最初のコードの終了
6A	Code 128 のコード ID
0013	B - Code 128 のコード長 (12)+CR サフィックス(1) = 13
42	Code 128 に適用する先頭キャラクタ、42h = “B”
FF	2 番目のコードの終了
69	Code 93 のコード ID
0012	C - Code 93 のコード長 (11) +CR サフィックス (1) = 12
43	Code 93 に適用する先頭キャラクタ、43h = “C”
FF	3 番目のコードの終了

アウトプットシーケンスエディタ



SEQBLK.

Enter Sequence
(シーケンス開始)



SEQDFT.

Default Sequence
(シーケンスの初期化)

シーケンスタイムアウト

アウトプットシーケンスにおいてバーコード読み取り間の最大時間を定めたいことがあるかもしれません。最大時間に達していなければ、アウトプットシーケンス操作は終了されます。タイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定するには、次のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間（1～65535 ミリ秒）を設定し、その後 **Save**（保存）を読み取ってください。

初期設定= 5000 ミリ秒



SEQDLY.

Sequence Timeout
(シーケンスタイムアウト)

シーケンス一致のブザー

初期設定では、スキャナはシーケンスの一致が確認されるとブザーを鳴らします。スキャナのブザー音を出したくない場合は、次の **Sequence Match Beeper Off** (シーケンス一致ブザー 無効) バーコードを読み取ってください。

初期設定= Sequence Match Beeper On (シーケンス一致ブザー 有効)



Sequence Match Beeper Off
(シーケンス一致ブザー 無効)



*** Sequence Match Beeper On**
(シーケンス一致ブザー 有効)

部分的シーケンス

アウトプットシーケンスのすべての基準が一致する前にアウトプットシーケンスが終了した場合、そこまでに得られたバーコードデータが「部分的シーケンス」となります。

Discard Partial Sequence (パーティカルシーケンス破棄) を読み取ると、アウトプットシーケンスが終了する前に途中で中断された場合、その部分的シーケンスを破棄します。

部分的シーケンスを送信するには、**Transmit Partial Sequence** (パーティカルシーケンス送信) を読み取ります。(一致するデータがないシーケンスのフィールドは、出力時に省略されます。) シーケンスタイムアウト ([4-19 ページ](#)) を設定した場合、そのタイムアウトになると、部分的シーケンスが送信されます。

初期設定= Discard Partial Sequence (パーティカルシーケンス破棄)



Transmit Partial Sequence
(パーティカルシーケンス送信)



*** Discard Partial Sequence**
(パーティカルシーケンス破棄)

アウトプットシーケンスの要求

アウトプットシーケンスが **Required (要求する)** のとき、出力データはすべて設定シーケンスどおりでなければなりません。不一致の場合、スキャナは出力データをホストシステムに送信しません。**On/Not Required (有効/要求しない)** のときは、編集されたシーケンスに合うように出力データを取得しようとします。取得できない場合、すべての出力データをそのままホストシステムに送信します。

Off の場合は、バーコードデータはスキャナがデコードしたままホストに出力されます。

初期設定 = Off (無効)



SEQ_EN2.
Required
(要求する)



SEQ_EN1.
On/Not Required
(有効/要求しない)



SEQ_END.
***Off (無効)**

No Read

No Read を有効にすると、スキャナがバーコードを読み取れない場合、通知します。EZConfig の Scan Data ウィンドウ ([9-2 ページ](#)参照) を使用している場合は、バーコードを読み取れなかった場合、「NR」と表示されます。No Read を無効にすると、「NR」は表示されません。

初期設定 = Off (無効)



SHWNRD1.
On
(オン)



SHWNRD0.
*** Off**
(オフ)

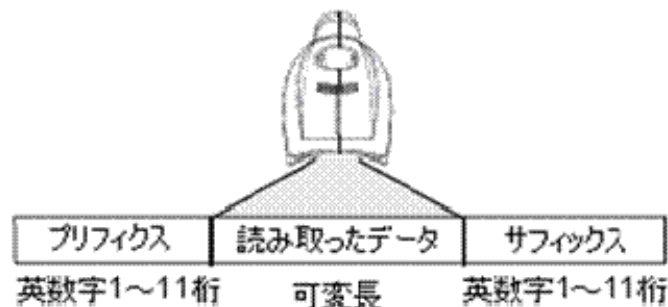
例えば「Error」や「Bad Code」など「NR」以外を表示したい場合、出力メッセージを編集できます。([6-1 ページ](#)からの『データフォーマット』参照。) No Read シンボルの HEX 値は 9C です。

データの編集

プリフィクス／サフィックスについて

バーコードを読み取ると、追加情報がバーコードデータと一緒にホストシステムに送信されます。バーコードデータと、ユーザー定義の追加データを合わせて「メッセージストリング」と呼びます。この章の設定は、ユーザー定義のデータをメッセージストリングに組み込むときに使用します。

プリフィクスとサフィックスのキャラクタとは、読み取ったバーコードデータの前後に追加して送信できるデータキャラクタです。すべてのシンボルに追加して送信するか、特定のシンボルにだけ追加して送信するかを指定できます。次の図は、メッセージストリングの中身を示します。



留意点

- 常にメッセージストリングを作る必要はありません。この章の設定を使用するのは、初期設定を変更したい場合のみです。
 プリフィクスの初期設定 = None (なし)
 サフィックスの初期設定 = インターフェースによって異なります。
- プリフィクスやサフィックスは、1つのシンボルまたはすべてのシンボルに追加・削除できます。
- [A-3 ページ](#)からの ASCII 変換チャート (コードページ 1252) でプリフィクスやサフィックスをどれでも、コード ID や AIM ID と一緒に追加できます。
- 1回の動作で複数のシンボルに対して複数の設定を結合できます。
- 出力表示したい順にプリフィクスとサフィックスを入力してください。
- (全シンボルではなく) 特定のシンボルを設定するとき、そのコード ID 値は追加されたプリフィクスまたはサフィックスのキャラクタと見なします。
- プリフィクス/サフィックスの最大追加可能桁数はヘッダー情報を含めて 32 桁です。

プリフィクスまたはサフィックスの追加手順

- Step 1** **Add Prefix** (プリフィクスの追加) もしくは **Add Suffix** (サフィックスの追加) のバーコードを読み取ります (5-3 ページ)。
- Step 2** シンボルチャート (A-1 ページのシンボルチャート参照) から、プリフィクスまたはサフィックスを適用したいシンボルの 2 桁の HEX 値を確認します。例えば、Code 128 の場合、コード ID は「J」、HEX ID は「6A」です。
- Step 3** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の数字を読み取ります。すべてのシンボルに適用する場合は「9」、「9」と読み取ります。
- Step 4** A-3 ページの ASCII 変換チャート (コードページ 1252) から、追加したいプリフィクスまたはサフィックスの HEX 値を確認します。
- Step 5** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから、確認した 2 桁の HEX 値を読み取ります。
- Step 6** プリフィクスまたはサフィックスのキャラクタごとに Step 4 と 5 を繰り返します。
- Step 7** コード Code ID を追加するときは、「5」、「C」、「8」、「0」を読み取ります。
AIM I.D を追加するときは、「5」、「C」、「8」、「1」を読み取ります。
バックslash (\) を追加するときは、「5」、「C」、「5」、「C」を読み取ります。

注意 : Step 7 でバックslash (\) を追加するときは、5C を 2 回読み取ってください。1 回目で先行バックslashを作成し、次にバックslash自体を作成します。

- Step 8** **Save** (保存) を読み取って、保存・終了するか、**Discard** (破棄) を読み取って保存せずに終了します。

別のシンボルにプリフィクスまたはサフィックスを追加するときは、Step 1~6 を繰り返します。

例 : サフィックスを特定のシンボルに追加する

CR (キャリッジリターン) サフィックスを UPC だけに送信する場合 :

- Step 1** **Add Suffix** を読み取ります。
- Step 2** シンボルチャート (A-1 ページのシンボルチャート参照) から UPC の 2 桁の HEX 値を確認します。
- Step 3** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから「6」、「3」を読み取ります。
- Step 4** A-3 ページの ASCII 変換チャート (コードページ 1252) から、CR (キャリッジリターン) の HEX 値を確認します。
- Step 5** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから、「0」、「D」を読み取ります。
- Step 6** **Save** (保存) を読み取ります。もしくは **Discard** (破棄) を読み取って保存せずに終了します。

1 つまたはすべてのプリフィクス・サフィックスの削除

シンボルのプリフィクスまたはサフィックスを 1 つまたはすべて削除できます。1 つのシンボルにプリフィクスやサフィックスを追加したことがある場合、**Clear One Prefix (Suffix)** で特定のキャラクタをシンボルから消去します。また、**Clear All Prefixes (Suffixes)** を選択すると、すべてのプリフィクスまたはサフィックスが削除されます。

-
- Step 1** **Clear One Prefix** (プリフィクスを1つ削除) または **Clear One Suffix** (サフィックスを1つ削除) のバーコードを読み取ります。
- Step 2** シンボルチャート ([A-1 ページ](#)のシンボルチャート参照) から、プリフィクスまたはサフィックスを削除したいシンボルの2桁のHEX値を確認します。
- Step 3** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから2桁のHEX値を読み取ります。すべてのシンボルの場合は「9」、「9」を読み取ります。

この変更は自動的に保存されます。

全シンボル体系へのキャリッジリターンサフィックス追加

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに一度に追加したい場合は、次のバーコードを読み取ります。この操作では、まず現在のサフィックスをすべて削除し、次にすべてのシンボルに対してキャリッジリターンサフィックスを設定します。



VSUF CR.

Add CR Suffix to All Symbologies
(すべてのシンボルへ CR サフィックスを追加)

プリフィクスの選択



PREBK2.

Add Prefix
(プリフィクスの追加)



PRECL2.

Clear One Prefix
(プリフィクスを1つ削除)



PRECA2.

Clear All Prefixes
(すべてのプリフィクスを削除)

サフィックスの選択



SUFBK2.

Add Suffix
(サフィックスの追加)



SUFCA2.

Clear All Suffixes
(すべてのサフィックスを削除)



SUFCL2.

Clear One Suffix
(サフィックス1つを削除)

代替拡張 ASCII キャラクタの送信

下向きの矢印や Alt/Make、Alt/Break コマンドといった、拡張 ASCII 文字表でサポートされていない特殊なキーボード機能をエミュレートする必要がある場合、拡張 ASCII 文字代替 ([5-5 ページ](#)) でキーボードファンクションキーの範囲と該当する DEC 値、および HEX 値を参照してください。

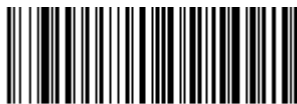
Transmit Alternate Extended ASCII (代替拡張 ASCII 送信) バーコードを読み取ると、プリフィクスやサフィックスに入力されたすべての HEX 値は、それに該当するキーボードファンクションが出力されます。

例：Transmit Alternate Extended ASCII (代替拡張 ASCII 送信) が有効の場合、Add Suffix を読み取り、次に「9」「9」「8」「9」を読み取ると、すべてのシンボル(99)にページダウン (HEX 値 89) サフィックスが付加されます。

Transmit Normal Extended ASCII (標準拡張 ASCII 送信) が有効の場合、一般の拡張 ASCII 文字が送信されます ([A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照)。

例：Transmit Normal Extended ASCII (標準拡張 ASCII 送信) が有効の場合、Add Suffix を読み取り、次に「9」「9」「8」「9」を読み取ると、すべてのシンボル(99)に%のサフィックスが付加されます。

初期設定 = Transmit Alternate Extended ASCII (代替拡張 ASCII 送信)



KBDEXT0.

* **Transmit Alternate Extended ASCII**
(代替拡張 ASCII 送信)



KBDEXT1.

Transmit Normal Extended ASCII
(標準拡張 ASCII 送信)

代替拡張 ACSII キャラクタ表

代替拡張 ASCII キャラクタ					
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
128	80	上矢印 ↑	152	98	F9
129	81	下矢印 ↓	153	99	F10
130	82	右矢印 →	154	9A	F11
131	83	左矢印 ←	155	9B	F12
132	84	Insert	156	9C	数字キーパッド+
133	85	Delete	157	9D	数字キーパッド-
134	86	Home	158	9E	数字キーパッド*
135	87	End	159	9F	Caps Lock
136	88	Page Up	160	A0	Num Lock
137	89	Page down	161	A1	Left Alt
138	8A	Right ALT	162	A2	Left Ctrl
139	8B	Right CTRL	163	A3	Left Shift
140	8C	Reserved	164	A4	Right Shift
141	8D	Reserved	165	A5	Print Screen
142	8E	数字キーパッド Enter	166	A6	Tab
143	8F	数字キーパッド/	167	A7	Shift Tab
144	90	F1	168	A8	Enter
145	91	F2	169	A9	Esc
146	92	F3	170	AA	Alt Make
147	93	F4	171	AB	Alt Break
148	94	F5	172	AC	Control Make
149	95	F6	173	AD	Control Break
150	96	F7	174	AE	Alt Sequence with 1 Character
151	97	F8	175	AF	Ctrl Sequence with 1 Character

ファンクションコード送信

この設定を有効にした上で、読み取ったデータにファンクションコードが含まれていると、スキャナはそのファンクションコードをホストシステムに送信します。これらのファンクションコードは、[8-1 ページ](#)の『インターフェースキー』にて記載されています。キーボードウェッジモードのとき、読み取りコードはキーコードに変換されてから送信されます。

初期設定= Enable (有効)



RMVFNC0.

* Enable
(有効)



RMVFNC1.

Disable
(無効)

通信チェックキャラクタ

安全性強化のため、最初に送信されたキャラクタから計算が始まる LRC、二番目に送信されたキャラクタから計算を始める LRC、もしくは CRC のいずれかでチェックキャラクタの送信方法を指定することができます。

注意：この設定を選択すると、すべてのシンボルのデータにチェックキャラクタを追加されます。各シンボルへのチェックキャラクタを有効もしくは無効にする場合は、[7-1 ページ](#)以降の『シンボル』セクションを参照してください。

通信チェックキャラクタの種類を設定するには、以下のバーコードを読み取ってください。

初期設定= None (なし)



HSTXRC0.

* None
(なし)



HSTXRC1.

LRC Starts on 1st Character
(最初のキャラクタから計算する LRC)



HSTXRC2.

LRC Starts on 2nd Character



HSTXRC3.

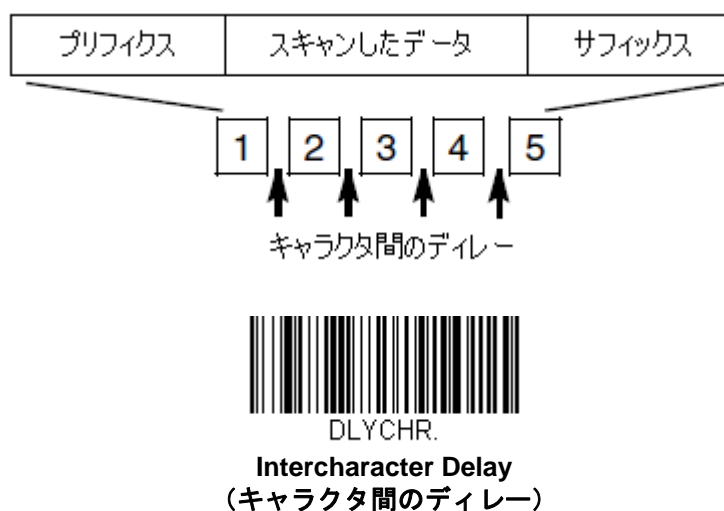
CRC

キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間のディレー（間隔）

データ送信が速すぎると、ホストシステムによっては情報（キャラクタ）を取りこぼすことがあります。キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間のディレー（間隔）を設定するとデータ送信が遅くなりますが、データがより確実に送信されます。

キャラクタ間ディレー

読み取ったデータの各キャラクタを送信する間隔は、最大 5000 ミリ秒（5 ミリ秒単位）まで設定できます。次の **Intercharacter Delay**（キャラクタ間ディレー）のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位の数字と **Save**（保存）のバーコードを読み取ります。



この間隔を削除するには、**Intercharacter Delay** のバーコードを読み取り、次に数字を 0 に設定します。その後本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save**（保存）のバーコードを読み取ります。

注意：キャラクタ間の間隔は、USB シリアルエミュレーションでは対応していません。

ユーザー指定のキャラクタ間ディレー

読み取ったデータの内、特定のキャラクタを送信後、キャラクタ間の間隔を最大 5,000 ミリ秒（5 ミリ秒単位）まで設定できます。以下の **Delay Length**（ディレーの長さ）のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位の数字を読み取った後、**Save**（保存）のバーコードを読み取ります。

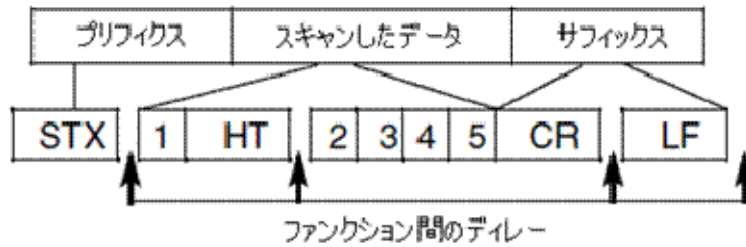
次に **Character to Trigger Delay**（ディレーを動作させるキャラクタ）のバーコードを読み取り、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート（コードページ 1252）で、ディレーを起動する ASCII 文字の 2 桁の HEX 値を読み取ります。



この間隔を削除するには、**Delay Length** のバーコードを読み取り、次にディレー数を 0 に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save (保存)** のバーコードを読み取ります。

ファンクション間ディレー

メッセージストリングの各セグメント送信において、ファンクション間の間隔を最大 5,000 ミリ秒 (5 ミリ秒単位) に設定できます。以下の **Interfunction Delay (ファンクション間のディレー)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位のディレー数と **Save (保存)** を読み取ってください。



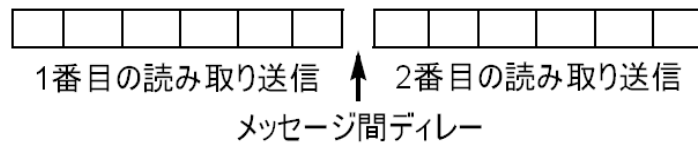
DLYFNC.

Interfunction Delay
(ファンクション間のディレー)

このディレーを削除するときは、**Interfunction Delay** のバーコードを読み取り、次にディレー数を 0 に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save (保存)** のバーコードを読み取ります。

メッセージ間ディレー

読み取ったデータの送信間隔を最大 5,000 ミリ秒 (5 ミリ秒単位) まで設定できます。以下の **Intermessage Delay (メッセージ間ディレー)** バーコードを読み取り、次に本書裏表紙内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位の数字と **Save (保存)** を読み取ります。



DLYMSG.

Intermessage Delay
(メッセージ間のディレー)

この間隔を削除するには、**Intermessage Delay** のバーコードを読み取り、次に設定値を 0 に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save (保存)** のバーコードを読み取ります。

データフォーマット

データフォーマットエディタについて

データフォーマットエディタを使って、スキヤナの出力を編集できます。例えば、バーコードデータを読み取りつつも、特定の箇所にキャラクタを挿入できます。このセクションに記載された設定は、出力を変更したい場合だけ使用してください。

データフォーマットの初期設定= None (なし)

通常、バーコードは読み取られると自動的に出力されます。フォーマットをする場合は、フォーマットプログラムの中で「送信」コマンド (6-4 ページの「送信コマンド」を参照) でデータを出力する必要があります。スキヤナには複数のフォーマットを設定可能です。フォーマットは、入力された順に堆積されますが、フォーマットが適用される順序は下記の通りです。

1. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
2. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
3. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
4. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の長さ
5. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
6. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
7. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
8. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の長さ

データフォーマットの構成はヘッダー情報を含め、256 バイトが最大サイズです。フォーマットは 50 バイト以上を保存できません。

データフォーマットの設定変更を行った後にフォーマットをすべて削除して工場初期設定に戻したい場合は、以下の **Default Data Format** (データフォーマットの初期化) バーコードを読み取ってください。



DFMDF3.

*** Default Data Format**
(データフォーマットの初期化)

データフォーマットの追加

Step 1 Enter Data Format のシンボルを読み取ります ([6-2 ページ](#))。

Step 2 Primary (基準) もしくは **Alternate (代用)** フォーマットを選択します。

基準のデータフォーマットにするか、または 3 つある代用フォーマットの 1 つにするかを決定します。全部で 4 つの異なるデータフォーマットの方法を保存することができます。基準フォーマットを設定するときは、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで「0」を読み取ります。代用フォーマットをプログラム設定する場合は、設定する代用フォーマットによって「1」、「2」、または「3」を読み取ります。(詳しくは [6-11 ページ](#) の基準もしくは代用フォーマットをご参照ください。)

Step 3 ターミナルの種類

ターミナル ID 表 ([6-4 ページ](#)) を参照し、お使いのコンピュータのターミナル ID を確認します。プログラミングチャートにある 3 つの数字バーコードを読み取り、そのターミナル ID でスキャナを設定します (数字を 3 つ入力してください)。例えば、AT ウェッジの場合は、「0」、「0」、「3」を読み取ります。

注意：ターミナル全種のワイルドカードは 099 です。

Step 4 コード ID

[A-1 ページ](#) のシンボルチャートでデータフォーマットを適用するシンボルを確認します。そのシンボルの HEX 値を確認し、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の HEX 値を読み取ります。

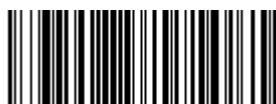
Step 5 コードの長さ

このシンボルバーコードデータの長さ (最大 9999 キャラクタ) を指定します。本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 4 桁のデータ桁数を読み取ります。(注意：50 キャラクタは 0050 と入力します。9999 は汎用の数字で、すべての長さを示します。)

Step 6 編集コマンド

[6-4 ページ](#) を参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルを読み取ります。各シンボルデータフォーマットには、94 の英数キャラクタを入力できます。

Step 7 データフォーマットの保存 には、**Save** を読み取ってください。保存しない場合は、**Discard (破棄)** を読み取ります。



MNUSAV.

Save
(保存)



DFMBK3.

Enter Data Format
(データフォーマットの開始)



MNUABT.

Discard
(破棄)

その他のプログラミング

- **Clear One Data Format (データフォーマットを1件削除する)**

1つのシンボルに対してデータフォーマットを1つ削除します。基準フォーマットを削除する場合は、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから「0」を読み取ります。代用フォーマットを削除する場合は、削除する代用フォーマットによって「1」、「2」、または「3」を読み取ります。その後、削除したい特定のデータフォーマットのターミナルの種類、コードID ([A-1 ページ](#)のシンボルチャートを参照)、およびバーコードデータ桁数を読み取ります。他のフォーマットはすべて影響を受けません。

- **Clear all Data Formats (全データフォーマット消去)**

すべてのデータフォーマットを削除します。

- **Save (保存)**

データフォーマット変更を保存して終了します。

- **Discard (破棄)**

すべてのデータフォーマット変更を保存せず、終了します。



DFMCL3.

Clear One Data Format
(データフォーマットを1つ削除)



DFMCA3.

Clear All Data Formats
(データフォーマットすべてを削除)



MNUSAV.

Save
(保存)



MNUABT.

Discard
(破棄)

ターミナル ID 表

ターミナル	機種	ID
IBM	PC/AT および互換機	003
	PS2 キーボード	002
	USB SurePOS ハンドヘルドスキャナ	128
	USB SurePOS 卓上スキャナ	129
RS232C	True	000
	TTL	000
RS485		051
USB	シリアル /COM ポート	130
	PC キーボード	124
	Mac キーボード	125
	日本語キーボード	134
	HID POS	131

データフォーマットエディタコマンド

送信コマンド

すべてのキャラクタの送信

- F1** 入力メッセージ内にあるすべてのメッセージを出力し、その後にユーザーが指定したキャラクタを挿入します。**Syntax = F1xx** (xx は、挿入したいキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください)。

いくつかのキャラクタの送信

- F2** 入力されたメッセージの内、いくつかのキャラクタを出力し、その後にユーザーが指定したキャラクタを挿入します。現在のカーソル位置から始まり、「nn」個のキャラクタまで、もしくは入力メッセージの最後のキャラクタまで続きます。続いて「xx」キャラクタとなります。**Syntax = F2nnxx** で、nn はキャラクタの数を示す数字 (00~99)、xx は、挿入したいキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください)。

特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信

- F3** 現在のカーソル位置のキャラクタから始まり、検索キャラクタ「**ss**」の手前までのキャラクタすべてを入力メッセージから抜き出して出力し、続いてユーザーが指定するキャラクタを挿入します。カーソルは「**ss**」キャラクタへと移動します。**Syntax = F3ssxx** (**ss** は検索するキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示し、**xx** は挿入したいキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。)

最後のキャラクタ以外のすべてのキャラクタを送信

- E9** 現在のカーソル位置から始まり、最後の「**nn**」キャラクタを除くすべてのキャラクタを出力します。カーソルは最後のキャラクタ位置から 1 つ過ぎたところへ移動します。**Syntax = E9nn** (**nn** はメッセージの最後で送られないキャラクタの数の数値 (00~99) を示しています。)

キャラクタを複数回挿入

- F4** 現在のカーソル位置はそのまま、「**xx**」キャラクタを「**nn**」回 出力メッセージと共に送信します。**Syntax = F4xxnn** (**xx** は、挿入したいキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示し、**nn** は送信する回数の数値 (00~99) を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。)

シンボル名の挿入

- B3** カーソルを動かすことなく、出力メッセージにバーコードシンボル名を挿入します。ハネウエルの ID が割り振られているシンボルのみ対応致します (A-1 ページのシンボルチャートを参照)。小数、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

バーコード長の挿入

- B4** カーソルを動かすことなく出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。バーコードの長さは数字の文字列によって示され、先頭の 0 は含まれません。

移動コマンド

カーソルを前方に移動

- F5** カーソルを現在の位置から「**nn**」キャラクタ前方へと移動させます。**Syntax = F5nn** (**nn** は、カーソルを前に移動するキャラクタ数 (00~99) を示しています。)

カーソルを後方に移動

- F6** カーソルを現在の位置から「**nn**」キャラクタ後方へと移動させます。**Syntax = F6nn** (**nn** は、カーソルをバックさせるキャラクタ数 (00~99) を示しています。)

カーソルを先頭に移動

F7 カーソルを入力メッセージの先頭キャラクタに移動させます。Syntax =F7

カーソルを最後に移動

EA カーソルを入力メッセージの最終キャラクタに移動します。Syntax =EA

検索コマンド

前方のキャラクタを検索

F8 入力メッセージ内で、現在のカーソル位置より前方にある「xx」キャラクタを検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax = F8xx (xx は、検索したいキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

後方のキャラクタ検索

F9 入力メッセージ内で、現在のカーソル位置より後方にある「xx」キャラクタを検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax = F9xx (xx は、検索したいキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

前方のストリングを検索

B0 現在のカーソル位置より前方にある「s」ストリングを検索し、カーソルは「s」ストリングに移動します。Syntax = B0nnnnS (nnnn はストリングの長さ (9999 まで) で、S は対応するストリングの各キャラクタの ASCII HEX 値からなっています。) 例えば、B0000454657374 では最初の 4 キャラクタのストリング「Test」を前方検索します。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

後方のストリングを検索

B1 現在のカーソル位置より後方にある「s」ストリングを検索し、カーソルは「s」ストリングに移動します。Syntax = B1nnnnS (nnnn はストリングの長さ (9999 まで) で、S は対応するストリングの各キャラクタの ASCII HEX 値からなっています。) 例えば、B1000454657374 では最初の 4 キャラクタのストリング「Test」を後方検索します。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

一致しないキャラクターの前方検索

- E6 入力メッセージ内で、現在のカーソル位置より前方にある「xx」以外のキャラクターを検索し、カーソルは「xx」ではないキャラクターに移動します。**Syntax = E6xx** (xx は、検索キャラクターの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクターコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

一致しないキャラクターの後方検索

- E7 入力メッセージ内で、現在のカーソル位置より後方にある「xx」以外のキャラクターを検索し、カーソルは「xx」ではないキャラクターに移動します。**Syntax = E7xx** (xx は、検索キャラクターの ASCII コードにコードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクターコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

その他のコマンド

キャラクター無効

- FB カーソルを他のコマンドで進めると同時に、現在のカーソル位置から最大 15 のキャラクターをすべて無効にします。FC コマンドを実行すると、この機能は停止します。カーソルは FB コマンドでは移動しません。**Syntax = Fbnnxxyy...zz** (nn はリストにある無効キャラクターの数、xyyy...zz は、無効にするキャラクターのリストです。

キャラクター無効の停止

- FC 無効フィルタを使用不能にし、無効になったキャラクターをすべて削除します。**Syntax = FC**

キャラクター置換

- E4 出力メッセージ内にあるキャラクターを最大 15 のキャラクターまで、カーソルの移動なしに置換します。E5 コマンドを実行するまで置換し続けます。**Syntax = E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2** (nn は (変更前および変更後) のキャラクターの合計です。xx1 は変更前のキャラクターを、xx2 は変更後のキャラクターを定義します。zz1 と zz2 まで同様です。

キャラクターの置換を停止

- E5 キャラクター置換を終了します。**Syntax = E5**

キャラクタの比較

- FE** 現在のカーソル位置のキャラクタをキャラクタ「**xx**」と比較します。キャラクタが同じ場合は、カーソルを1つ進めます。**Syntax = F xx** (**xx** は、比較するキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

ストリングの比較

- B2** 入力メッセージ内のストリングをストリング「**s**」と比較します。ストリングが同じ場合は、カーソルをそのストリングの末尾まで移動します。**Syntax= B2nnnnS**。nnnn はストリングの長さ (9999 まで) で、**S** は対応するストリングの各キャラクタの ASCII HEX 値からなっています。例えば、B2000454657374 なら、現在のカーソル位置のストリングと 4 つのキャラクタストリング「Test」を比べます。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[A-3 ページ](#)の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

数字チェック

- EC** 現在のカーソル位置に ASCII 数字があることを確認します。キャラクタが数字でない場合は、フォーマットを中止します。

数字以外のキャラクタチェック

- ED** 現在のカーソル位置に ASCII 数字以外のキャラクタがあることを確認します。キャラクタが数字の場合は、フォーマットを中止します。

ディレー (間隔) の挿入

- EF** 現在のカーソル位置から 49,995 ミリ秒までの (5 ミリ秒単位) ディレー (間隔) を挿入します。**Syntax = Efnnnn**。nnnn は5 ミリ秒単位での時間を示し、9999 までです。このコマンドはキーボードウェッジインターフェースの場合にのみ使用可能です。

データフォーマッタ

データフォーマッタを無効にすると、プリフィクスとサフィックスを含め、バーコードデータは読み取られたとおりにホストに出力されます。



DFM_END.

Data Formatter Off
(データフォーマッタ 無効)

読み取ったデータをユーザーが作成・保存したデータフォーマットに合致させたい場合、以下の設定をデータフォーマットに適用することができます。

Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix

(データフォーマッタ 有効、必須ではない、プリフィクス・サフィックスあり)

読み取ったデータはユーザー作成のデータフォーマットに合わせて編集され、プリフィクス、サフィックスも付加されて送信されます。

Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix

(データフォーマッタ 有効、必須ではない、プリフィクス・サフィックスなし)

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて編集されます。データフォーマットが特定のシンボルの場合、それらのプリフィクス、サフィックスは送信されません。

Data Format Required, Keep Prefix/Suffix

(データフォーマット必須、プリフィクス・サフィックスあり)

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて編集され、プリフィクス、サフィックスも送信されます。ユーザー作成のデータフォーマットに合わない場合はエラーブザーが鳴り、そのバーコードのデータは送信されません。エラーブザー無しでこのタイプのバーコード操作を行いたい場合は、「データフォーマット不適合エラーブザー」のページをご覧ください。

Data Format Required, Drop Prefix/Suffix

(データフォーマット必須、プリフィクス・サフィックスなし)

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて編集されます。データフォーマットが特定のシンボルである場合、これらのプリフィクス、サフィックスが送信されません。ユーザー作成のデータフォーマットに合わないデータの場合はすべてエラーブザーが鳴らされます。エラーブザーなしでこのタイプのバーコード操作を行いたい場合は、「データフォーマット不適合エラーブザー」のページをご覧ください。

操作を以下から 1 つ選んでください。

初期設定= Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix (データフォーマッタ 有効、必須ではない、プリフィクス・サフィックスあり)



DFM_EN3.

Data Formatter On, (データフォーマッタ 有効)
Not Required, (必須ではない)
Drop Prefix/Suffix (プリフィクス・サフィックスなし)



DFM_EN4.

Data Format Required, (データフォーマット必須)
Drop Prefix/Suffix (プリフィクス・サフィックスなし)



DFM_EN1.

* Data Formatter On, (データフォーマッタ 有効)
Not Required, (必須ではない)
Keep Prefix/Suffix (プリフィクス・サフィックスあり)



DFM_EN2.

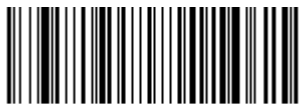
Data Format Required, (データフォーマット必須)
Keep Prefix/Suffix (プリフィクス・サフィックスあり)

データフォーマット不適合エラーブザー

ユーザーが指定するデータフォーマットに合わないバーコードが読み込まれた場合、通常、スキャナがエラーブザーを鳴らします。しかし、エラーブザーを聞くことなくバーコード読み込みを続けたい場合もあります。Data Format Non-Match Error Tone Off バーコードを読み込むと、データフォーマットと一致しなかったデータは送信されず、エラーブザーも鳴りません。

不適合のバーコードがあったときにエラーブザーを鳴らせた場合は、Data Format Non-Match Error Tone On バーコードを読み取ってください。

初期設定= Data Format Non-Match Error Tone On (データフォーマット不適合ブザー 有効)



DFMDEC1.

Data Format Non-Match Error Tone Off
(データフォーマット不適合エラーブザー 無効)



DFMDEC0.

* Data Format Non-Match Error Tone On
(データフォーマット不適合エラーブザー 有効)

基準／代用データフォーマット

データフォーマットは4種類保存することができ、それらのフォーマットを切り換えることができます。基準データフォーマットの場合は、「0」で保存してください。それ以外のフォーマットは「1」、「2」、「3」のどれかで保存してください。フォーマットが使えるようにするには、以下のバーコードのいずれか1つを読み取ってください。



ALTFNM0.

Primary Data Format
(基準データフォーマット)



ALTFNM2.

Data Format 2
(データフォーマット2)



ALTFNM1.

Data Format 1
(データフォーマット1)



ALTFNM3.

Data Format 3
(データフォーマット3)

シングルスキャンデータフォーマット変更

一回の読み取りに対してデータフォーマットの切り替えができます。以下のバーコードを代用データフォーマットで読み取り、上記で選択したフォーマット（基準、もしくは1、2、3）へと戻します。

例えば、データフォーマット3で機器を設定しているとします。下の **Single Scan-Data Format 1** を読み取ることで、ボタン1つ押すだけでデータフォーマット1へと切り換えます。次に読み取るバーコードはデータフォーマット1で読み取られ、またデータフォーマット3へと戻ります。



VSAF_1.

Single Scan-Data Format 1
(データフォーマット1での読み取り一回)



VSAF_3.

Single Scan-Data Format 3
(データフォーマット3での読み取り一回)



VSAF_0.

Data Format
(基準データフォーマットでの読み取り一回)



VSAF_2.

Single Scan-Data Format 2
(データフォーマット2での読み取り一回)

シンボル

- すべてのシンボル
- China Post Code (中国郵便コード)
- Codabar
- Code 11
- Code 39
- Code 32 Pharmaceutical (PARAF)
- Code 93
- Code 128
- EAN/JAN-8
- EAN/JAN-13
- GS1 データバー 標準型 (オムニディレクショナル)
- GS1 データバー 限定型 (リミテッド)
- GS1 データバー 拡張型 (エクспанデッド)
- GS1 エミュレーション
- GS1-128
- インタリーブド 2 オブ 5 (ITF)
- ISBT 128
- Matrix 2 of 5
- MSI
- NEC 2 of 5
- Plessey Code
- Postal Code
- Straight 2 of 5 IATA (2 バースタート/ストップ)
- Straight 2 of 5 Industrial (3 バースタート/ストップ)
- Telepen
- Trioptic Code
- UPC-A
- UPC-A/EAN-13 (拡張クーポンコード付き)
- UPC-E0

すべてのシンボル

お使いのスキヤナですべてのシンボルをデコードしたい場合は、**All Symbologies On** のバーコードを読み取ります。特定のシンボルだけを読み取りたい場合は、**All Symbologies Off** を読み取り、その後その特定シンボルに対して **On** バーコードを読み取ります。



ALLEN.A1.

All Symbologies On
(すべてのシンボル 読み取り許可)



ALLEN.A0.

All Symbologies Off
(すべてのシンボル 読み取り禁止)

読み取り桁数

バーコードシンボルによっては、読み取り桁数を設定できます。読み取ったバーコードのデータ桁数が指定した読み取り桁数と一致しなければ、エラーブザーが鳴ります。スキャナに強制的に一定桁数のバーコードデータを読み取らせるため、最短と最長を同じ値に設定できます。これは、読み取りエラーを減らすのに役立ちます。

例： 文字数が 9～20 のバーコードだけをデコードする場合
最短= 09、最長= 20

例： 文字数が 15 のバーコードだけをデコードする場合
最短= 15、最長= 15

初期設定の最短および最長読み取り桁数以外の値にする場合は、そのシンボルの説明に含まれているバーコードを読み取り、次に本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートの読み取り桁数の数値と **Save (保存)** のバーコードを読み取ります。最短と最長、および初期設定は、それぞれのシンボルと共に記載されています。

Codabar

【Codabar すべての設定を初期化】



Codabar 有効/無効



CBRENA1.

* On
(有効)



CBRENA0.

Off
(無効)

Codabar スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信する・しないが選択できます。

初期設定= Don't Transmit (送信しない)



CBRSSX1.

Transmit
(送信する)



CBRSSX0.

* Don't Transmit
(送信しない)

Codabar チェックキャラクタ

Codabar チェックキャラクタは、いろいろな「モジュラス」を用いて作成します。モジュラス 16、モジュラス 7 CD、CLSI のチェックキャラクタを用いた Codabar のバーコードだけを読み取るようにスキャナを設定できます。

初期設定= No Check Character (チェックキャラクタなし)

No Check Character (チェックキャラクタなし) は、チェックキャラクタの有無に関係なく、バーコードを読み取って送信することを示します。

Validate and Transmit (チェックキャラクタ有効、送信する) に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Codabar のバーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

Validate, but Don't Transmit (チェックキャラクタ有効、送信しない) に設定すると、チェックキャラクタと共に印刷された Codabar バーコードだけを読み取り、チェックキャラクタは送信されません。



CBRCK20.

*** No Check Character**
(チェックキャラクタなし)



CBRCK21.

Validate Modulo 16, but Don't Transmit
(モジュラス 16 有効、送信しない)



CBRCK22.

Validate Modulo 16 and Transmit
(モジュラス 16 有効、送信する)



CBRCK23.

Validate Modulo 7 CD, but Don't Transmit
(モジュラス 7 CD 有効、送信しない)



CBRCK24.

Validate Modulo 7 CD and Transmit
(モジュラス 7 CD 有効、送信する)



CBRCK25.

Validate CLSI, but Don't Transmit
(CLSI 有効、送信しない)



CBRCK26.

Validate CLSI and Transmit
(CLSI 有効、送信する)

Codabar 連結機能

Codabar にはシンボルの連結サポート機能があります。連結機能を有効にすると、スキャナは「D」のスタートキャラクタを有し、「D」のストップキャラクタがあるシンボルに隣接する Codabar のシンボルを検索します。この場合、2つのメッセージは1つに連結され、「D」キャラクタは省略されます。



連結されていない単独の「D」Codabar シンボルをデコードしないようにするには、**Require (要求する)** を選択します。この選択をしても、スタート/ストップ D キャラクタのない Codabar には影響ありません。

初期設定 = Off (無効)



CBRCT1.

On
(有効)



CBRCT0.

*** Off**
(無効)



CBRCT2.

Require
(要求する)

連結タイムアウト

連結におけるバーコード検索の際、次のバーコードを検索との間にディレー（間隔）を設定したい場合があります。間隔の長さ（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートからタイムアウト時間（1～65535 ミリ秒）の数値を読み取り、最後に **Save（保存）** を読み取ってください。

初期設定= 750



Concatenation Timeout
(連結タイムアウト)

Codabar 照合設定

Codabar バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **Codabar Redundancy (Codabar 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0～10 の照合回数を読み取った後、最後に **Save（保存）** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 0



Codabar Redundancy
(Codabar 照合設定)

Codabar 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1～80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 39

【Code 39 すべての設定を初期化】



Code 39 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

Code 39 スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信する・しないが選択できます。

初期設定 = Don't Transmit (送信しない)



Transmit
(送信する)



* Don't Transmit
(送信しない)

Code 39 チェックキャラクタ

No Check Character (チェックキャラクタなし) は、チェックキャラクタの有無に関係なく、バーコードを読み取って送信することを示します。チェックキャラクタを **Validate, but Don't Transmit (チェックキャラクタ有効、送信しない)** に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取り、チェックキャラクタは読み取ったデータと共に送信しません。

Validate and Transmit (チェックキャラクタ有効、送信する) に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

初期設定 = No Check Character (チェックキャラクタなし)



C39CK20.

*** No Check Character**
(チェックキャラクタなし)



C39CK21.

Validate, but Don't Transmit
(チェックキャラクタ有効、送信しない)



C39CK22.

Validate and Transmit
(チェックキャラクタ有効、送信する)

Code 39 照合設定

Code 39 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **Code 39 Redundancy (Code 39 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取り、最後に **Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



C39VOT.

Code 39 Redundancy
(Code 39 照合設定)

Code 39 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については、[7-2 ページ](#)『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



C39MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



C39MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 32 Pharmaceutical (PARAF)

Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの薬局で使用されている Code 39 の一種です。PARAF とも呼ばれます。



C39B321.

On
(有効)



C39B320.

* Off
(無効)

Full ASCII

Full ASCII Code 39 デコーディングを有効にすると、バーコードシンボル内のある一定のキャラクタペアが単独のキャラクタとして解釈されます。例えば、「\$V」は ASCII 文字の「SYN」として、「/C」は ASCII 文字の「#」としてデコードされます。

初期設定= Off (無効)

NUL %U	DLE \$P	SP SPACE	0 0	@ %V	P P	%W	p +P
SOH \$A	DC1 \$Q	! /A	1 1	A A	Q Q	a +A	q +Q
STX \$B	DC2 \$R	" /B	2 2	B B	R R	b +B	r +R
ETX \$C	DC3 \$S	# /C	3 3	C C	S S	c +C	s +S
EOT \$D	DC4 \$T	\$ /D	4 4	D D	T T	d +D	t +T
ENQ \$E	NAK \$U	% /E	5 5	E E	U U	e +E	u +U
ACK \$F	SYN \$V	& /F	6 6	F F	V V	f +F	v +V
BEL \$G	ETB \$W	' /G	7 7	G G	W W	g +G	w +W
BS \$H	CAN \$X	(/H	8 8	H H	X X	h +H	x +X
HT \$I	EM \$Y) /I	9 9	I I	Y Y	i +I	y +Y
LF \$J	SUB \$Z	* /J	: /Z	J J	Z Z	j +J	z +Z
VT \$K	ESC %A	+ /K	; %F	K K	[%K	k +K	{ %P
FF \$L	FS %B	, /L	< %G	L L	\ %L	l +L	%Q
CR \$M	GS %C	- -	= %H	M M] %M	m +M	} %R
SO \$N	RS %D	. .	> %I	N N	^ %N	n +N	~ %S
SI \$O	US %E	/ /O	? %J	O O	_ %O	o +O	DEL %T

キャラクタペアの「/M」と「/N」は、それぞれマイナス記号とピリオドになります。「/P」から「/Y」までは、「0」～「9」になります。



C39ASC1.

Full ASCII On
(Full ASCII 有効)



C39ASC0.

* Full ASCII Off
(Full ASCII 無効)

Interleaved 2 of 5 (ITF)

【Interleaved 2 of 5 すべての設定を初期化】



Interleaved 2 of 5 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

Follett フォーマット

初期設定=Off (無効)



* Off
(無効)



On
(有効)

NULL キャラクタ

Interleaved 2 of 5 は偶数のキャラクタを必要とします。奇数のキャラクタが存在することがあれば、それは NULL キャラクタがバーコードに組み込まれているからです。このタイプの Interleaved 2 of 5 バーコードをデコードするには、下の On (有効) バーコードを読み取ってください。

初期設定= Off (無効)



* Off
(無効)



On
(有効)

チェックデジット

No Check Digit (チェックデジットなし) は、スキャナがチェックデジットの有無に関係なく、バーコードデータを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit (チェックデジット有効、送信しない) に設定すると、チェックデジットが印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードだけを読み取り、チェックデジットは読み取ったデータと共に送信されません。

Validate and Transmit (チェックデジット有効、送信する) に設定すると、チェックデジットが印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。

初期設定= No Check Digit (チェックデジットなし)



125CK20.

*** No Check Digit**
(チェックデジットなし)



125CK21.

Validate, but Don't Transmit
(チェックデジット有効、送信しない)



125CK22.

Validate and Transmit
(チェックデジット有効、送信する)

Interleaved 2 of 5 照合設定

Interleaved 2 of 5 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **Interleaved 2 of 5 Redundancy (Interleaved 2 of 5 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取り、最後に **Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 0



125VOT.

Interleaved 2 of 5 Redundancy
(Interleaved 2 of 5 照合設定)

Interleaved 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=6、最大の初期設定=80



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

NEC 2 of 5

【NEC 2of 5 すべての設定を初期化】



NEC 2 of 5 有効/無効



On
(有効)



*** Off**
(無効)

チェックデジット

No Check Digit (チェックデジットなし) は、スキャナがチェックデジットの有無に関係なく、バーコードデータを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit (チェックデジット有効、送信しない) に設定すると、チェックデジットが印刷された NEC 2of 5 バーコードだけを読み取り、チェックデジットは読み取ったデータと共に送信されません。

Validate and Transmit (チェックデジット有効、送信する) に設定すると、チェックデジットが印刷された NEC 2 of 5 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。

初期設定 = **No Check Digit** (チェックデジットなし)



*** No Check Digit**
(チェックデジットなし)



Validate, but Don't Transmit
(チェックデジット有効、送信しない)



Validate and Transmit
(チェックデジット有効、送信する)

NEC 2 of 5 照合設定

NEC 2 of 5 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **NEC 2 of 5 Redundancy (NEC 2 of 5 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取り、最後に **Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



N25VOT.

NEC 2 of 5 Redundancy
(NEC 2 of 5 照合設定)

NEC 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



N25MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



N25MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 93

【Code 93 すべての設定を初期化】



C93DFT.

Code 93 有効/無効



C93ENA1.

* On
(有効)



C93ENA0.

Off
(無効)

Code 93 照合設定

Code 93 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **Code 93 Redundancy (Code 93 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、最後に **Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



C93VOT.

Code 93 Redundancy
(Code 93 照合設定)

Code 93 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



C93MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



C93MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Straight 2 of 5 Industrial (3バー スタート/ストップ)

【Straight 2 of 5 Industrial すべての設定を初期化】



Straight 2 of 5 Industrial 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Straight 2 of 5 Industrial 照合設定

Straight 2 of 5 Industrial バルコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバルコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バルコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **Straight 2 of 5 Industrial Redundancy (Straight 2 of 5 Industrial 照合設定)** バルコードを読み取った後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートの 0~10 から照合回数を読み取り、最後に **Save (保存)** バルコードを読み取ってください。

初期設定=0



Straight 2 of 5 Industrial Redundancy
(Straight 2 of 5 Industrial 照合設定)

Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大 = 3~80、最小の初期設定 = 3、最大の初期設定 = 80



R25MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



R25MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Straight 2 of 5 IATA (2 バーススタート/ストップ)

注意：このシンボルは Airline Code 5 としても知られています。

【Straight 2 of 5 IATA すべての設定を初期化】



A25DFT.

Straight 2 of 5 IATA 有効/無効



A25ENA1.

On
(有効)



A25ENA0.

*** Off**
(無効)

Straight 2 of 5 IATA 照合設定

Straight 2 of 5 IATA バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **Straight 2 of 5 IATA Redundancy** (**Straight 2 of 5 IATA Redundancy 照合設定**) バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save** (保存) バーコードを読み取ってください。

初期設定= 0



A25VOT.

Straight 2 of 5 IATA Redundancy
(**Straight 2 of 5 IATA 照合設定**)

Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#)の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=13、最大の初期設定=15



A25MIN.

Minimum Message Length
(**最小読み取り桁数**)



A25MAX.

Maximum Message Length
(**最大読み取り桁数**)

Matrix 2 of 5

【Matrix 2 of 5 すべての設定を初期化】



Matrix 2 of 5 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Matrix 2 of 5 チェックキャラクタ

No Check Character (チェックデジットなし) は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit (チェックデジット有効、送信しない) に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Matrix 2 of 5 バーコードだけを読み取り、チェックキャラクタは読み取ったデータと共に送信しません。

Validate and Transmit (チェックデジット有効、送信する) に設定すると、チェックデジットが印刷された Matrix 2 of 5 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。

初期設定= No Check Character (チェックキャラクタなし)



* No Check Character
(チェックキャラクタなし)



Validate, but Don't Transmit
(チェックデジット有効、送信しない)



Validate and Transmit
(チェックデジット有効、送信する)

Matrix 2 of 5 照合設定

Matrix 2 of 5 バーコードバーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合回数を調節するには、以下の **Matrix 2 of 5 Redundancy (Matrix 2 of 5 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取り、最後に **Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



Matrix 2 of 5 Redundancy
(Matrix 2 of 5 照合設定)

Matrix 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#)の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 11

【Code 11 すべての設定を初期化】



Code 11 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

必要チェックデジット数

Code 11 バーコードに必要なチェックデジットを1つまたは2つに設定します。**Auto Select Check Digits** (チェックデジット必要数の自動選択) では、バーコードの長さに基づいてチェックデジットの数を決定します。バーコードが 10 桁もしくはそれ以上の場合、チェックデジットが 2 つ必要となります。バーコードが 9 桁以下の場合、必要なチェックデジットは 1 つです。チェックデジットのデータはその機能を設定した場合のみ送信されます ([7-21 ページ](#)の『チェックデジットの有効化』参照)。

初期設定= Two Check Digits Required (チェックデジット必要数 2)



One Check Digit Required
(チェックデジット必要数 1)



* Two Check Digits Required
(チェックデジット必要数 2)



Auto Select Check Digits Required
(チェックデジット必要数の自動選択)

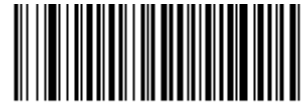
チェックデジットの有効化

チェックキャラクタを **Validate and Transmit** (チェックデジット有効、送信する) に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Code 11 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。



C11CK23.

**Validate and Transmit One
Check Digit**
(有効、チェックデジット1つ送信)



C11CK24.

**Validate and Transmit Two
Check Digits**
(有効、チェックデジット2つ送信)



C11CK25.

Select Check Digits
(有効、チェックデジット自動選択送信)

Code 11 照合設定

Code 11 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **Code 11 Redundancy (Code 11 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



C11VOT.

Code 11 Redundancy
(Code 11 照合設定)

Code 11 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) 『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最短の初期設定=3、最長の初期設定=80



C11MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



C11MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 128

【Code 128 すべての設定を初期化】



Code 128 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

128 グループ分離キャラクタ出力

Code 128 バーコード出力とともに、グループ分離キャラクタである「GS」 (0x1D HEX) を送信したい場合は、**On (有効)** バーコードを読み取ってください。**Off (無効)** を読み取った場合は、グループ分離キャラクタは出力されません。

初期設定 = Off (無効)



On
(有効)



* Off
(無効)

Code 128 照合設定

Code 128 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **Code 128 Redundancy (Code 128 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



128VOT.

Code 128 Redundancy
(Code 128 照合設定)

Code 128 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最短の初期設定=1、最大の初期設定=80



128MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



128MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

ISBT 128

ISBT は血液製剤ラベルの隣接シンボルの連結をサポートしており、Code 128 の変種です。ISBT 128 の連結有効・無効には、以下のバーコードを使用してください。

初期設定=Off (無効)



ISBENA1.

On
(有効)



ISBNEA0.

*** Off**
(無効)

連結タイムアウト

連結におけるバーコード検索の際、次のバーコードを検索するまでのディレー時間（間隔）を設定したい場合があります。ディレー時間（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間（1~65535 ミリ秒）を設定した後、**Save（保存）**を読み取ってください。

初期設定= 750



DLYCCT.

Concatenation Timeout
(連結タイムアウト)

ISBT 128 定義済連結シーケンス

注意：この機能を使用するには、Code 128 と ISBT 128 が有効でなければなりません。

以下のバーコードでご希望の定義済 ISBT 128 連結シーケンスが選択できます。一度連結シーケンスを選択したことがある場合は、ISBT 128 定義済連結シーケンス有効/無効を用いて、この機能を使用可能にしてください。

初期設定= Donation ID Number (001) and ABO/RhD Blood Groups (002)
(血液 ID 番号 (001) と血液型 ABO/RhD (002))



ISBPCS0.

* Donation ID Number (001) and
ABO/RhD Blood Groups (002)
(供血識別番号 (001) と ABO/RhD 血液グループ (002))



ISBPCS1.

Donation ID Number (001) and
Donor ID Number (019)
(供血識別番号 (001) とドナーID(019))



ISBPCS2.

Donation ID Number (001) and
Confidential Unit Exclusion Status
(供血識別番号 (001) と CUE (秘密裏供血除外) 情報)



ISBPCS3.

Product Code (003) and
Expiration Date (Form 1)
(製品コード (003) と有効期限 (フォーム 1))



ISBPCS4.

Product Code (003) and
Expiration Date (Form 2)
(製品コード (003) と有効期限 (フォーム 2))



ISBPCS5.

Product Code (003) and
Expiration Date (Form 3)
(製品コード (003) と有効期限 (フォーム 3))



ISBPCS6.

Product Code (003) and
Expiration Date (Form 4)
(製品コード (003) と有効期限 (フォーム 4))

ISBT 128 定義済連結シーケンスの有効/無効

以下のバーコードを選択することで、定義済の ISBT128 連結シーケンスを使用可能もしくは必須要件とすることができます。Off（無効）を読み取ると、定義済の連結シーケンスは無効になります。

Allow Predefined Sequence バーコードを読み取ると、スキャナは選択した連結シーケンスによって指定されたデータ組み合わせのみ出力します。

Require Predefined Sequence バーコードを読み取ると、データ送信には、選択した定義済連結シーケンスにて指定されたデータの組み合わせが要求され、シーケンスが読み取られない限り、データは出力されません。

初期設定= Off（無効）



ISBPCE0.

* Off
(無効)



ISBPCE1.

Allow Predefined Sequence
(定義済シーケンス許可)



ISBPCE2.

Require Predefined Sequence
(定義済シーケンス必須)

ISBT 128 ユーザー定義の連結シーケンス

注意：この機能を使用するには、Code 128 と ISBT 128 が有効でなければなりません。

以下のバーコードはカスタマイズされた ISBT 128 連結シーケンス作成に用います。右、左両方の1つ目と2つ目の位置に送信したい ID を選択してください。データ識別子の表については、ISBT 128 Standard Technical Specification を参照してください。

[A-3 ページ](#)からの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照して、識別子に必要なキャラクタを見つけます。そのキャラクタに対応する HEX 値を確認し、本書裏のプログラミングチャートから3桁の数値もしくはキャラクタ値を読み取ります。

例：寄付 ID ナンバー（001）を左 ID とし、製品コード（003）を右 ID にもつ連結シーケンスを作成したいとします。

ISBT インデックスのデータ構造では、寄付 ID ナンバーとして最初のキャラクタは「=」で、二番目のキャラクタは A~N、P~Z、1~9 からなっています。この例では、「G」を使用します。製品コードの始めのキャラクタは「=」で、二番目のキャラクタは「<」です。

-
- Step 1** 下の 1st Left Identifier (左 ID1 番目) のバーコードを読み取ります。
- Step 2** プログラミングチャートから 3、D を読み取ります (「=」の HEX 値)。
- Step 3** **Save (保存)** を読み取ります。
- Step 4** 下の 2nd Left Identifier (左 ID2 番目) のバーコードを読み取ります。
- Step 5** プログラミングチャートから 4、7 を読み取ります (「G」の HEX 値)。
- Step 6** **Save (保存)** を読み取ります。
- Step 7** 下の 1st Right Identifier (右 ID1 番目) のバーコードを読み取ります。
- Step 8** プログラミングチャートから 3、D を読み取ります (「=」の HEX 値)。
- Step 9** **Save (保存)** を読み取ります。
- Step 10** 下の 2nd Right Identifier (右 ID2 番目) のバーコードを読み取ります。
- Step 11** プログラミングチャートから 3、C を読み取ります (「<」の HEX 値)。
- Step 12** **Save (保存)** を読み取ります。

連結シーケンス設定後、この機能を無効にするには、ISBT 128 ユーザー定義の連結シーケンスを使用してください。

初期設定=0



ISBUL1.

1st Left Identifier (左 ID1 番目)



ISBUL2.

2nd Left Identifier (左 ID2 番目)



ISBUR1.

1st Right Identifier (右 ID1 番目)



ISBUR2.

2nd Right Identifier (右 ID2 番目)

ISBT 128 ユーザー定義の連結シーケンス 有効/無効

以下を選択することでユーザー定義の ISBT 128 連結シーケンスを無効もしくは必須化することができます。
Off (無効) を読み取ると、ユーザー定義の ISBT 128 連結シーケンスは無効になります。

Allow User-Defined Sequence (ユーザー定義のシーケンス許可) バーコードを読み取ると、スキャナは作成されたユーザー定義の連結シーケンスで指定されたデータ組み合わせのみを出力します。

Require User-Defined Sequence (ユーザー定義のシーケンス必須) バーコードを読み取ると、データ送信には、ユーザー定義の連結シーケンスで指定されたデータ組み合わせが要求され、シーケンスが読み取られない限り、データは出力されません。

初期設定= Off (無効)



ISBUCE0.

* Off
(無効)



ISBUCE1.

Allow User-Defined Sequence
(ユーザー定義のシーケンス許可)



ISBUCE2.

Require User-Defined Sequence
(ユーザー定義のシーケンス必須)

コンテンツ確認

On (有効) バーコードを読み取ると、チェックキャラクタの値がバーコードデータに従って出力されます。従って、チェックキャラクタがデータストリーム用に計算された協約に一致しているか確認することができます。

初期設定= Off (無効)



ISBXM01.

On
(有効)



ISBXM00.

* Off
(無効)

送信 ID

ISBT Code 128 データ識別子の送信は **Off (無効)** を読み取ることで無効にできます。**Off** を選択した場合、最初の 2 データ (ID) キャラクタは ISBT コードに寄付 ID 番号が含まれない限り、データストリームから削除されます。コードに寄付 ID 番号が含まれていれば、最初の ID キャラクタのみが寄付 ID 番号から消去され、二つ目のキャラクタは一般のデータとして送信されます。

初期設定= On (有効)



ISBM11.

* On
(有効)



ISBM10.

Off
(無効)

フラグ変換

タイプ 3 のフラグ数字は ISBT 128 バーコードにおいて寄付 ID 番号の一部となっています。これを **On (有効)** にすると、フラグデータは single MOD (37、2) キャラクタに変換され、バーコードデータとともに送信されます。フラグを送信したくない場合は、**Off (無効)** を読み取ってください。

初期設定= Off (無効)



ISBM21.

On
(有効)



ISBM20.

* Off
(無効)

GS1-128

【GS1-128 すべての設定を初期化】



GS1DFT.

GS1-128 有効/無効



GS1ENA1.

* On
(有効)



GS1ENA0.

Off
(無効)

GS1-128 アプリケーション識別子パーズング

この機能は、1 つの GS1-128 バーコードをバーコードに埋め込まれたアプリケーション識別子 (AI) の存在に基づき、複数の送信に分けることができるものです。バーコードをパケットに分けて AI を取り除きたいときは、**Transmit Without Identifiers (識別子なしの送信)** を読み取ってください。AI を含めたい場合は、**Transmit With Identifiers (識別子付きの送信)** を読み取ります。

初期設定= Off (無効)



GS1EMU0.

* Off
(無効)



GS1EMU1.

Transmit Without Identifiers
(識別子なしの送信)



GS1EMU2.

Transmit With Identifiers
(識別子付き送信)

GS1-128 照合設定

GS1-128 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。照合設定を調節するには、下の **GS1-128 Redundancy (GS1-128 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



GS1VOT.

GS1-128 Redundancy
(GS1-128 照合設定)

GS1-128 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#)の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



GS1MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



GS1MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Telepen

【Telepen すべての設定を初期化】



Telepen 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Telepen 出力

AIM Telepen Output (AIM Telepen 出力) を使用すると、スキャナはスタート/ストップパターン1のシンボルを読み取り、標準の Full ASCII (スタート/ストップパターン1) としてデコードします。

Original Telepen Output (オリジナル Telepen 出力) を選択すると、スタート/ストップパターン1のシンボルを読み取り、オプションの Full ASCII (スタート/ストップパターン2) を含む圧縮された数値としてデコードします。

初期設定= AIM Telepen Output (AIM Telepen 出力)



* AIM Telepen Output
(AIM Telepen 出力)



Original Telepen Output
(オリジナル Telepen 出力)

Telepen 照合設定

Telepen バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **Telepen Redundancy (Telepen 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



TEL.VOT.

Telepen Redundancy
(Telepen 照合設定)

Telepen 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#)の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最短の初期設定=3、最大の初期設定=80



TELMIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



TELMAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

UPC-A

【UPC-A すべての設定を初期化】



UPC-A 有効/無効



UPAENA1.

* On
(有効)



UPAENA0.

Off
(無効)

UPC-A のナンバーシステムとチェックデジット

UPC-A のナンバーシステムとチェックデジットの例 :



UPC-A システム番号

通常は読み取ったデータの最初に UPC シンボルのシステム番号を送信しますが、送信しないように設定できます。

初期設定= On (無効)



UPANSX1.

* On
(有効)



UPANSX0.

Off
(無効)

UPC-A チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。

初期設定= On (無効)



UPACKX1.

* On
(有効)



UPACKX0.

Off
(無効)

UPC-A アドオン

読み取ったすべての UPC-A データの最後に 2 桁または 5 桁のアドオンを追加します。

初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda (2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加 禁止)



UPAAD21.

2 Digit Addenda On
(アドオン 2 桁許可)



UPAAD20.

* 2 Digit Addenda Off
(アドオン 2 桁禁止)



UPAAD51.

5 Digit Addenda On
(アドオン 5 桁許可)



UPAAD50.

* 5 Digit Addenda Off
(アドオン 5 桁禁止)

UPC-A アドオンの要求

Required (要求する) バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある UPC-A バーコードだけを読み取ります。[7-34 ページ](#)に記載された 2 桁または 5 桁のアドオンを有効にする必要があります。

初期設定= Not Required (要求しない)



UPAARQ1.

Required
(要求する)



UPAARQ0.

*** Not Required**
(要求しない)

アドオンのタイムアウト

スキャナがアドオンを検索する時間を設定できます。アドオンがこの時間内に見つからない場合、UPC-A アドオン要求 ([7-35 ページ](#)参照) 使用時の設定によって、データは送信されるか、もしくは破棄されます。このタイムアウト時間 (ミリ秒単位) を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間 (0~65535 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** を読み取ってください。

初期設定= 100

注意: アドオンタイムアウト設定はすべてのアドオンとクーポンコードのサーチに適用されます。



DLYADD.

Addenda Timeout
(アドオンのタイムアウト)

UPC-A アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースができます無効にすると、スペースはできません。

初期設定= Off (無効)



UPAADS1.

On
(有効)



UPAADS0.

*** Off**
(無効)

UPC-A 照合設定

UPC-A バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **UPC-A Redundancy (UPC-A 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 0



UPAVOT.

**UPC-A Redundancy
(UPC-A 照合設定)**

拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13

次のバーコードを使用し、拡張クーポンコード付き UPC-A および EAN-13 を有効または無効にします。もし初期設定 (Off) のままにしておくと、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを1つのバーコードと見なします。

Allow Concatenation (連結許可) コードを読み取ると、スキャナがクーポンコードと拡張クーポンコードを1つの読み取りで認識した場合、どちらも別々のシンボルとして送信します。それ以外の場合は、読み取った最初のクーポンコードを送信します。

Require Concatenation (連結必須) コードを読み取ると、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを1つとして読み取り、データを送信します。両方のコードが読めない限り、データは出力されません。

初期設定= Off (無効)



CPNENA0.

* Off
(無効)



CPNENA1.

Allow Concatenation
(連結許可)



CPNENA2.

Require Concatenation
(連結必須)

ナンバーシステム 4 の UPC-A アドオン要求

「4」から始まる UPC-A バーコードのみにクーポンコードを要求するよう、スキャナを設定することができます。設定方法は以下のとおりです。

Require Coupon Code (クーポンコードを要求する) : 「4」から始まるすべてのバーコードがクーポンコードを持っていないことはありません。そのクーポンコードを有する UPC-A バーコードは1つの連結されたバーコードとして送信されます。クーポンコードがアドオンタイムアウト時間内に見つからなかった場合は、UPC-A バーコードを破棄します。

Don't Require Coupon Code (クーポンコードを要求しない) : **Require Coupon Code** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは、**Don't Require Coupon Code** を読み取ってください。UPC-A バーコードは拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13 使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= Don't Require Coupon Code (クーポンコードを要求しない)



ARQSY40.

* Don't Require Coupon Code
(クーポンコードを要求しない)



ARQSY41.

Require Coupon Code
(クーポンコードを要求する)

ナンバーシステム 5 の UPC-A アドオン要求

ここでは「5」から始まる UPC-A バーコードにクーポンコード、もしくは 2 桁のアドオン、あるいは 5 桁のアドオンにおけるなんらかの組み合わせが必須となるよう、スキャナを設定することができます。設定方法は以下のとおりです。

Require Coupon Code/Addenda (クーポンコード/追加でジットを要求する) : すべての「5」から始まる UPC-A バーコードがクーポンコードもしくは 2 桁のアドオン、5 桁のアドオン、あるいはこれらのアドオンの組み合わせを有していなければなりません。そして、クーポンコードならび/もしくはアドオンのある UPC-A バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。クーポンコードならび/もしくは必要とされるアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、UPC-A バーコードは破棄されます。

Don't Require Coupon Code/Addenda (クーポンコード/アドオンを要求しない) : **Require Coupon Code/Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは、**Don't Require Coupon Code/Addenda** を読み取ってください。UPC-A バーコードは拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13 使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= **Don't Require Coupon Code/Addenda (クーポンコード/アドオンを要求しない)**



ARQSY50.

* **Don't Require Coupon Code/Addenda**
(クーポンコード/アドオンを要求しない)



ARQSY51.

Require 2 Digit Addenda
(2 桁のアドオンを要求する)



ARQSY52.

Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求する)



ARQSY53.

Require 2 or 5 Digit Addenda
(2 桁もしくは 5 桁のアドオンを要求する)



ARQSY54.

Require Coupon Code
(クーポンコードを要求する)



ARQSY55.

Require Coupon Code or 2 Digit Addenda

(クーポンコードもしくは 2 桁のアドオンを要求する)



ARQSY56.

Require Coupon Code or 5 Digit Addenda

(クーポンコードもしくは 5 桁のアドオンを要求する)



ARQSY57.

Require Coupon Code, 2 Digit Addenda, or 5 Digit Addenda
(クーポンコードもしくは 2 桁あるいは 5 桁のアドオンを要求)

アドオンタイムアウト

クーポンコードを検索する時間を設定できます。時間内にクーポンコードが見つからなかった場合は、拡張コード付き UPC-A/EAN-13 もしくはナンバーシステム 4 の UPC-A アドオンの要求有効時の設定に基づき、データは送信されるかもしくは破棄されます。

このタイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間（0～65535 ミリ秒）を設定した後、**Save（保存）**を読み取ってください。

初期設定= 100

注意：アドオンタイムアウト設定はすべてのアドオンとクーポンコードの検索に適用されます



DLYADD.

Addenda Timeout
(アドオンタイムアウト)

UPC-E0

【UPC-E0 すべての設定を初期化】



UPC-E0 有効/無効

ほとんどの UPC バーコードは、「0」のナンバーシステムコードで始まります。これらのバーコードには、UPC-E0 の設定を使用します。「1」のナンバーシステムコードで始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、EAN/JAN-13 ([7-45 ページ](#)) を使用します。

初期設定= On



* UPC-E0 On
(UPC-E0 有効)



UPC-E0 Off
(UPC-E0 無効)

UPC-E0 の拡張

UPC-E バーコードを 12 桁の UPC-A フォーマットに拡張します。

初期設定= Off



On
(有効)



* Off
(無効)

UPC-E0 ナンバーシステム

UPC-A シンボルのシステム番号は通常読み取ったデータの最初に送信されますが、UPC-E の拡張を使用している場合、送信しないように設定されます。

初期設定= On



UPEEXN1.

* On
(有効)



UPEEXN0.

Off
(無効)

UPC-E0 のナンバーシステムとチェックデジット

UPC-E0 のナンバーシステムとチェックデジットの例 :



読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。

初期設定 = Off (無効)



UPECKX1.

On
(有効)



UPECKX0.

* Off
(無効)

UPC-E0 先頭の 0

この機能では、読み取ったデータの先頭にあるゼロ（0）を送信できます。送信しないようにするには、**Off（無効）**を読み取ってください。

初期設定= Off（無効）



UPENSX1.

On
(有効)



UPENSX0.

*** Off**
(無効)

UPC-E0 アドオン

読み取ったすべての UPC-E データの最後に 2 桁または 5 桁のアドオンを追加します。

初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda (2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加 無効)



UPEAD21.

2 Digit Addenda On
(アドオン 2 桁許可)



UPEAD20.

*** 2 Digit Addenda Off**
(アドオン 2 桁禁止)



UPEAD51.

5 Digit Addenda On
(アドオン 5 桁許可)



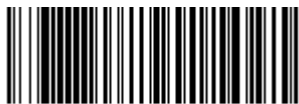
UPEAD50.

*** 5 Digit Addenda Off**
(アドオン 5 桁禁止)

UPC-E0 アドオン要求

Required (要求する) バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある UPC-E バーコードだけを読み取ります。

初期設定= Not Required (要求しない)



UPEARQ1.

Required
(要求する)



UPEARQ0.

*** Not Required**
(要求する)

アドオンタイムアウト

スキャナがアドオンを検索する時間を設定できます。アドオンがこの時間内に見つからない場合、UPC-E0 アドオン要求 (6-43 ページ参照) 使用時の設定によって、データは送信されるか、もしくは破棄されます。

このタイムアウト時間 (ミリ秒単位) を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間 (0~65535 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** を読み取ってください。

初期設定= 100

注意: アドオンタイムアウト設定はすべてのアドオンとクーポンコードの検索に適用されます。



DLYADD.

Addenda Timeout
(アドオンタイムアウト)

UPC-E0 アドオンセパレーター

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンデータとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。

初期設定= Off



UPEADS1.

On
(有効)



UPEADS0.

*** Off**
(無効)

UPC-E0 照合設定

UPC-E0 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **UPC-E0 Redundancy (UPC-E0 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 1



UPEVOT.

UPC-E0 Redundancy
(UPC-E0 照合設定)

EAN/JAN-13

【EAN/JAN-13 すべての設定を初期化】



EAN/JAN-13 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

EAN/JAN-13 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。

初期設定= On



* On
(有効)



Off
(無効)

EAN/JAN-13 アドオン

読み取ったすべての EAN/JAN-13 データの最後に 2 桁または 5 桁のアドオンを追加します。

初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda (2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加 無効)



E13AD21.

2 Digit Addenda On
(アドオン 2 桁許可)



E13AD51.

5 Digit Addenda On
(アドオン 5 桁許可)



E13AD20.

*** 2 Digit Addenda Off**
(アドオン 2 桁禁止)



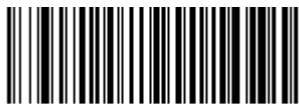
E13AD50.

*** 5 Digit Addenda Off**
(アドオン 5 桁禁止)

EAN/JAN-13 アドオン要求

Required (要求する) バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある EAN/JAN-13 バーコードだけを読み取ります。

初期設定= Not Required (要求しない)



E13ARQ1.

Required
(要求する)



E13ARQ0.

*** Not Required**
(要求しない)

2 から始まる EAN-13 アドオン要求

「2」から始まる EAN-13 バーコードのみに 2 桁のアドオンを要求するようスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおり。

Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求する) : すべての「2」から始まる EAN-13 バーコードが 2 桁のアドオンを有していなければなりません。そして、2 桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。2 桁のアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

注意 : 290 から始まる EAN-13 アドオン要求 ([7-46 ページ](#)) を使用している場合は、その設定がこの設定よりも優先されます。

Don't Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求しない) : **Require 2 Digit Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは、**Don't Require 2 Digit Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= **Don't Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求しない)**



ARQSY20.

* **Don't Require 2 Digit Addenda**
(2 桁のアドオンを要求しない)



ARQSY21.

Require 2 Digit Addenda
(2 桁のアドオンを要求する)

290 から始まる EAN-13 アドオン要求

「290」から始まる EAN-13 バーコードにのみ 5 桁のアドオンを要求するようスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおり。

Require 5 Digit Addend (5 桁のアドオンを要求する) : すべての「290」から始まる EAN-13 バーコードが 5 桁のアドオンを有していなければなりません。そして、5 桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。5 桁のアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

注意 : 2 から始まる EAN-13 アドオン要求 ([7-46 ページ](#)) を使用している場合は、その設定がこの設定よりも優先されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない) : **Require 5 Digit Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは **Don't Require 5 Digit Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= **Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)**



ARQ2900.

*** Don't Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求しない)**



ARQ2901.

**Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求する)**

378/379 から始まる EAN-13 アドオン要求

「378」もしくは「379」から始まる EAN-13 バーコードに 2 桁もしくは 5 桁のアドオンのなんらかの組み合わせを要求するようにスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおりです。

Require Addenda (アドオンを要求する) : 「378」もしくは「379」から始まるすべての EAN-13 バーコードが 2 桁、もしくは 5 桁、あるいはこのアドオンの組み合わせを有していなければなりません。このようなアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。要求されるアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない) : **Require Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは **Don't Require Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= *Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)*



ARQ3780.

* **Don't Require Addenda**
(アドオンを要求しない)



ARQ3782.

Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求する)



ARQ3781.

Require 2 Digit Addenda
(2 桁のアドオンを要求する)



ARQ3783.

Require 2 or 5 Digit Addenda
(2 桁もしくは 5 桁のアドオンを要求する)

414/419 から始まる EAN-13 アドオン要求

「414」もしくは「419」から始まる EAN-13 バーコードに 2 桁もしくは 5 桁のアドオンからなるなんらかの組み合わせを要求するようスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおりです。

Require Addenda (アドオンを要求する) : 「414」もしくは「419」から始まるすべての EAN-13 バーコードが 2 桁、もしくは 5 桁、あるいはこのアドオンの組み合わせを有していなければなりません。このようなアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。要求されるアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない) : **Require Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは **Don't Require Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= *Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)*



ARQ4140.

* **Don't Require Addenda**
(アドオンを要求しない)



ARQ4142.

Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求する)



ARQ4141.

Require 2 Digit Addenda
(2 桁のアドオンを要求する)



ARQ4143.

Require 2 or 5 Digit Addenda
(2 桁もしくは 5 桁のアドオンを要求する)

434/439 から始まる EAN-13 アドオン要求

「434」もしくは「439」から始まる EAN-13 バーコードに 2 桁もしくは 5 桁のアドオンからなるなんらかの組み合わせを要求するようスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおりです。

Require Addenda (アドオンを要求する) : 「434」もしくは「439」から始まるすべての EAN-13 バーコードが 2 桁、もしくは 5 桁、あるいはこのアドオンの組み合わせを有していなければなりません。このようなアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。要求されるアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない) **Require Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは **Don't Require Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= *Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)*



ARQ4340.

* **Don't Require Addenda**
(アドオンを要求しない)



ARQ4342.

Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求する)



ARQ4341.

Require 2 Digit Addenda
(2 桁のアドオンを要求する)



ARQ4343.

Require 2 or 5 Digit Addenda
(2 桁もしくは 5 桁のアドオンを要求する)

977 から始まる EAN-13 アドオン要求

「977」から始まる EAN-13 バーコードに 2 桁のアドオンを要求するようスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおりです。

Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求する) : すべての「977」から始まる EAN-13 バーコードが 2 桁のアドオンを有していなければなりません。そして、2 桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。2 桁のアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求しない) : **Require 2 Digit Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは、**Don't Require 2 Digit Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= *Don't Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求しない)*



ARQ9770.

* **Don't Require 2 Digit Addenda**
(2 桁のアドオンを要求しない)



ARQ9771.

Require 2 Digit Addenda
(2 桁のアドオンを要求する)

978 から始まる EAN-13 アドオン要求

「978」から始まる EAN-13 バーコードのみに 5 桁のアドオンを要求するようスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおりです。

Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求する) : すべての「978」から始まる EAN-13 バーコードが 5 桁のアドオンを有していなければなりません。そして、5 桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。5 桁のアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない) : **Require 5 Digit Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは **Don't Require 5 Digit Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= *Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)*



ARQ9780.

* **Don't Require 5 Digit Addenda**
(5 桁のアドオンを要求しない)



ARQ9781.

Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求する)

979 から始まる EAN-13 アドオン要求

「979」から始まる EAN-13 バーコードのみに 5 桁のアドオンを要求するようスキャナを設定できます。設定方法は以下のとおりです。

Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求する) : すべての「979」から始まる EAN-13 バーコードが 5 桁のアドオンを有していなければなりません。そして、5 桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードは 1 つの連結したバーコードとして送信されます。5 桁のアドオンがアドオンタイムアウト時間内に見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない) : **Require 5 Digit Addenda** を選んだ後、その機能を無効にしたいときは **Don't Require 5 Digit Addenda** を読み取ってください。EAN-13 バーコードは EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定に基づいて送信されます。

初期設定= *Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)*



ARQ9790.

* **Don't Require 5 Digit Addenda**
(5 桁のアドオンを要求しない)



ARQ9791.

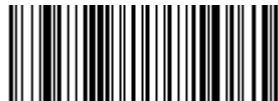
Require 5 Digit Addenda
(5 桁のアドオンを要求する)

アドオンタイムアウト

スキャナがアドオンをサーチする時間を設定できます。アドオンがこの時間内に見つからない場合、EAN/JAN-13 アドオン要求使用時の設定によって、データは送信されるか、もしくは破棄されます。このタイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ることでタイムアウト時間（0～65535 ミリ秒）を設定した後、**Save（保存）**を読み取ってください。

初期設定= 100

注意：アドオンタイムアウト設定はすべてのアドオンとクーポンコードの検索に適用されます。



DLYADD.

Addenda Timeout
(アドオンタイムアウト)

EAN/JAN-13 アドオンセパレーター

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。

初期設定= Off（無効）



E13ADS1.

On
(有効)



E13ADS0.

*** Off**
(無効)

注意：拡張クーポンコード付き EAN13 を有効もしくは無効にしたい場合は、拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13 ([7-37 ページ](#)) を参照してください。

EAN/JAN-13 照合設定

EAN/JAN-13 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **EAN/JAN-13 Redundancy (EAN/JAN-13 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0～10 の照合回数を読み取り、最後に **Save（保存）** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 0



E13VOT.

EAN/JAN-13 Redundancy
(EAN/JAN-13 照合設定)

ISBN 変換

ISBN は EAN-13 バーコードを用いて本にプリントされているものです。EAN-13 Bookland シンボルを同等の ISBN 番号フォーマットに変換するには、下の On バーコードを読み取ってください。

初期設定= Off (無効)



E13ISB1.

On
(有効)



E13ISB0.

*** Off**
(無効)

ISBN 13 桁への変換

EAN-13 バーコードを ISBN フォーマットへ変換する際、下の **Convert to 13-Digit On (13 桁への変換 有効)** を読み取ることによってバーコードを 13 桁へ変換することができます。

初期設定= Convert to 13-Digit Off (13 桁への変換 無効)



E13I131.

Convert to 13-Digit On
(13 桁への変換 有効)



E13I130.

***Convert to 13-Digit Off**
(13 桁への変換 無効)

ISBN 再変換

一般の使用では、EAN-13 バーコードの始めの 2~3 桁は出版国を示しています。この国名プリフィクスは 978 と 979 です。国名プリフィクス脱落のため ISBN を再変換するには、下の **Reformat On (再変換 有効)** バーコードを読み取ってください。

初期設定= Reformat Off (再変換 無効)



E13IBR1.

Reformat On
(再変換 有効)



E13IBR0.

***Reformat Off**
(再変換 無効)

ISSN 変換

この機能を有効にすると、EAN-13 977Bookland バーコードが同等の 8 桁の ISSN 番号フォーマットに変換されます。例えば、9770123456787 は 01234560 へと変換されます。

初期設定= Off (無効)



E13ISS1.

On
(有効)



E13ISS0.

* Off
(無効)

ISSN 再変換

Reformat On (再変換 有効) を読み取ると、EAN-13 977 Bookland バーコードは同等の 8 桁の ISSN 番号フォーマットに変換され、ハイフンが追加されて出力されます。

例えば、9770123456787 は 0123-456-0 と変換されます。(**Reformat On** を読み取る前に **ISSN On** ([7-57 ページ](#)) を読み取っておく必要があります。)

初期設定= Reformat Off (再変換 無効)



E13IBR1.

Reformat On
(再変換 有効)



E13IBR0.

* Reformat Off
(再変換 無効)

EAN/JAN-8

【EAN/JAN-8 すべての設定を初期化】



EAN/JAN-8 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

EAN/JAN-8 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。

初期設定= On (有効)



* On
(有効)



Off
(無効)

EAN/JAN-8 アドオン

読み取ったすべての EAN/JAN データの最後に 2 桁または 5 桁のデジットを追加します。

初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda (2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加 許可)



EA8AD21.

2 Digit Addenda On
(アドオン 2 桁許可)



EA8AD20.

*** 2 Digit Addenda Off**
(アドオン 2 桁禁止)



EA8AD51.

5 Digit Addenda On
(アドオン 5 桁許可)



EA8AD50.

*** 5 Digit Addenda Off**
(アドオン 5 桁禁止)

EAN/JAN-8 アドオン要求

Required (要求する) バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある EAN/JAN-8 バーコードだけを読み取ります。

初期設定= Not Required (要求しない)



EA8ARQ1.

Required
(要求する)



EA8ARQ0.

*** Not Required**
(要求しない)

アドオンタイムアウト

スキャナがアドオンを検索する時間を設定できます。アドオンがこの時間内に見つからない場合、EAN/JAN-8 アドオン要求使用時の設定によって、データは送信されるか、もしくは破棄されます。このタイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定するには、以下のバーコードを読み取り、プログラミングチャートから数字を読み取ること
でタイムアウト時間（0～65535 ミリ秒）を設定した後、**Save（保存）**を読み取ってください。

初期設定= 100

注意：アドオンタイムアウト設定はすべてのアドオンとクーポンコードの検索に適用されます。



Addenda Timeout（アドオンタイムアウト）

EAN/JAN-8 アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。

初期設定= Off（無効）



**On
（有効）**



*** Off
（無効）**

EAN/JAN-8 照合設定

EAN/JAN-8 バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **EAN/JAN-8 Redundancy（EAN/JAN-8 照合設定）** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートの 0～10 から照合回数を読み取った後、**Save（保存）** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 0



**EAN/JAN-8 Redundancy
（EAN/JAN-8 照合設定）**

MSI

【MSI すべての設定を初期化】



MSI 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

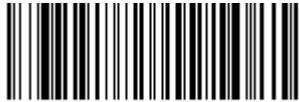
MSI チェックキャラクタ

MSI バーコードにはいろいろな種類のチェックキャラクタが使用されていますが、タイプ 10 のチェックキャラクタのある MSI バーコードを読み取るようにスキャナを設定できます。

初期設定=Validate Type 10, but Don't Transmit (タイプ 10 有効、送信しない)

Validate Type 10/11 and Transmit (タイプ 10/11 有効、送信する) に設定すると、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

Validate Type 10/11, but Don't Transmit (タイプ 10/11 有効、送信しない) に設定した場合は、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは読み取ったデータといっしょに送信しません。



MSICHK0.

*** Validate Type 10, but Don't Transmit**
(タイプ 10 有効、送信なし)



MSICHK2.

Validate 2 Type 10 Characters, but Don't Transmit
(タイプ 10 有効、2 キャラクタ、送信なし)



MSICHK6.

Disable MSI Check Characters
(MSI チェックキャラクタ無効)



MSICHK1.

Validate Type 10 and Transmit
(タイプ 10 有効、送信あり)



MSICHK3.

Validate 2 Type 10 Characters and Transmit
(タイプ 10 有効、2 キャラクタ、送信あり)

MSI 照合設定

MSI バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **MSI Redundancy** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



MSIVOT.

MSI Redundancy
(MSI 照合設定)

MSI 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最短の初期設定=3、最大の初期設定=80



MSIMIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



MSIMAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Plessey

【Plessey コード すべての設定を初期化】



Plessey コード 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Plessey チェックキャラクタ

No Check Character (チェックキャラクタなし) は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit (有効、送信しない) に設定されている場合、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Plessey バーコードのみ読み取り、チェックキャラクタは読み取ったデータと共に送信しません。

Validate and Transmit (有効、送信する) に設定した場合は、チェックデジットが印刷された Plessey バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

初期設定= No Check Character (チェックキャラクタなし)



* No Check Character
(チェックキャラクタなし)



Validate, but Don't Transmit
(有効、送信なし)



Validate and Transmit
(有効、送信あり)

Plessey 照合設定

Plessey バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **Plessey Redundancy (Plessey 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



PLSVOT.

Plessey Redundancy
(Plessey 照合設定)

Plessey 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) 『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最短の初期設定=3、最大の初期設定=80



PLSMIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



PLSMAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

GS1 データバー 標準型 (オムニディレクショナル)

【GS1 データバー標準型 すべての設定を初期化】



GS1 データバー標準型 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

GS1 データバー標準型 照合設定

GS1 データバー標準型バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **GS1 DataBar Omnidirectional Redundancy (GS1 データバー標準型 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



GS1 DataBar Omnidirectional Redundancy
(GS1 データバー標準型 照合設定)

GS1 データバー限定型 (リミテッド)

【GS1 データバー限定型 すべての設定を初期化】



GS1 データバー限定型 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

GS1 データバー限定型 照合設定

GS1 データバー限定型バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **GS1 DataBar Limited Redundancy (GS1 データバー限定型 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定= 0



GS1 DataBar Limited Redundancy
(GS1 データバー限定型 照合設定)

GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド)

【GS1 データバー拡張型 すべての設定を初期化】



RSEDFT.

GS1 データバー拡張型 有効/無効



RSEENA1.

* On
(有効)



RSEENAO.

Off
(無効)

GS1 データバー拡張型 照合設定

GS1 データバー拡張型バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードへのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **GS1 DataBar Expanded Redundancy (GS1 データバー拡張型 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



RSEVOT.

GS1 DataBar Expanded Redundancy
(GS1 データバー拡張型 照合設定)

GS1 データバー拡張型 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#) の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



RSEMIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



RSEMAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Trioptic Code

Trioptic Code とは磁気記憶媒体のラベリングに用いられるものです。

***Trioptic Code* 有効/無効**



TRIENA1.

On
(有効)



TRIENA0.

*** Off**
(無効)

GS1 エミュレーション

スキャナは任意の GS1 データキャリアからの出力を自動的にフォーマットし、同等の GS1-128 もしくは GS1 データバーシンボルでデコードされる内容をエミュレーションすることができます。GS1 データキャリアには UPC-A、UPC-E、EAN-13 ならびに EAN-8、ITF-14、GS1-128 ならびに GS1-128 データバーと GS1 コンポジットがあります。(GS1 データに対応するアプリケーションは、すべて単純化できます。データキャリアのタイプを 1 つ認識するだけですむからです。)

GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション) を読み取ると、すべての小売コード (UPC、UPC-E、EAN8、EAN13) は 16 桁に拡張されて出力されます。AIM ID が有効な場合、その値は GS1-128 AIM ID,]C1 となります (A-1 ページのシンボルチャートを参照)。

GS1 DataBar Emulation (GS1 データバーエミュレーション) を読み取ると、すべての小売コード (UPC、UPC-E、EAN8、EAN13) は 16 桁に拡張されて出力されます。AIM ID が有効な場合、その値は GS1-DataBar AIM ID,]em となります (A-1 ページのシンボルチャートを参照)。

GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張 無効) を読み取ると、小売コード拡張が無効となり、UPC-E の拡張は UPC-E0 の拡張 (6-41 ページ) 設定によって制御されます。AIM ID が有効な場合、その値は GS1-128 AIM ID,]C1 となります (A-1 ページのシンボルチャートを参照)。

EAN8 to EAN13 Conversion (EAN-8 から EAN-13 へ変換) を読み取ると、すべての EAN-8 バーコードは EAN-13 フォーマットに変換されます。

初期設定= GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーション 無効)



EANEMU1.

GS1-128 Emulation
(GS1-128 エミュレーション)



EANEMU2.

GS1 DataBar Emulation
(GS1 DataBar エミュレーション)



EANEMU3.

GS1 Code Expansion Off
(GS1 コード拡張 無効)



EANEMU4.

EAN8 to EAN13 Conversion
(EAN-8 から EAN-13 へ変換)



EANEMU0.

*** GS1 Emulation Off**
(GS1 エミュレーション 無効)

郵便コード

以下に 1 次元郵便コードを列挙してあります。1 次元郵便コード選択のいかなる組み合わせも一度に有効にすることが可能です。

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5)

【中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) すべての設定を初期化】



中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 有効/無効



中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 照合設定

中国郵便 (Hong Kong 2 of 5) バーコード読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合設定を設定したい場合があります。照合回数はバーコードが送信前にデコードされる回数を調節し、エラー回数を軽減します。ただし、照合回数が高いほど、バーコードのデコード時間がかかります。

照合設定を調節するには、下の **China Post (Hong Kong 2 of 5) Redundancy (中国郵便コード 照合設定)** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 0~10 の照合回数を読み取った後、**Save (保存)** バーコードを読み取ってください。

初期設定=0



China Post (Hong Kong 2 of 5) Redundancy
(中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 照合設定)

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については [7-2 ページ](#)の『読み取り桁数』を参照してください。

最小と最大=1~80、最小の初期設定=3、最大の初期設定=80



CPCMIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



CPCMAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

インターフェースキー

以下のキーボードファンクションコード、HEX/ASCII 値、Full ASCII「CTRL」+ は、スキャナと用いられるすべてのターミナルで適用されます。[2-17 ページ](#)『Control + ASCII 有効化モード』の項目を参照してください。

ファンクションコード	HEX/ASCII 値	Full ASCII “CTRL” +
NUL	00	@
SOH	01	A
STX	02	B
ETX	03	C
EOT	04	D
ENQ	05	E
ACK	06	F
BEL	07	G
BS	08	H
HT	09	I
LF	0A	J
VT	0B	K
FF	0C	L
CR	0D	M
SO	0E	N
SI	0F	O
DLE	10	P
DC1	11	Q
DC2	12	R
DC3	13	S
DC4	14	T
NAK	15	U
SYN	16	V
ETB	17	W
CAN	18	X
EM	19	Y
SUB	1A	Z
ESC	1B	[
FS	1C	\
GS	1D]
RS	1E	^
US	1F	-

「Full ASCII 「CTRL」 + 」の列にある最後の 5 つのキャラクタ ([\] 6 -) は、米国でのみ対応します。次の表は、これらの 5 つのキャラクタの国別の同等キャラクタを示します。

国名			コード		
アメリカ	[\]	6	-
ベルギー	[<]	6	-
スカンジナビア	8	<	9	6	-
フランス	^	8	\$	6	=
ドイツ		À	+	6	-
イタリア		\	+	6	-
スイス		<	..	6	-
イギリス	[ø]	6	-
デンマーク	8	\	9	6	-
ノルウェー	8	\	9	6	-
スペイン	[\]	6	-

ASCII	HEX	IBM AT/XT および PS2 互換機、WYSE PC/ST のサポートキー	アップル Mac/iMac のサポートキー
NUL	00	Reserved	Reserved
SOH	01	Enter (KP)	Enter/Numpad Enter
STX	02	Caps Lock	CAPS
ETX	03	ALT make	ALT make
EOT	04	ALT break	ALT break
ENQ	05	CTRL make	CTRL make
ACK	06	CTRL break	CTRL break
BEL	08	CR/Enter	RETURN
BS	08	Reserved	APPLE make
HT	09	Tab	TAB
LF	0A	Reserved	APPLE break
VT	0B	Tab	TAB
FF	0C	Delete	Del
CR	0D	CR/Enter	RETURN
SO	0E	Insert	Ins Help
SI	1F	Escape	ESC
DLE	10	F11	F11
DC1	11	Home	Home
DC2	12	Print	Prnt Scrn
DC3	13	Back Space	BACKSPACE
DC4	14	Back Tab	LSHIFT TAB
NAK	15	F12	F12
SYN	16	F1	F1
ETB	17	F2	F2
CAN	18	F3	F3
EM	19	F4	F4
SUB	1A	F5	F5
ESC	1B	F6	F6
FS	1C	F7	F7
GS	1D	F8	F8
RS	1E	F9	F9
US	1F	F10	F10
DEL	7F		BACKSPACE

ユーティリティ

すべてのシンボル体系へのテストコードID プリフィクス追加

これを選択すると、デコードされたシンボルの前にコード ID を送信することができます。(各シンボルを識別する単独のシンボルキャラクタコードについては、[A-1 ページ](#)からのシンボルチャートを参照してください。)ここでは、まず現在のプリフィクスをすべて消去し、その後すべてのシンボルについてコード ID プリフィクスを設定します。これは、電源を入れなおすと削除される一時設定です。



PRECA2,BK2995C80!

Add Code I.D. Prefix to All Symbologies (Temporary)
(全シンボルへ体系のコード ID プリフィクス追加 (一時的設定))

ソフトウェアの改訂情報表示

次のバーコードを読み取り、スキャナに関する現在のソフトウェアの改訂情報、シリアルナンバー、およびその他の製品情報を出力します。



REVINF.

Show Revision
(改訂情報表示)

データフォーマットの表示

次のバーコードを読み取り、現在のデータフォーマット設定を表示します。



DFMBK3?

Data Format Settings
(データフォーマット設定)

テストメニュー

テストメニューの **On** バーコードを読み取り、次に本書のプログラミングコードを読み取ると、スキャナはプログラミングコードの内容を表示します。プログラミングファンクションはまだ存在しますが、それに加えてそのプログラミングコードの内容もターミナルに出力されます。

注意：この機能は、通常のスキャナ操作では使用しないでください。



TSTMNU1.

On
(有効)



TSTMNU0.

*** Off**
(無効)

EZConfig について

EZConfig は PC の COM ポートにスキャナを接続することにより、多様な PC ベースのプログラミング機能を提供することができます。EZConfig を用いると、スキャナのアップグレードの為にファームウェアをダウンロードしたり、設定済みのパラメータを変更したり、プログラミングバーコードを作成して印刷することができます。さらに、スキャナのプログラミングパラメータを保存したり開いたりすることもできます。この保存ファイルは電子メールで送信でき、必要であれば、カスタマイズされたプログラミングパラメータをすべて含む単一のバーコードを作成し、どこへでもメールやファックスで送信することができます。他の場所にいるユーザーは、そのバーコードを読み取り、カスタマイズされたプログラミングに組み込むことができます。

スキャナとの通信のため、EZConfig ではコンピュータに少なくとも 1 つの空きシリアル通信ポートか、または物理的な USB ポートを使用したシリアルポートのエミュレーションが必要です。シリアルポートと RS-232 ケーブルをご使用の場合は、外部電源が必要です。USB シリアルポートのエミュレーションを使用している場合は、USB ケーブルのみ必要です。

EZConfig の操作

EZConfig ソフトウェアでは、以下の操作を実行します。

データ読み取り

バーコードを読み取って、ウィンドウにバーコードデータを表示することができます。また、シリアルコマンドをスキャナに送信したり、スキャナからの応答を受信したりでき、Scan Data ウィンドウでこれらを確認することができます。Scan Data ウィンドウに表示されるデータは、ファイルに保存したり、印刷することもできます。

環境設定

環境設定は、スキャナのプログラミングと環境設定データを表示します。スキャナのプログラミングと環境設定データは、異なるカテゴリに分類されます。各カテゴリは、アプリケーションエクスプローラの「Configure」ツリーノードの下にツリーアイテムとして表示されます。これらのツリーノードのうちの 1 つをクリックすると、その特定のカテゴリに所属するパラメータのフォームが右側に表示されます。「Configure」ツリーオプションには、スキャナ用に指定したプログラミングと環境設定パラメータのすべてが含まれています。これらのパラメータは、必要に応じて設定または変更できます。後で、変更した設定値をスキャナに書き込んだり、dcf ファイルに保存したりできます。

ウェブからの EZConfig のインストール

注意 : EZConfig には .NET ソフトウェアが必要です。お使いの PC に .NET がインストールされていない場合、EZConfig のインストール時に .NET のインストールを促すメッセージが表示されます。

1. www.honeywellaidc.com からハネウェルのウェブサイトアクセスします。
2. Downloads (ダウンロード) タブをクリックし、Software (ソフトウェア) を選択します。
3. ドロップダウンメニューから Select Product Number (型番を選択) をクリックし、製品番号を選択します。
4. EZConfig のリストをクリックします。
5. 画面に表示されるセキュリティ手順に従ってください。
6. 指示が出たら、Save (保存) を選択し、ファイルを c:\windows\temp ディレクトリに保存します。
7. ファイルのダウンロードが終了したらウェブサイトを閉じます。
8. エクスプローラを使用し、c:\windows\temp のファイルに進みます。
9. EZConfig Setup.exe ファイルをダブルクリックします。画面の指示に従って EZConfig プログラムをインストールします。
10. インストール時にデフォルトを選択した場合は、Start Menu-All Programs-Honeywell-EZConfig をクリックしてください。

シリアルプログラミングコマンド

シリアルプログラミングコマンドをプログラミングバーコードの代わりに使用できます。シリアルコマンドとプログラミングバーコードは、どちらもスキャナをプログラム設定します。各シリアルプログラミングコマンドの解説と例については、本書の対応するプログラミングバーコードを参照してください。

機器を RS-232 インターフェース用に設定する必要があります ([2-2 ページ](#)を参照)。下記のコマンドは、ターミナルエミュレーションソフトを用いて PC COM 経由で送信できます。

記述上の語句

メニューと質問コマンドの記述には、以下の取り決めが用いられています。

Parameter	コマンドの一部として送信する実際の値
[option]	コマンドのオプション部分
{Data}	コマンド内の選択肢
Bold	画面に表示されるメニュー名、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックス、およびウィンドウ

メニューコマンドシンタックス (構文)

メニューコマンドのシンタックスは以下のとおりです。(スペースを用いているのは、単にわかりやすくするためです。)

Prefix [:Name:] Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [: Tag SubTag {Data}] [...]Storage

Prefix 3つのASCIIのキャラクタ：SYN M CR (ASCII 22、77、13)

:Name: 「: Voyager :」を用いて、情報をスキャナに送信する(ホストに連結したベースとともに)。工場出荷時の Voyager スキャナの初期設定は Voyager スキャナです。名前がわからない場合は、「*」を*:の形で用います。

注意：ベースはすべてのワークグループの設定を保存し、それらと接続されるとすぐにスキャナに転送します。変更はベースに対してのみ行われ、スキャナには行われません。

Tag メニューコマンドグループを識別する大文字小文字の区別が無い3キャラクタのフィールド。例えば、RS232の環境設定は、すべて232というTagで識別されます。

SubTag タグループの中のメニューコマンドグループを識別する大文字・小文字の区別がない3キャラクタのフィールド。例えば、RS232ボーレートのSubTagはBADになります。

Data メニュー設定の新規値。TagとSubTagで識別されます。

Storage コマンドを適用するストレージテーブルを指定する1つのキャラクタ。感嘆符(!)は、機器の一時的なメモリー上でコマンド操作を実行します。ピリオド(.)の場合は、機器の不揮発性メモリー上でコマンド操作を実行します。不揮発性メモリー上は、始動時に保存したい半恒久的な変更の場合だけに使用します。

質問コマンド

設定について機器から返答を得るためのいくつかの特殊キャラクタを使用できます。

- ^ 設定の初期値
- ? 機器の現在の設定値
- * 設定で可能な範囲（機器のレスポンスでは、ダッシュ (-) で値の連続範囲を示し、パイプ (|) で不連続値の一覧の項目を区切ります。

:Name: フィールドの使い方 (オプション)

このコマンドを用いると、スキャンからの質問情報を返送します。

Tag フィールドの使い方

Tag フィールドに代わって質問を使用すると、コマンドの Storage フィールドで示された特定のストレージテーブルで使用可能なコマンドのセット全体に質問します。この場合、器には無視されるため、SubTag および Data フィールドは使用しないでください。

SubTag フィールドの使い方

SubTag フィールドに代わって質問を使用すると、Tag フィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットだけに質問します。この場合、機器には無視されるので Data フィールドは使用しないでください。

Data フィールドの使い方

Data フィールドに代わって質問を使用すると、Tag および SubTag フィールドで識別される特定コマンドだけに質問します。

複数コマンドの連結機能

複数のコマンドを 1 つの Prefix/Storage シーケンス内で使用できます。シーケンスのコマンドごとに繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、および Data フィールドだけです。同じ Tag でコマンドを追加する場合は、新しいコマンドシーケンスをコンマ (,) で区切り、追加コマンドの SubTag および Data フィールドだけを記述します。追加コマンドで異なる Tag フィールドが必要な場合は、そのコマンドをセミコロン (;) で前のコマンドと区切ります。

レスポンス

機器は、次の3つのレスポンスの1つによってシリアルコマンドに応答します。

ACK	正しくコマンドを実行した。
ENQ	Tag または SubTag コマンドが無効。
NAK	コマンドは正しいが、Data フィールドの入力がこの Tag および SubTag 組み合わせの許容範囲外。例えば、フィールドが 2 キャラクタしか受け付けられないときに最小読み取り桁数の入力が 100 になっている場合。

応答の際、機器はコマンドの各句読点（ピリオド、感嘆符、コンマ、またはセミコロン）の直前にステータスキャラクタを挿入したコマンドシーケンスを返します。

質問コマンドの例

以下の例では、角カッコ [] は非表示レスポンスを示します。

例：Codabar Coding Enable で可能な値の範囲は？

入力：cbrena*.
レスポンス：CBRENA0-1[ACK]

Codabar Coding Enable (CBRENA)の値の範囲が 0~1（オフとオン）であることを示します。

例：Codabar Coding Enable のデフォルト値は？

入力：cbrena^.
レスポンス：CBRENA1[ACK]

Codabar Coding Enable (CBRENA) のデフォルト設定が 1 またはオンであることを示しています。

例：Codabar Coding Enable に関する現在の機器設定は？

入力：cbrena?.
レスポンス：CBRENA1[ACK]

機器の Codabar Coding Enable (CBRENA) が 1 またはオンに設定されていることを示します。

例：すべての Codabar 選択項目に対する機器の設定は？

入力：cbr?.
レスポンス：CBRENA1[ACK],
SSX0[ACK],
CK20[ACK],
CCT1[ACK],
MIN2[ACK],
MAX60[ACK],
DFT[ACK].

このレスポンスは、機器の Codabar Coding Enable (CBRENA) が 1 または有効に設定され、スタート/ストップキャラクタ (SSX) は 0、または Don't Transmit に、チェックキャラクタ (CK2) は 0、または Not Required に、連結機能 (CCT) は 1、または Enabled に、最小読み取り桁数 (MIN) は 2 キャラクタに、最大読み取り桁数 (MAX) は 60 キャラクタに、またデフォルト設定 (DFT) には値が無いことを示しています。

シリアルトリガーコマンド

シリアルトリガーコマンドでスキャナを起動または停止できます。以下のコマンドを送ってボタンを起動/停止してください。

起動する : **SYN T CR**

停止する : **SYN U CR**

スキャナはバーコードが読み取られるか、停止コマンドが送信されるまで読み取りを行います。また、一定の時間が経つと自動的にオフになるよう設定することもできます (以下の読み取りタイムアウトを参照のこと)。

読み取りタイムアウト

スキャナの起動にシリアルコマンドを利用している際にスキャナのボタンのタイムアウト (ミリ秒単位) 時間設定を行うために用います。スキャナがタイムアウトした後は、ボタンを押すか、シリアルトリガーコマンドでスキャナを起動できます。**Read Time-Out (読み取りタイムアウト)** バーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値を読み取ることでタイムアウト時間 (0~300,000 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** を読み取ってください。

初期設定= 30,000 ミリ秒



TRGSTO.

Read Time-Out
(読み取りタイムアウト)

標準の製品初期設定へのリセット

スキャナに設定されているプログラミングオプションが不明の場合、またはオプション変更を行い、出荷時初期設定を復元したい場合は、下の **Standard Product Default Settings (標準製品初期設定)** バーコードを読み取ってください。



DEFAULT.

Standard Product Default Settings
(標準製品初期設定)

次ページ以降のチャートは、各メニューコマンド (プログラミングページ上アスタリスク (*) で表示) の標準の工場出荷時設定一覧です。

メニューコマンド

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
製品の初期設定			
カスタムデフォルト設定	カスタムデフォルト設定	MNUCDF	1-7
	カスタムデフォルト保存	DEFAULT	1-7
カスタムデフォルトへリセット	カスタムデフォルト アクティブ化	DEFAULT	1-8
工場出荷時初期設定へリセット	カスタムデフォルトの消去	DEFOVR	1-8
	初期設定へ戻す	DEFAULT	1-8
インターフェース設定			
プラグ&プレイコード： キーボードウェッジ	キーボードウェッジ (IBM PC AT と互換機、 CR サフィックスつき)	PAP_AT	2-1
	IBM PS2 キーボード (IBM PS2、 CR サフィックスつき)	PAPPS2	2-1
プラグ&プレイコード： RS232C	RS232 インターフェース 有効	PAP232	2-2
OPOS モード	OPOS モード 有効	PAPOPS	2-3
プラグ&プレイコード： RS485	IBM ポート 5B インターフェース	PAPP5B	2-2
	IBM ポート 9B HHBCR-1 インターフェース	PAP9B1	2-2
	IBM ポート 17 インターフェース	PAPP17	2-2
	IBM ポート 9B HHBCR-2 インターフェース	PAP9B2	2-2
プラグ&プレイコード： IBM SurePos	USB IBM SurePos ハンドヘルドスキャナ	PAPSPH	2-4
	USB IBM SurePos 卓上スキャナ	PAPSPT	2-4
IBM 補助インターフェース	補助インターフェース 無効	REMIFC0	2-4
	* 補助インターフェース 有効	REMIFC1	2-4
プラグ&プレイコード： USB	PC USB キーボード	PAP124	2-5
	マッキントッシュ USB キーボード	PAP125	2-5
	PC 日本語 USB キーボード	PAP134	2-5
	USB HID バーコードスキャナ	PAP131	2-5
HID フォールバックモード	HID フォールバックモード (0~60 分 *5 分)	USBFTO	2-5

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
インターフェース設定			
国別キーボード設定	*米国	KBDCTY0	2-12
	アラブ	KBDCTY91	2-12
	ベルギー	KBDCTY1	2-12
	中国	KBDCTY92	2-12
	フィンランド	KBDCTY2	2-12
	フランス	KBDCTY3	2-12
	ドイツ	KBDCTY4	2-12
	ハンガリー	KBDCTY19	2-12
	IBM 財務	KBDCTY90	2-12
	イタリア	KBDCTY5	2-12
	日本 ASCII	KBDCTY28	2-12
	韓国	KBDCTY93	2-12
	ロシア	KBDCTY26	2-13
	スロヴェニア	KBDCTY31	2-13
	スペイン	KBDCTY10	2-13
	スイス (ドイツ語)	KBDCTY6	2-13
	タイ	KBDCTY94	2-13
トルコ Q	KBDCTY24	2-13	
英国	KBDCTY7	2-13	
ベトナム	KBDCTY95	2-13	
キーボードウェッジの設定			
ALT モード	*無効	KBDALT0	2-15
	3 文字	KBDALT6	2-15
	4 文字	KBDALT7	2-15
キーボードスタイル	*通常	KBDSTY0	2-15
	Caps Lock	KBDSTY1	2-15
	Shift Lock	KBDSTY2	2-16
	NumLock 経由の Autocaps	KBDSTY7	2-16
	外付けキーボードエミュレーション	KBDSTY5	2-16
キーボード変換	*キーボード変換 無効	KBDCNV0	2-16
	すべてのキャラクタを大文字へ変換	KBDCNV1	2-16
	すべてのキャラクタを小文字へ変換	KBDCNV1	2-16
キーボードの設定	* Control + ASCII モード 無効	KBDCAS0	2-17
	DOS モードの Control + ASCII	KBDCAS1	2-17
	Windows モードの Control + ASCII	KBDCAS2	2-17
	Windows モード、 プリフィクス/サフィックス無効	KBDCAS3	2-17
	*数字キーパッドモード 無効	KBDNPS0	2-17
	数字キーパッドモード 有効	KBDNPS1	2-17
スキャンコード間ディレイ	スキャンコード間ディレイ *0 (1~30 ミリ秒から指定)	KBDDLY##	2-18
<F0> ブレイク文字	<F0>ブレイク文字送信不可	KBDF0B0	2-18
	*<F0>ブレイク文字送信許可	KBDF0B1	2-18
キーボードウェッジ初期設定	キーボードウェッジの初期設定	KBDDFT	2-18

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
RS232 の設定			
RS232 ポーレート	300 BPS	232BAD0	2-19
	600 BPS	232BAD1	2-19
	1200 BPS	232BAD2	2-19
	2400 BPS	232BAD3	2-19
	4800 BPS	232BAD4	2-19
	*9600 BPS	232BAD5	2-19
	19200 BPS	232BAD6	2-19
	38400 BPS	232BAD7	2-19
	57600 BPS	232BAD8	2-19
	115200 BPS	232BAD9	2-19
RS232 ハンドシェイク	*RTS/CTS 無効	232CTS0	2-22
	フロー制御、タイムアウトなし	232CTS1	2-22
	キャラクタベースのフロー制御、 タイムアウトなし	232CTS7	2-22
	二方向フロー制御	232CTS2	2-22
	フロー制御、タイムアウトあり	232CTS3	2-22
	キャラクタベースのフロー制御、 タイムアウトあり	232CTS4	2-22
	RS232 タイムアウト (1~5100 から指定) *1000 ミリ秒	232DEL#####	2-22
	* XON/XOFF 無効	232XON0	2-23
	XON/XOFF 有効	232XON1	2-23
	*ACK/NAK 無効	232ACK0	2-23
	ACK/NAK 有効	232ACK1	2-23
	通信タイムアウト (1~65535 から指定) *2000 ミリ秒	232DLK#####	2-23
	通信タイムアウトブザー 無効	HSTTOA0	2-24
	*通信タイムアウトブザー 有効	HSTTOA1	2-24
	*BEL/CAN モード 無効	BELCAN0	2-24
	BEL/CAN モード 有効	BELCAN1	2-24
RS232 初期設定	RS232 の初期設定	232DFT	2-24

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
RS232 の設定			
ワード長 (データビット /ストップビット /パリティ)	7 データビット、1 ストップビット、 偶数パリティ	232WRD3	2-20
	7 データビット、1 ストップビット、 パリティ無し	232WRD0	2-20
	7 データビット、1 ストップビット、 奇数パリティ	232WRD6	2-20
	7 データビット、2 ストップビット、 偶数パリティ	232WRD4	2-20
	7 データビット、2 ストップビット、 パリティ無し	232WRD1	2-20
	7 データビット、2 ストップビット、 奇数パリティ	232WRD7	2-20
	8 データビット、1 ストップビット、 偶数パリティ	232WRD5	2-20
	* 8 データビット、1 ストップビット、 パリティ無し	232WRD2	2-20
	8 データビット、1 ストップビット、 奇数パリティ	232WRD8	2-20
	7 データビット、1 ストップビット、 スペースパリティ	232WRD9	2-20
	7 データビット、2 ストップビット、 スペースパリティ	232WRD10	2-21
	8 データビット、1 ストップビット、 スペースパリティ	232WRD11	2-21
	7 データビット、1 ストップビット、 マークパリティ	232WRD12	2-21
	7 データビット、2 ストップビット、 マークパリティ	232WRD13	2-21
	8 データビット、1 ストップビット、 マークパリティ	232WRD14	2-21
NCR 設定			
NCR ACK/NAK	*NCR ACK/NAK 無効	NCRACK0	2-25
	NCR ACK/NAK 有効	NCRACK1	2-25
ブロックチェックキャラクタ	*送信する	NCRBCC1	2-26
	送信しない	NCRBCC0	2-26
NCR プリフィクス/サフィックス	NCR プリフィクス	NCRPR2##	2-26
	NCR サフィックス	NCRSF2##	2-26
	プリフィクス/サフィックスを送信する	NCRBCP1	2-27
	*プリフィクス/サフィックスを送信しない	NCRBCP0	2-27
NCR NOF (Not-on-File) エラー	*無効	NCRRAZ0	2-27
	有効	NCRRAZ1	2-27
スキャナから 2 面式スキャナ への通信	*パケットモード 無効	232PKT0	2-28
	パケットモード 有効	232PKT2	2-28
	*ACK/NAK 無効	232ACK0	2-28
	ACK/NAK 有効	232ACK1	2-28
	通信タイムアウト (1~65535 から指定) *2000 ミリ秒	232DLK#####	2-28

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
コードレスシステム操作			
ベースパワー通信インジケータ	* 有効	:::BASRED1	3-7
	無効	:::BASRED0	3-7
ベースユニットにスキャナを置いた上での読み取り	* ベースユニットにスキャナを置いたままでの読み取り 有効	BT_SIC1	3-8
	ベースユニットにスキャナを置いたままでの読み取り 無効	BT_SIC0	3-8
ページングモード	* 有効	BEPPGE1	3-9
	無効	BEPPGE0	3-9
ページング音の音程	低 (* 1000) 最小 100Hz	BEPPFQ1000	3-9
	中 (3250)	BEPPFQ3250	3-9
	高 (4200) 最小 5000Hz	BEPPFQ5000	3-9
スキャナアドレス	スキャナアドレス	BT_LDA	3-10
ベースユニットアドレス	ベースユニットアドレス	:::BASLDA	3-10
スキャナモード	* 充電通信モード	:::BASLNK1	3-11
	充電限定モード	:::BASLNK0	3-11
	* 通信オープンモード	:::BASCON1	3-12
	通信固定モード	:::BASCON0	3-12
	スキャナとの通信の切断	BT_RMV	3-13
	スキャナの上書き	BT_RPL1	3-13
通信範囲外アラーム	* アラーム 有効	BT_ORW1	3-14
	アラーム 無効	BT_ORW0	3-14
	スキャナアラーム鳴動時間 (* 1 秒) 1~3000 秒	BT_ORD	3-14
スキャナパワータイムアウトタイマー	タイマー 無効	BT_LPT0	3-15
	200 秒	BT_LPT200	3-15
	400 秒	BT_LPT400	3-15
	900 秒	BT_LPT900	3-15
	3600 秒	BT_LPT3600	3-15
	7200 秒	BT_LPT7200	3-15
バッチモード	* バッチモード 無効	BATENA0	3-16
	自動バッチモード	BATENA1	3-16
	棚卸バッチモード	BATENA2	3-16

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
コードレスシステム操作			
バッチモード：ブザー音	* 無効	BATBEP0	3-16
	有効	BATBEP1	3-16
バッチモードの個数	* 無効	BATQTY0	3-16
	有効	BATQTY1	3-16
数量コード	0	BATNUM0	3-18
	1	BATNUM1	3-18
	2	BATNUM2	3-18
	3	BATNUM3	3-18
	4	BATNUM4	3-18
	5	BATNUM5	3-18
	6	BATNUM6	3-18
	7	BATNUM7	3-18
	8	BATNUM8	3-18
	9	BATNUM9	3-18
最後のコードを削除	最後のコードを削除	BATUND	3-19
レコードカウンター	* レコードカウンター 無効	BATENT0	3-19
	レコードカウンター 有効	BATENT1	3-19
レコードの合計数	レコードの合計数	BATNRC	3-19
バッチモード：出力順序	* FIFO（先入れ先出し）	BATLIF0	3-20
	LIFO（後入れ先出し）	BATLIF1	3-20
データ送信後にすべてのコードを削除	* データ送信後にすべてのコードを削除しない	BATCLX0	3-20
	データ送信後にすべてのコードを削除する	BATCLX1	3-20
すべてのコードを削除	すべてのコードを削除	BATCLR	3-20
レコードの自動送信	* レコードを自動で送信しない	BATATX0	3-21
	レコードを自動で送信する	BATATX1	3-21
ホストへのレコード送信	ホストへレコードを送信する	BAT_TX	3-21
バッチモード：送信ディレー	* 無効（ディレー無し）	BADDLY0	3-22
	短（250 ミリ秒）	BADDLY250	3-22
	中（500 ミリ秒）	BADDLY500	3-22
	長（1000 ミリ秒）	BADDLY1000	3-22

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
コードレスシステム操作			
スキャナ名	スキャナ名	BT_NAM	3-23
Bluetooth 通信	ベースユニット以外と通信を確立する	BT_DNG9	3-24
	ベースユニットと通信を確立する	BT_DNG8	3-24
Bluetooth 暗証コード	Bluetooth 暗証コード (* 0000)	BT_PIN	3-24
自動再接続モード	* 自動再接続モード 有効	BT_ACM1	3-25
	自動再接続モード 無効	BTACM0	3-25
再接続試行最大限度回数	再接続試行最大限度回数 (* 0) 0~255	BT_MLA###	3-26
再接続タイムアウト	再接続タイムアウト (* 3) 0~100	BT_RLT###	3-27
リセット	スキャナのリセット	RESET_	3-28
	クレードルのリセット	:.RESET_	3-28
入力・出力設定			
起動ブザー	スキャナ、起動ブザー 無効	BEPPWR0	4-1
	*スキャナ、起動ブザー 有効	BEPPWR1	4-1
BEL キャラクタでのブザー音	* BEL ブザー 無効	BELBEP0	4-1
	BEL ブザー 有効	BELBEP1	4-1
読み取り成功時ブザー	無効	BEPBEP0	4-2
	*有効	BEPBEP1	4-2
読み取り成功時ブザー音量	無効	BEPLVL0	4-2
	小	BEPLVL1	4-2
	中	BEPLVL2	4-2
	*大	BEPLVL3	4-2
読み取り成功時ブザー音程 (周波数)	低 (1600 Hz)	BEPFQ11600	4-3
	*中 (2350 Hz)	BEPFQ12350	4-3
	高 (4200 Hz)	BEPFQ14200	4-3

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
入力・出力設定			
ブザー：データ送信時順序	*送信前	BEPWHN1	4-3
	送信後	BEPWHN2	4-3
読み取り失敗またはエラー発生時： ブザー音程（周波数）	*低（100 Hz）	BEPFQ2100	4-3
	中（2000 Hz）	BEPFQ22000	4-3
	高（4200 Hz）	BEPFQ24200	4-3
読み取り成功時ブザーの長さ	*標準	BEPBIP0	4-4
	短い	BEPBIP1	4-4
読み取り成功時ブザー回数	1～9 から指定（*1）	BEPRPT#	4-4
読み取り失敗時エラー発生時： ブザー回数	1～9 から指定（*1）	BEPERR#	4-4
LED 設定	赤色の LED 無効	LEDFN10	4-5
	緑色の LED 無効	LEDFN20	4-5
	読み取り成功時に赤色の LED 有効	LEDFN11	4-5
	*読み取り成功時に緑色の LED 有効	LEDFN21	4-5
	*レーザーに赤色の LED 有効	LEDFN12	4-5
	レーザーに緑色の LED 有効	LEDFN22	4-5
	CodeGate 無効時に赤色の LED 有効	LEDFN14	4-5
	CodeGate 無効時に緑色の LED 有効	LEDFN24	4-5
	スタンド使用時に赤色の LED 有効	LEDFN18	4-5
	スタンド使用時に緑色の LED 有効	LEDFN28	4-5
	CTS に赤色の LED 有効	LEDFN1128	4-6
	CTS に緑色の LED 有効	LEDFN2128	4-6
LED の明るさ	赤色 LED 無効	LEDIN10	4-6
	緑色 LED 無効	LEDIN20	4-6
	赤色 LED 明るさ - 低	LEDIN11	4-6
	緑色 LED 明るさ - 低	LEDIN21	4-6
	赤色 LED 明るさ - 中	LEDIN12	4-6
	緑色 LED 明るさ - 中	LEDIN22	4-6
	*赤色 LED 明るさ - 高	LEDIN13	4-6
	*緑色 LED 明るさ - 高	LEDIN23	4-6

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
入力・出力設定			
スタンド使用时/不使用時設定	スタンド使用时デフォルト設定	AISDFT	4-7
	スタンド不使用時デフォルト設定	AOSDFT	4-7
	スタンド使用时 プレゼンテーションモード	PAPPM1	4-8
	スタンド不使用時の CodeGate 付き プレゼンテーションモード	PAPPM2	4-8
	*スタンド使用时 マニュアルトリガーモード無効	AISMEN0	4-8
	スタンド使用时 マニュアルトリガーモード 有効	AISMEN1	4-8
	スタンド不使用時 マニュアルトリガーモード 無効	AOSMEN0	4-8
	*スタンド不使用時 マニュアルトリガーモード 有効	AOSMEN1	4-8
	スタンド使用时、読み取り成功後 マニュアルトリガーモードを維持	AISMGD0	4-9
	*スタンド使用时読み取り成功後 マニュアルトリガーモードを終了	AISMGD1	4-9
	スタンド不使用時読み取り成功後 マニュアルトリガーモードを維持	AOSMGD0	4-9
	*スタンド不使用時読み取り成功後 マニュアルトリガーモードを終了	AOSMGD1	4-9
	スタンド使用时レーザータイムアウト、 ボタンが押された状態 (1~65525 から指定) *5000 ミリ秒	AISMPT#####	4-10
	スタンド使用时レーザータイムアウト、 ボタンが離された状態 (1~65525 から指定) *0 ミリ秒	AISMRT#####	4-10
	スタンド不使用時レーザータイムアウト、 ボタンが押された状態 (1~65525 から指定) *30000 ミリ秒	AOSMPT#####	4-10
	スタンド不使用時レーザータイムアウト、 ボタンが離された状態 (1~65525 から指定) *0 ミリ秒	AOSMRT#####	4-10
	*CodeGate 無効、スタンド使用时	AISCGD0	4-11
	CodeGate 有効、スタンド使用时	AISCGD1	4-11
	CodeGate 無効、スタンド不使用時	AOSCGD0	4-11
	*CodeGate 有効、スタンド不使用時	AOSCGD1	4-11
	物体検知モード 無効、スタンド使用时	AISOEN0	4-11
	物体検知モード 有効、スタンド不使用時	AOSOEN1	4-11
	*物体検知モード 無効、スタンド不使用時	AOSOEN0	4-11
	*物体検知モード 有効、スタンド使用时	AISOEN1	4-11
	スタンド使用时読み取り成功後 物体検知モードを維持	AISOGD0	4-12

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
入力・出力設定			
スタンド使用時/不使用時時設定 (続き)	*読み取り成功後に 物体検知モード終了、スタンド使用時	AISOGD1	4-12
	読み取り成功後も物体検知モード維持、 スタンド不使用時	AOSOGD0	4-12
	*読み取り成功後に 物体検知モード終了、スタンド不使用時	AOSOGD1	4-12
	物体検知モードレーザータイムアウト、 スタンド使用時 (1~65525 から指定) *5000 ミリ秒	AISODT#####	4-12
	物体検知モードレーザータイムアウト、 スタンド不使用時 (1~65525 から指定) *5000 ミリ秒	AOSODT#####	4-12
	*物体検知モード感応距離-短、 スタンド使用時	AISRNG2	4-13
	物体検知モード感応距離-長、 スタンド使用時	AISRNG1	4-13
	物体検知モード感応距離-短、 スタンド不使用時	AOSRNG2	4-13
シリアルトリガーモード： 起動	*無効	HSTCEN0	4-13
	有効	HSTCEN1	4-13
	起動キャラクタ	HSTACH##	4-14
	読み取り成功後、シリアルトリガー モードによる起動を維持	HSTCGD0	4-14
	*読み取り成功後、シリアルトリガー モードによる起動を終了	HSTCGD1	4-14
	シリアルトリガーモードによる起動、 レーザータイムアウト (1~65525 から指定) *5000 ミリ秒	HSTCDT#####	4-14
シリアルトリガーモード：終了	*無効	HSTDEN0	4-15
	有効	HSTDEN1	4-15
	終了キャラクタ	HSTDCH##	4-15

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
入力・出力設定			
同一シンボル再読み取りの ディレー（間隔）	ショート（500 ミリ秒）	DLYRRD500	4-16
	*メディアム（750 ミリ秒）	DLYRRD750	4-16
	ロング（1,000 ミリ秒）	DLYRRD1000	4-16
	エクストラエオング（2,000 ミリ秒）	DLYRRD2000	4-16
ユーザー定義の再読み取りの ディレー（間隔）	0~300,000 ミリ秒間で指定	DLYRRD#####	4-16
アウトプットシーケンスエディタ	シーケンス開始	SEQBLK	4-19
	シーケンスの初期化	SEQDFT	4-19
シーケンスタイムアウト	（1~65535 から指定）*5000 ミリ秒	SEQDLY#####	4-19
シーケンス一致のブザー	無効	SEQBEP0	4-20
	*有効	SEQBEP1	4-20
部分的シーケンス	部分的（パーティカル） シーケンス送信	SEQTTS1	4-20
	*部分的（パーティカル） シーケンス放棄	SEQTTS0	4-20
アウトプットシーケンスの要求	*無効	SEQ_EN0	4-21
	有効／必須ではない	SEQ_EN1	4-21
	必須	SEQ_EN2	4-21
No Read	*無効	SHWNRD0	4-21
	有効	SHWNRD1	4-21
プリフィクス/サフィックス設定			
全シンボル体系への CR サフィックス追加		VSUFCCR	5-3
プリフィクス	プリフィクス追加	PREBK2##	5-3
	プリフィクス1つ削除	PRECL2	5-3
	全プリフィクス削除	PRECA2	5-3
サフィックス	サフィックス追加	SUFBK2##	5-4
	サフィックス1つ削除	SUFCL2	5-4
	全サフィックス削除	SUFCA2	5-4
代替拡張 ASCII キャラクタの送信	*代替拡張 ASCII 送信	KBDEXT0	5-4
	標準拡張 ASCII 送信	KBDEXT1	5-4
ファンクションコード送信	無効	RMVFNC1	5-7
	*有効	RMVFNC0	5-7
通信チェックキャラクタ	*なし	HSTXRC0	5-7
	最初のキャラクタからの LRC	HSTXRC1	5-7
	2番目のキャラクタからの LRC	HSTXRC2	5-7
	CRC	HSTXRC3	5-7
キャラクタ間ディレー	0~1000 間で指定（5 ミリ秒単位）	DLYCHR##	5-7
ユーザー定義のキャラクタ間 ディレー	ディレー長 0~1000 間で指定 （5 ミリ秒単位）	DLYCRX##	5-8
	ディレーを始動するキャラクタ	DLY_XX##	5-8
ファンクション間ディレー	0~1000 間で指定（5 ミリ秒単位）	DLYFNC##	5-8
メッセージ間ディレー	0~1000 間で指定（5 ミリ秒単位）	DLYMSG##	5-8

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
データフォーマットの選択			
データフォーマットエディタ	*データフォーマット初期化 (データフォーマットなし)	DFMDF3	6-1
	データフォーマット開始	DFMBK3##	6-2
	データフォーマット 1つ消去	DFMCL3	6-3
	全データフォーマット消去	DFMCA3	6-3
データフォーマッタ	データフォーマッタ無効	DFM_EN0	6-10
	*データフォーマッタ有効、 必須ではない、 プリフィクス・サフィックスあり	DFM_EN1	6-10
	データフォーマット必須、 プリフィクス・サフィックスあり	DFM_EN2	6-10
	データフォーマッタ有効、 必須ではない、 プリフィクス・サフィックスなし	DFM_EN3	6-10
	データフォーマット必須、 プリフィクス・サフィックスなし	DFM_EN4	6-10
データフォーマット不適合 エラーブザー	データフォーマット不適合エラー ブザー 無効	DFMDEC1	6-10
	*データフォーマット不適合エラー ブザー 有効	DFMDEC0	6-10
基準/代用データフォーマット	基準データフォーマット	ALTFNM0	6-11
	データフォーマット 1	ALTFNM1	6-11
	データフォーマット 2	ALTFNM2	6-11
	データフォーマット 3	ALTFNM3	6-11
シングルスキャンデータ フォーマット変更	基準データフォーマットでの読み取り 1回	VSAF_0	6-11
	データフォーマット 1での読み取り 1回	VSAF_1	6-11
	データフォーマット 2での読み取り 1回	VSAF_2	6-11
	データフォーマット 3での読み取り 1回	VSAF_3	6-11

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
すべてのシンボル	すべてのシンボル 読み取り許可	ALLENA0	7-1
	すべてのシンボル 読み取り禁止	ALLENA1	7-1
Codabar	Codabar すべての設定の初期化	CBRDFT	7-3
	無効	CBRENA0	7-3
	*有効	CBRENA1	7-3
Codabar スタート/ストップ キャラクタ	*送信しない	CBRSSX0	7-3
	送信する	CBRSSX1	7-3
Codabar チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	CBRCK20	7-4
	モジュラス 16 有効、送信なし	CBRCK21	7-4
	モジュラス 16 有効、送信あり	CBRCK22	7-4
	モジュラス 7 CD 有効、送信なし	CBRCK23	7-4
	モジュラス 7 CD 有効、送信あり	CBRCK24	7-4
	CLSI 有効、送信なし	CBRCK25	7-4
	CLSI 有効、送信あり	CBRCK26	7-4
Codabar 連結機能	*無効	CBRCCT0	7-4
	有効	CBRCCT1	7-4
	必須	CBRCCT2	7-4
	連結タイムアウト	DLYCCT	7-5
Codabar 照合設定	(0~10 から指定) *0	CBRVOT##	7-5
Codabar 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	CBRMIN##	7-5
	最大 (1~80) *80	CBRMAX##	7-5
Code 39	Code 39 すべての設定の初期化	C39DFT	7-6
	無効	C39ENA0	7-6
	*有効	C39ENA1	7-6
Code 39 スタート/ストップ キャラクタ	*送信しない	C39SSX0	7-6
	送信する	C39SSX1	7-6
Code 39 チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	C39CK20	7-7
	有効、送信なし	C39CK21	7-7
	有効、送信あり	C39CK22	7-7
Code 39 照合設定	(0~10 から指定) *0	C39VOT##	7-7
Code 39 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	C39MIN##	7-7
	最大 (1~80) *80	C39MAX##	7-7
Code 32Pharmaceutical (PARAF)	*無効	C39B320	7-8
	有効	C39B321	7-8
Code 39 Full ASCII	*無効	C39ASC0	7-8
	有効	C39ASC1	7-8

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
Interleaved 2 of 5 (ITF)	Interleaved 2 of 5 すべての設定の初期化	I25DFT	7-9
	無効	I25ENA0	7-9
	*有効	I25ENA1	7-9
Follett フォーマット	*無効	I25FOL0	7-9
	有効	I25FOL1	7-9
NULL キャラクタ	*無効	I25NUL0	7-9
	有効	I25NUL1	7-9
Interleaved 2 of 5 チェックデジット	*チェックデジットなし	I25CK20	7-10
	有効、送信なし	I25CK21	7-10
	有効、送信あり	I25CK22	7-10
Interleaved 2 of 5 照合設定	(0~10 から指定) *0	I25VOT##	7-10
Interleaved 2 of 5 読み取り桁数	最小 (1~80) *6	I25MIN##	7-11
	最大 (1~80) *80	I25MAX##	7-11
NEC 2 of 5	NEC 2 of 5 すべての設定の初期化	N25DFT	7-12
	*無効	N25ENA0	7-12
	有効	N25ENA1	7-12
NEC 2 of 5 チェックデジット	*チェックデジットなし	N25CK20	7-12
	有効、送信なし	N25CK21	7-12
	有効、送信あり	N25CK22	7-12
NEC 2 of 5 照合設定	(0~10 から指定) *0	N25VOT##	7-13
NEC 2 of 5 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	N25MIN##	7-13
	最大 (1~80) *80	N25MAX##	7-13
Code 93	Code 93 すべての設定の初期化	C93DFT	7-14
	無効	C93ENA0	7-14
	*有効	C93ENA1	7-14
Code 93 照合設定	(0~10 から指定) *0	C93VOT##	7-14
Code 93 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	C93MIN##	7-14
	最大 (1~80) *80	C93MAX##	7-14
Straight 2 of 5 Industrial	Straight 2 of 5 Industrial すべての設定の初期化	R25DFT	7-15
	*無効	R25ENA0	7-15
	有効	R25ENA1	7-15
Straight 2 of 5 Industrial 照合設定	(0~10 から指定) *0	R25VOT##	7-15
Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数	最小 (3~80) *3	R25MIN##	7-16
	最大 (3~80) *80	R25MAX##	7-16

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
Straight 2 of 5 IATA	Straight 2 of 5 IATA すべての設定の初期化	A25DFT	7-16
	*無効	A25ENA0	7-16
	有効	A25ENA1	7-16
Straight 2 of 5 IATA 照合設定	(0~10 から指定) *0	A25VOT##	7-17
Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数	最小 (1~80) *13	A25MIN##	7-17
	最大 (1~80) *15	A25MAX##	7-17
Matrix 2 of 5	Matrix 2 of 5 すべての設定の初期化	X25DFT	7-18
	*無効	X25ENA0	7-18
	有効	X25ENA1	7-18
Matrix 2 of 5 照合設定	(0~10 から指定) *0	X25VOT##	7-19
Matrix 2 of 5 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	X25MIN##	7-19
	最大 (1~80) *80	X25MAX##	7-19
Matrix 2 of 5 チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	X25CK20	7-18
	有効、送信なし	X25CK21	7-18
	有効、送信あり	X25CK22	7-18
Code 11	Code 11 すべての設定の初期化	C11DFT	7-20
	*無効	C11ENA0	7-20
	有効	C11ENA1	7-20
Code 11 必要チェックデジット数	チェックデジット必要数 1	C11CK20	7-20
	*チェックデジット必要数 2	C11CK21	7-20
	チェックデジット必要数の自動選択	C11CK22	7-20
チェックデジット有効化	有効、1 チェックデジット送信	C11CK23	7-21
	有効、2 チェックデジット送信	C11CK24	7-21
	有効、チェックデジット自動選択送信	C11CK25	7-21
Code 11 照合設定	(0~10 から指定) *0	C11VOT##	7-21
Code 11 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	C11MIN##	7-21
	最大 (1~80)	C11MAX##	7-21
Code 128	Code 128 すべての設定の初期化	128DFT	7-22
	無効	128ENA0	7-22
	*有効	128ENA1	7-22
128 グループ 分離キャラクタ出力	*無効	128GSE0	7-22
	有効	128GSE1	7-22
Code 128 照合設定	(0~10 から指定) *0	128VOT##	7-23
Code 128 読み取り桁数	最小 (1~80) *1	128MIN##	7-23
	最大 (1~80) *80	128MAX##	7-23
ISBT 128	*無効	ISBENA0	7-23
	有効	ISBENA1	7-23
	連結タイムアウト	DLYCCT	7-24

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
ISBT128 定義済 連結シーケンス	* 供血識別番号 (001) と ABO/RhD 血液グループ (002)	ISBPCS0	7-24
	供血識別番号 (001) とドナーID (019)	ISBPCS1	7-24
	供血識別番号 (001) と CUE (秘密裏供血除外) 情報	ISBPCS2	7-24
	製品コード (003) と有効期限 (フォーム 1)	ISBPCS3	7-24
	製品コード (003) と有効期限 (フォーム 2)	ISBPCS4	7-24
	製品コード (003) と有効期限 (フォーム 3)	ISBPCS5	7-24
	製品コード (003) と有効期限 (フォーム 4)	ISBPCS6	7-24
ISBT 128 定義済連結シーケンスの 有効/無効	*無効	ISBPCE0	7-25
	定義済シーケンス許可	ISBPCE1	7-25
	定義済シーケンス必須	ISBPCE2	7-25
ISBT 128 ユーザー定義の 連結シーケンス	左 ID1 番目 (0~255) *0	ISBUL1##	7-26
	左 ID2 番目 (0~255) *0	ISBUL2##	7-26
	右 ID1 番目 (0~255) *0	ISBUR1##	7-26
	右 ID2 番目 (0~255) *0	ISBUR2##	7-26
ISBT 128 ユーザー定義の 連結シーケンス 有効/無効	*無効	ISBUCE0	7-27
	ユーザー定義のシーケンス許可	ISBUCE1	7-27
	ユーザー定義のシーケンス必須	ISBUCE2	7-27
コンテンツ確認	*無効	ISBXM00	7-27
	有効	ISBXM01	7-27
送信 ID	無効	ISBXM10	7-28
	*有効	ISBXM11	7-28
フラグ変換	*無効	ISBXM20	7-28
	有効	ISBXM21	7-28
GS1-128	GS1-128 すべての設定の初期化	GS1DFT	7-29
	*有効	GS1ENA1	7-29
	無効	GS1ENA0	7-29
GS1-128 アプリケーション識別子 パーキング	*無効	GS1EMU0	7-29
	識別子なしの送信	GS1EMU1	7-29
	識別子付き送信	GS1EMU2	7-29
GS1-128 照合設定	(0~10 から指定) *0	GS1VOT##	7-30
GS1-128 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	GS1MIN	7-30
	最大 (0~80) *80	GS1MAX	7-30

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
Telepen	Telepen すべての設定の初期化	TELDFT	7-31
	*無効	TELENA0	7-31
	有効	TELENA1	7-31
Telepen 出力	* AIM Telepen 出力	TELOLD0	7-31
	オリジナルの出力	TELOLD1	7-31
Telepen 照合設定	(0~10 から指定) *0	TELVOT##	7-32
Telepen 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	TELMIN##	7-32
	最大 (1~80) *80	TELMAX##	7-32
UPC-A	UPC-A すべての設定の初期化	UPADFT	7-33
	無効	UPAENA0	7-33
	*有効	UPAENA1	7-33
UPC-A システム番号	無効	UPANSX0	7-33
	*有効	UPANSX1	7-33
UPC-A チェックデジット	無効	UPACKX0	7-34
	*有効	UPACKX1	7-34
UPC-A 2桁のアドオン	*無効	UPAAD20	7-34
	有効	UPAAD21	7-34
UPC-A 5桁のアドオン	*無効	UPAAD50	7-35
	有効	UPAAD51	7-35
UPC-A アドオンの要求	*要求する	UPAARQ0	7-35
	要求しない	UPAARQ1	7-35
アドオンのタイムアウト	(0~65535 から指定) *100	DLYADD#####	7-35
UPC-A アドオンセパレータ	*無効	UPAADS0	7-35
	有効	UPAADS1	7-35
UPC-A 照合設定	(0~10 から指定) *0	UPAVOT##	7-36
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13	*無効	CPNENA0	7-37
	連結許可	CPNENA1	7-37
	連結必須	CPNENA2	7-37
UPC-A ナンバーシステム 4 アドオン要求	*クーポンコードを要求しない	ARQSY40	7-37
	クーポンコードを要求する	ARQSY41	7-37
UPC-A ナンバーシステム 5 アドオン要求	*クーポンコード/アドオンを要求しない	ARQSY50	7-38
	2桁のアドオンを要求	ARQSY51	7-38
	5桁のアドオンを要求	ARQSY52	7-38
	2桁もしくは5桁のアドオンを要求	ARQSY53	7-38
	クーポンコードを要求	ARQSY54	7-38
	クーポンコードもしくは 2桁のアドオンを要求	ARQSY55	7-38
	クーポンコードもしくは 5桁のアドオンを要求	ARQSY56	7-37
	クーポンコードもしくは 2桁あるいは5桁のアドオンを要求	ARQSY57	7-38
	アドオンタイムアウト (0~65535 から指定) *100	DLYADD#####	7-39

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
UPC-E0	UPC-E すべての設定の初期化	UPEDFT	7-40
	無効	UPEEN00	7-40
	*有効	UPEEN01	7-40
UPC-E0 の拡張	*無効	UPEEXP0	7-40
	有効	UPEEXP1	7-40
UPC-E0 システム番号	*有効	UPEEXN1	7-41
	無効	UPEEXN0	7-41
UPC-E0 チェックデジット	*無効	UPECKX0	7-41
	有効	UPECKX1	7-41
UPC-E0 先頭の「0」	*無効	UPENSX0	7-42
	有効	UPENSX1	7-42
UPC-E0 アドオン	アドオン 2桁許可	UPEAD21	7-42
	*アドオン 2桁禁止	UPEAD20	7-42
	アドオン 5桁許可	UPEAD51	7-42
	*アドオン 5桁禁止	UPEAD50	7-42
UPC-E0 アドオン要求	要求する	UPEARQ1	7-43
	*要求しない	UPEARQ0	7-43
アドオンタイムアウト	(0~65535 から指定) *100	DLYADD#####	7-43
UPC-E0 アドオンセパレータ	*無効	UPEADS0	7-43
	有効	UPEADS1	7-43
UPC-E0 照合設定	(0~10 から指定) *1	UPEVOT##	7-44
EAN/JAN-13	EAN/JAN すべての設定の初期化	E13DFT	7-45
	無効	E13ENA0	7-45
	*有効	E13ENA1	7-45
EAN/JAN-13 チェックデジット	無効	E13CKX0	7-45
	*有効	E13CKX1	7-45
EAN/JAN-13 アドオン	アドオン 2桁の追加 有効	E13AD21	7-46
	*アドオン 2桁の追加 無効	E13AD20	7-46
	アドオン 5桁の追加 有効	E13AD51	7-46
	*アドオン 5桁の追加 無効	E13AD50	7-46
EAN/JAN-13 アドオン要求	*要求しない	E13ARQ0	7-46
	要求する	E13ARQ1	7-46

選択項目	設定 * = 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
2 から始まる EAN-13 アドオン要求	* 2 桁のアドオンを要求しない	ARQSY20	7-47
	2 桁のアドオンを要求する	ARQSY21	7-47
290 から始まる EAN-13 アドオン要求	* 5 桁のアドオンを要求しない	ARQ2900	7-48
	5 桁のアドオンを要求する	ARQ2901	7-48
378/379 から始まる EAN-13 アドオン要求	* アドオンを要求しない	ARQ3780	7-49
	2 桁のアドオンを要求する	ARQ3781	7-49
	5 桁のアドオンを要求する	ARQ3782	7-49
	2 桁もしくは 5 桁のアドオンを要求する	ARQ3783	7-49
414/419 から始まる EAN-13 アドオン要求	* アドオンを要求しない	ARQ4140	7-50
	2 桁のアドオンを要求する	ARQ4141	7-50
	5 桁のアドオンを要求する	ARQ4142	7-50
	2 桁もしくは 5 桁のアドオンを要求する	ARQ4143	7-50
434/439 から始まる EAN-13 アドオン要求	* アドオンを要求しない	ARQ4340	7-51
	2 桁のアドオンを要求する	ARQ4341	7-51
	5 桁のアドオンを要求する	ARQ4342	7-51
	2 桁もしくは 5 桁のアドオンを要求する	ARQ4343	7-51
977 から始まる EAN-13 アドオン要求	* 2 桁のアドオンを要求しない	ARQ9770	7-52
	2 桁のアドオンを要求する	ARQ9771	7-52
978 から始まる EAN-13 アドオン要求	* 5 桁のアドオンを要求しない	ARQ9780	7-53
	5 桁のアドオンを要求する	ARQ9781	7-53
979 から始まる EAN-13 アドオン要求	* 5 桁のアドオンを要求しない	ARQ9790	7-54
	5 桁のアドオンを要求する	ARQ9791	7-54
アドオンタイムアウト	(0~65535 から指定) *100	DLYADD#####	7-55
EAN/JAN-13 アドオンセパレータ	*無効	E13ADS0	7-55
	有効	E13ADS1	7-55
EAN/JAN-13 照合設定	(0~10 から指定) *0	E13VOT##	7-55
ISBN 変換	*無効	E13ISB0	7-56
	有効	E13ISB1	7-56
	13 桁への変換 有効	E13I131	7-56
	*13 桁への変換 無効	E13I130	7-56
	再変換 有効	E13IBR1	7-56
	*再変換 無効	E13IBR0	7-56
ISSN 変換	*無効	E13ISS0	7-57
	有効	E13ISS1	7-57
	再変換 有効	E13ISR1	7-57
	*再変換 無効	E13ISR0	7-57

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
EAN/JAN-8	EAN/JAN 8 すべての設定の初期化	EA8DFT	7-58
	無効	EA8ENA0	7-58
	*有効	EA8ENA1	7-58
EAN/JAN-8 チェックデジット	無効	EA8CKX0	7-58
	*有効	EA8CKX1	7-58
EAN/JAN-8 アドオン	*アドオン 2桁の追加 無効	EA8AD20	7-59
	アドオン 2桁の追加 有効	EA8AD21	7-59
	*アドオン 5桁の追加 無効	EA8AD50	7-59
	アドオン 5桁の追加 有効	EA8AD51	7-59
EAN/JAN-8 アドオン要求	*要求する	EA8ARQ0	7-59
	要求しない	EA8ARQ1	7-59
アドオンタイムアウト	(0~65535 から指定) *100	DLYADD#####	7-59
EAN/JAN-8 アドオンセパレータ	*無効	EA8ADS0	7-60
	有効	EA8ADS1	7-60
EAN/JAN-8 照合設定	(0~10 から指定) *0	EA8VOT##	7-60
MSI	MSI すべての設定の初期化	MSIDFT	7-61
	*無効	MSIENA0	7-61
	有効	MSIENA1	7-61
MSI チェックキャラクタ	*タイプ 10 有効、送信なし	MSICHK0	7-62
	タイプ 10 有効、送信あり	MSICHK1	7-62
	タイプ 10 有効、2キャラクタ、送信なし	MSICHK2	7-62
	タイプ 10 有効、2キャラクタ、送信あり	MSICHK3	7-62
	タイプ 10・11 有効、送信なし	MSICHK4	7-62
	タイプ 10・11 有効、送信あり	MSICHK5	7-62
	MSI チェックキャラクタ無効	MSICHK6	7-62
MSI 照合設定	(0~10 から指定) *0	MSIVOT##	7-62
MSI 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	MSIMIN##	7-62
	最大 (1~80) *80	MSIMAX##	7-62
Plessey Code	Plessey Code すべての設定の初期化	PLSDFT	7-63
	無効	PLSENA0	7-63
	*有効	PLSENA1	7-63
Plessey チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	PLSCHK0	7-63
	有効、送信なし	PLSCHK1	7-63
	有効、送信あり	PLSCHK2	7-63
Plessey 照合設定	(0~10 から指定) *0	PLSVOT##	7-64
Plessey 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	PLSMIN##	7-64
	最大 (1~80) *80	PLSMAX##	7-64

選択項目	設定 * =初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
シンボル			
GS1 データバー標準型 (オムニディレクショナル)	GS1 データバー標準型 すべての設定の初期化	RSSDFT	7-65
	無効	RSSENA0	7-65
	*有効	RSSENA1	7-65
GS1 データバー標準型 照合設定	(0~10 から指定) *0	RSSVOT##	7-65
GS1 データバー限定型 (リミテッド)	GS1 データバー限定型 すべての設定の初期化	RSLDFT	7-66
	無効	RSLENA0	7-66
	*有効	RSLENA1	7-66
GS1 データバー限定型 照合設定	(0~10 から指定) *0	RSLVOT##	7-66
GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド)	GS1 データバー限定型 すべての設定の初期化	RSEDFT	7-67
	無効	RSEENA0	7-67
	*有効	RSEENA1	7-67
GS1 データバー拡張型 照合設定	(0~10 から指定) *0	RSEVOT##	7-67
GS1 データバー拡張型 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	RSEMIN##	7-67
	最大 (1~80) *80	RSEMAX##	7-67
Trioptic Code	*無効	TRIENA0	7-68
	有効	TRIENA1	7-68
GS1 エミュレーション	GS1-128 エミュレーション	EANEMU1	7-69
	GS1 DataBar エミュレーション	EANEMU2	7-69
	GS1 コード拡張無効	EANEMU3	7-69
	EAN8 から EAN13 へ変換	EANEMU4	7-69
	*GS1 エミュレーション無効	EANEMU0	7-69
郵便コード			
中国郵便 (Hong Kong 2 of 5)	中国郵政 (Hong Kong 2 of 5) すべての設定の初期化	CPCDFT	7-70
	*無効	CPCENA0	7-70
	有効	CPCENA1	7-70
中国郵便 (Hong Kong 2 of 5) 照合設定	(0~10 から指定) *0	CPCVOT##	7-70
中国郵便 (Hong Kong 2 of 5) 読み取り桁数	最小 (1~80) *3	CPCMIN##	7-70
	最大 (1~80) *80	CPCMAX##	7-71
ユーティリティ			
すべてのシンボルヘテスト ID プリフィクスを追加		PRECAS,BK2995C80I	9-1
ソフトウェア改訂番号の表示		REVINF	9-1
データフォーマットの表示		DFMBK3?	9-1
シリアルトリガーコマンド			
リードタイムアウト	0~300,000 *30,000 ミリ秒	TRGSTO#####	10-4

製品仕様

Voyager 1200g 製品仕様

項目	仕様																												
機械仕様																													
高さ	97mm (3.8インチ)																												
長さ	180mm (7.1インチ)																												
幅	66mm (3インチ)																												
重量	125g (4.41オンス)																												
電気仕様																													
入力電圧	5V ± 5%																												
動作時消費電力	700mW、140 mA (標準) @ 5V																												
待機時消費電力	350mW、70 mA (標準) @ 5V																												
動作環境使用																													
動作温度	0°C~50°C (32°F~122°F)																												
保管温度	-20°C~60°C (-4°F~140°F)																												
湿度	0~95% (結露無し)																												
耐落下衝撃	1.5m (5フィート) の高さからコンクリート面へ30回落下後、正常に動作すること																												
保護シールド	IP42																												
対外乱光	0~70,000 ルクス																												
ESD保護	16kV気中、9kV直接放電後、正常動作																												
読み取り性能																													
読み取り方式	シングルスキャンライン																												
スキャン角度	水平: 30°																												
スキャン速度	100スキャン/秒																												
印字コントラスト	最小 10%																												
ピッチ/スキュー	ピッチ角60°、スキュー角60°																												
読み取りシンボル	1次元バーコードおよびGS1 データバーを読み取り可能																												
読み取り深度 (標準レンジで0.089mm のバーコードを読み取った場合)																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">標準性能</th> <th colspan="2">保証性能</th> </tr> <tr> <th>分解能</th> <th>読み取り深度</th> <th>分解能</th> <th>読み取り深度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.127mm Code 39</td> <td>27mm~151mm</td> <td>0.127mm Code 39</td> <td>38mm~132mm</td> </tr> <tr> <td>0.191mm Code 39</td> <td>16mm~216mm</td> <td>0.191mm Code 39</td> <td>26mm~189mm</td> </tr> <tr> <td>0.264mm Code 39</td> <td>0mm~277mm</td> <td>0.264mm Code 39</td> <td>0mm~229mm</td> </tr> <tr> <td>0.330mm UPC-A</td> <td>0mm~331mm</td> <td>0.330mm UPC-A</td> <td>0mm~253mm</td> </tr> <tr> <td>0.508mm Code 39</td> <td>0mm~367mm</td> <td>0.508mm Code 39</td> <td>0mm~293mm</td> </tr> </tbody> </table>		標準性能		保証性能		分解能	読み取り深度	分解能	読み取り深度	0.127mm Code 39	27mm~151mm	0.127mm Code 39	38mm~132mm	0.191mm Code 39	16mm~216mm	0.191mm Code 39	26mm~189mm	0.264mm Code 39	0mm~277mm	0.264mm Code 39	0mm~229mm	0.330mm UPC-A	0mm~331mm	0.330mm UPC-A	0mm~253mm	0.508mm Code 39	0mm~367mm	0.508mm Code 39	0mm~293mm
標準性能		保証性能																											
分解能	読み取り深度	分解能	読み取り深度																										
0.127mm Code 39	27mm~151mm	0.127mm Code 39	38mm~132mm																										
0.191mm Code 39	16mm~216mm	0.191mm Code 39	26mm~189mm																										
0.264mm Code 39	0mm~277mm	0.264mm Code 39	0mm~229mm																										
0.330mm UPC-A	0mm~331mm	0.330mm UPC-A	0mm~253mm																										
0.508mm Code 39	0mm~367mm	0.508mm Code 39	0mm~293mm																										
レーザー光																													
波長	645~660 nm																												
拡がり角	< 1.5 mrad、IEC 60825-1による最低値																												
最大出力	< 1 mw																												
埋め込み式レーザー																													
波長	645~660 nm																												
拡がり角	< 1.5 mrad、IEC 60825-1による最低値																												
最大出力	10 mw																												

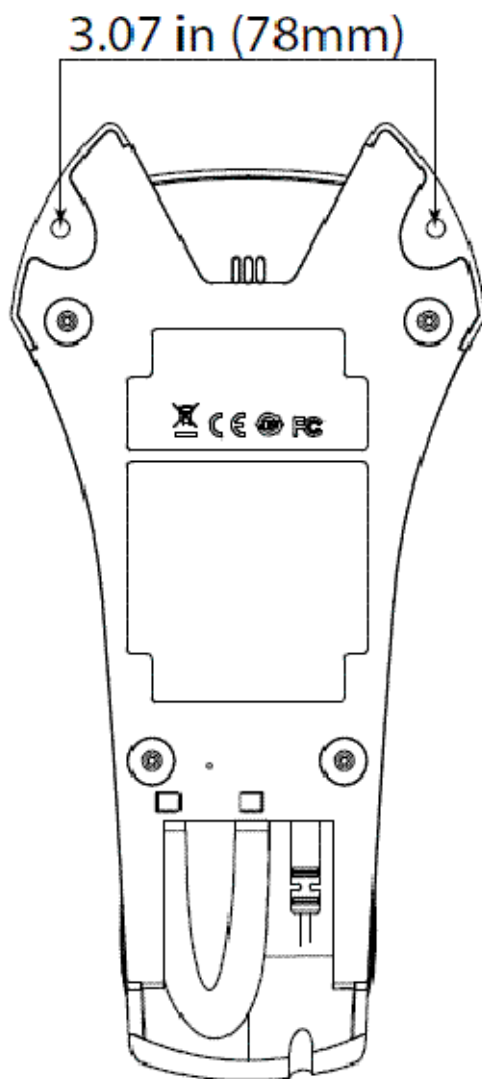
Voyager 1202g 製品仕様

項目	仕様																												
機械仕様																													
高さ	92mm (3.6インチ)																												
長さ	180mm (7.1インチ)																												
幅	66mm (2.6インチ)																												
重量	180g (6.3オンス)																												
バッテリー仕様																													
リチウムイオンバッテリー	1800mAh (最小値)																												
スキャン回数	1回の充電で4万5千件																												
想定動作可能時間	12時間																												
想定充電時間	4時間 (外部電源) 8時間 (USB 電源供給)																												
無線仕様																													
周波数	2.4~2.5 GHz (ISM バンド) FH 式 Bluetooth V2.1																												
通信距離	10m (見通し線)																												
データ転送レート	3Mbpsまで																												
環境仕様																													
動作温度範囲 (充電中)	5°C~40°C																												
動作温度範囲 (非充電中)	0°C~50°C																												
保管温度範囲*	-5°C~35°C																												
湿度	0~95% (結露なきこと)																												
耐衝撃	コンクリート面に1.5mの高さから30回落下させて、正常に稼動すること																												
防塵・防滴シールド	IP42																												
耐静電気	16kV 気中、9kV 直接放電後 正常に動作すること																												
読み取り性能																													
ピッチ/スキュー	60° /60°																												
読み取り方式	シングルスキャンライン																												
スキャン角度	水平: 30°																												
スキャン速度	100スキャン/秒																												
印字コントラスト	最小 10%																												
ピッチ/スキュー	ピッチ角60°、スキュー角60°																												
読み取りシンボル	1次元バーコードおよびGS1 データバーを読み取り可能																												
読み取り深度 (標準レンジで0.089mm のバーコードを読み取った場合)																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">標準性能</th> <th colspan="2">保証性能</th> </tr> <tr> <th>分解能</th> <th>読み取り深度</th> <th>分解能</th> <th>読み取り深度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.127mm Code 39</td> <td>27mm~151mm</td> <td>0.127mm Code 39</td> <td>38mm~132mm</td> </tr> <tr> <td>0.191mm Code 39</td> <td>16mm~216mm</td> <td>0.191mm Code 39</td> <td>26mm~189mm</td> </tr> <tr> <td>0.264mm Code 39</td> <td>0mm~277mm</td> <td>0.264mm Code 39</td> <td>0mm~229mm</td> </tr> <tr> <td>0.330mm UPC-A</td> <td>0mm~331mm</td> <td>0.330mm UPC-A</td> <td>0mm~253mm</td> </tr> <tr> <td>0.508mm Code 39</td> <td>0mm~367mm</td> <td>0.508mm Code 39</td> <td>0mm~293mm</td> </tr> </tbody> </table>		標準性能		保証性能		分解能	読み取り深度	分解能	読み取り深度	0.127mm Code 39	27mm~151mm	0.127mm Code 39	38mm~132mm	0.191mm Code 39	16mm~216mm	0.191mm Code 39	26mm~189mm	0.264mm Code 39	0mm~277mm	0.264mm Code 39	0mm~229mm	0.330mm UPC-A	0mm~331mm	0.330mm UPC-A	0mm~253mm	0.508mm Code 39	0mm~367mm	0.508mm Code 39	0mm~293mm
標準性能		保証性能																											
分解能	読み取り深度	分解能	読み取り深度																										
0.127mm Code 39	27mm~151mm	0.127mm Code 39	38mm~132mm																										
0.191mm Code 39	16mm~216mm	0.191mm Code 39	26mm~189mm																										
0.264mm Code 39	0mm~277mm	0.264mm Code 39	0mm~229mm																										
0.330mm UPC-A	0mm~331mm	0.330mm UPC-A	0mm~253mm																										
0.508mm Code 39	0mm~367mm	0.508mm Code 39	0mm~293mm																										
レーザー光																													
波長	645~660 nm																												
拡がり角	< 1.5 mrad、IEC 60825-1による最低値																												
最大出力	< 1 mw																												
埋め込み式レーザー																													
波長	645~660 nm																												
拡がり角	< 1.5 mrad、IEC 60825-1による最低値																												
最大出力	10 mw																												

CCB00-010BT 製品仕様

項目	仕様
機械仕様	
高さ	97mm (3.8インチ)
長さ	200mm (7.9インチ)
幅	67mm (2.6インチ)
重量	185g (6.5オンス)
電気仕様	
入力電圧	5VDC ± 5%
動作時消費電力 (充電時)	5W (1A@5V) 外部電源 2.5W (0.5A@5V) USB 電力供給
動作電力 (非充電時)	0.625W (0.125A@5V)
想定充電時間	4時間 (外部電源) 8時間 (USB 電力供給時)
無線仕様	
周波数	2.4~2.5 GHz (ISM バンド) FH 式 Bluetooth V2.1
通信距離	10m (見通し線)
データ転送レート	3Mbpsまで
環境仕様	
動作温度範囲 (充電中)	5°C~40°C
動作温度範囲 (非充電中)	0°C~50°C
保管温度範囲*	-5°C~35°C
湿度	0~95% (結露なきこと)
耐衝撃	コンクリート面に1mの高さから30回落下させて、正常に稼動すること
耐静電気	16kV 気中、9kV 直接放電後 正常に動作すること

CCB00-010BT 取り付け図



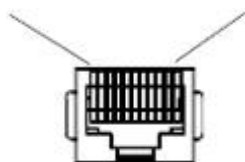
M3 x 15mm PHP ネジを
2本仕様してください。

標準ケーブルのピン配列

キーボードウェッジ

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
4. ターミナルデータ
5. ターミナルクロック
6. キーボードクロック
7. 電源接続 +5V
8. キーボードデータ



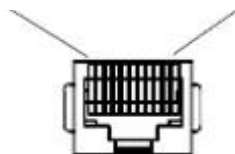
注意：ピン配列はハネウエルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルのピン配列

シリアルアウトプット

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
4. データ転送
5. データ受信 (スキヤナへのシリアルデータ)
6. CTS
7. 電源接続 5V
8. RTS
- 9.
- 10.



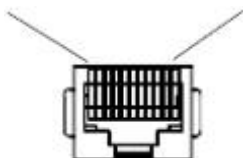
注意：ピン配列はハネウエルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルのピン配列

RS485 アウトプット

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
4. データ転送
5. データ受信 (スキャナへのシリアルデータ)
- 6.
7. 電源接続 5V
8. 送信イネーブル
- 9.
- 10.



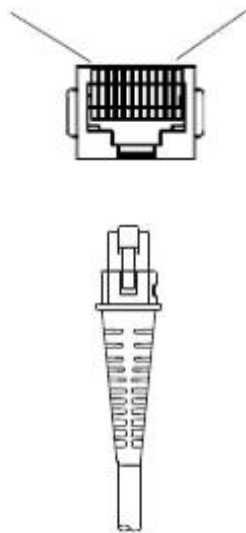
注意：RS485 の信号変換はケーブル内で行われます。
ピン配列はハネウエルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルのピン配列

USB アウトプット

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
- 4.
- 5.
- 6.
7. 電源接続 5V
- 8.
9. データ+
10. データ-



注意：ピン配列はハネウエルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

保守

修理

修理、アップグレードはこの製品に付属していません。これらのサービスは、かならず正規のサービスセンターで受けてください（[13-1 ページ](#)の『テクニカルサポート』を参照）。

保守

本機器は、最低限の手入れで確実に効率的な動作を提供します。特別な保守は不要ですが、以下の定期点検によって信頼性の高いスキャナの動作を確保できます。

機器の清掃

スキャナの窓が汚れていると、読み取り性能が低下することがあります。汚れが目立ったり、十分に動作しない場合は、柔らかい布やレンズ用ティッシュを水（または水で薄めた中性洗剤）で軽く濡らして窓を拭いてください。洗剤を使用する場合は、水だけで濡らしたきれいなレンズ用ティッシュで拭き取ってください。スキャナやベースのハウジングも同様に清掃できます。



警告

スキャナを水に浸けないでください。
スキャナのハウジングに耐水性はありません。

研磨剤入りの布やティッシュを使用しないでください。窓を傷つけることがあります。ハウジングや窓には溶剤（アルコールやアセトンなど）を絶対に使用しないでください。表面や窓を傷めることがあります。

ケーブルとコネクタの点検

傷みやその他損傷の痕跡が無いインターフェースケーブルとコネクタを点検してください。ケーブルがひどく傷んでいたりコネクタが損傷していると、スキャナの動作を妨げることがあります。ケーブル交換については、お買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。ケーブルの交換手順は [12-2 ページ](#)に記載されています。

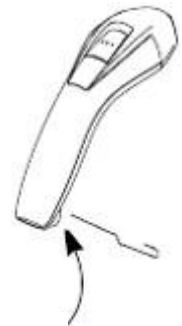
ケーブル交換

標準のインターフェースケーブルが 10 ピンのモジュラコネクタとともに付属しています。適切に設置された場合、コネクタはフレキシブルリテンションタブによってスキヤナのハンドルに収まります。インターフェースケーブルは現場で交換できるように設計されています。

- 交換用ケーブルはハネウェル社もしくは正規の販売店よりお求めください。
- 交換用ケーブルご注文の際は、元々のインターフェースケーブルのケーブル部品番号をご指定ください。

インターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を無効にします。
2. スキヤナのケーブルをターミナルまたはコンピュータから外します。
3. スキヤナのハンドルの裏側にある小さな穴を確認します。これがケーブルリリースです。
4. ペーパークリップの片方の先端を真っ直ぐにします。
5. 真っ直ぐにしたペーパークリップの先端を小さな穴に差し込んで押し込みます。これがリテンションタブを押し、コネクタのロックが解除されます。ペーパークリップを押し込んだままコネクタを引き抜きます。
6. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押し込みます。コネクタには、一方向だけに入るようにキーが付いています。所定の位置でカチッと音がします。

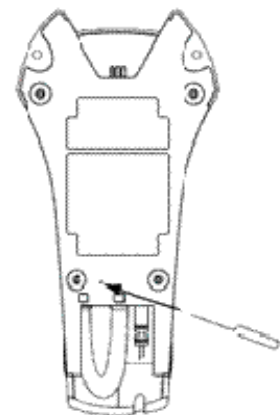


ケーブル
リリース

コードレスシステムのケーブルの交換

インターフェースケーブルの交換

7. ホストシステムの電源を無効にします。
8. ベースユニットのケーブルをターミナルまたはコンピュータから外します。
9. ベースユニットを裏返しにしてください。
10. ベースユニットの裏側にある小さな穴を確認します。これがケーブルリリースです。
11. ペーパークリップの片方の先端を真っ直ぐにします。
12. 真っ直ぐにしたペーパークリップの先端を小さな穴に差し込んで押し込みます。これがリテンションタブを押し、コネクタのロックが解除されます。ペーパークリップを押し込んだままコネクタを引き抜きます。
13. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押し込みます。コネクタには、一方向だけに入るようにキーが付いています。所定の位置でカチッと音がします。



ケーブル
リリース

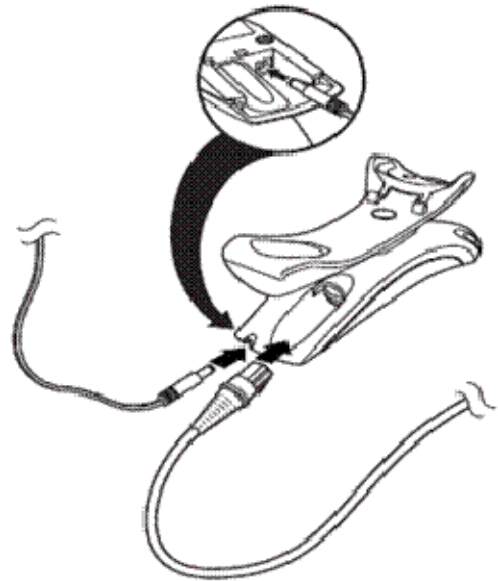
Voyager スキャナのトラブルシューティング

電源を入れると、スキャナはその都度セルフテストを自動的に実行します。お使いのスキャナが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

電源が入っていますか？レーザーエイマーがオンになっていますか？

レーザーエイマーが示されない場合は、以下の点をチェックしてください。

- ケーブルが正しく接続されているか。
- ホストシステムの電源がオンになっているか（外部電源を使用しない場合）。
- ボタンが動作するか。



シンボルの読み取りでスキャナに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、スキャナウィンドウが汚れていないか、またシンボルについて以下の点をチェックしてください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- シンボルがスキャナ、またはスキャナが接続されているデコーダで有効になっているか。

バーコードが表示されても入力されませんか？

バーコードはホスト機器で正常に表示されていますが、入力するためにはまだキーを押す必要があります (Enter/Return キーや Tab キーなど)。

- サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、スキャナはバーコードデータと必要なキー (「CR」など) を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。詳細については、[5-1 ページ](#)の「プリフィクス/サフィックスの概要」を参照してください。

スキャナがバーコードを間違っ読み取っていますか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は

- スキャナが適切なターミナルインタフェース用に設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取っても、ホストが「@es%」と表示する場合など。正しいプラグ&プレイバーコードでスキャナを再設定してください。[2-1 ページ](#)からのインターフェースの設定を参照してください。
- スキャナがバーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取ってもホストが「A12345B」と表示する場合など。正しいシンボルを選択してスキャナを再設定してください。これについては第 6 章を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

1. 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください (第 6 章を参照)。
2. それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、[7-1 ページ](#)の **AllSymbologies On** (すべてのシンボル 有効) を読み取ってください。

スキャナで設定されているプログラミングオプションが不明の場合、または出荷時初期設定を復元したい場合は、[1-8 ページ](#)の『カスタムデフォルト設定』を参照してください。

カスタマーサポート

テクニカルサポート

製品の操作・設定方法やトラブルシューティングに関するサポートが必要な場合は、下記のいずれかの方法をお試しください。

ナレッジベース：www.hsmknowledgebase.com

ハネウエルのナレッジベースでは、様々なソリューションを網羅しています。ナレッジベースで問題が解消されない場合は、テクニカルサポートポータルサイト（下記参照）をご覧ください。

テクニカルサポートポータルサイト：www.hsmsupportportal.com

テクニカルサポートポータルサイトでは発生している問題の報告だけでなく、弊社のナレッジベースから技術的な質問に対する解決方法を検索していただけます。ナレッジベースで解決方法が見つからない場合は、オンラインで質問を送信することができ、テクニカルサポートからの回答や資料を入手することが可能です。

ウェブフォーム：www.hsmcontactsupport.com

オンラインサポートフォームを入力することで、テクニカルサポートに直接お問い合わせいただけます。ご質問者の情報とご質問内容を詳細にご記入いただき、お問い合わせください。

電話によるお問い合わせ：www.honeywellaidc.com/locations

ウェブサイトで各地域事業所の情報を公開しています。そちらをご覧ください、お問い合わせください。

製品のサービスと修理

ハネウエルは世界中のサービスセンターを通して全製品に対するサービスを提供しています。保証内または保証外のサービスを受けられる場合は、返品前に、以下の該当地域事務所に連絡し、RMA（Return Material Authorization）番号を取得してください。

北アメリカ

TEL: (800) 782-4263

E-mail: hsmnaservice@honeywell.com

ラテンアメリカ

TEL: (803) 835-8000

TEL: (800) 782-4263

Fax: (239) 263-9689

E-mail: laservice@honeywell.com

ブラジル

TEL: +55 (11) 5185-8222

Fax: +55 (11) 5185-8225

E-mail: brservice@honeywell.com

メキシコ

TEL: 01-800-HONEYWELL (01-800-466-3993)

Fax: +52 (55) 5531-3672

E-mail: mxservice@honeywell.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ

TEL: +31 (0) 40 2901 633

Fax: +31 (0) 40 2901 631

E-mail: euroservice@honeywell.com

香港

TEL: +852-29536436

Fax: +852-2511-3557

E-mail: apservice@honeywell.com

シンガポール

TEL: +65-6842-7155

Fax: +65-6842-7166

E-mail: apservice@honeywell.com

中国

TEL: +86 800 828 2803

Fax: +86-512-6762-2560

E-mail: apservice@honeywell.com

日本

TEL: +81-3-6730-7344

Fax: +81-3-6730-7222

E-mail: apservice@honeywell.com

オンラインでの製品のサービスと修理

ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) より製品のサービスならびに修理に関するオンラインサポートをご利用いただけます。

条件付保証

Honeywell International Inc.（以下ハネウエル社）は、出荷時にはその製品の材料および製造品質に欠陥がなく、お買い上げいただいた製品に適用されるハネウエル社の公式な仕様に適合することを保証いたします。ただし、この保証は、以下の場合にはハネウエル社の製品であっても対象外となります。（i）設置または使用方法が不適切。ii）正しい保守、サービス、および清掃手順に従わなかった場合を含めた事故や不注意での損傷。または（iii）以下の結果損傷した場合：（A）お客様または第三者が行った変更や改造、（B）インタフェース接続に過大な電圧や電流がかかったり流れたりした。（C）静電気または静電気放電、（D）指定の動作パラメータを超える条件での使用、（E）ハネウエル社または正規代理店以外が行った製品の修理や整備。

この保証期間は、出荷時点から、ご購入時に製品に対してハネウエル社が公式に示した期間（「保証期間」）とします。欠陥品は、点検のために保証期間内にハネウエル社の工場または正規サービスセンターにかならず返却してください（送料はお客様負担となります）。RMA（Return Material Authorization）が無ければ、ハネウエル社はどんな製品も受け付けません。RMAは、ハネウエル社に連絡すれば取得できます。保証期間内にハネウエル社または正規サービスセンターに製品が返却され、材料または製造品質の欠陥によって製品が故障したことを確認した場合、ハネウエル社は自社の選択によって製品を無償で修理または交換いたします。ただし、ハネウエル社への返却送料はご負担ください。

該当する法律によって規定されている場合を除き、上記の保証は、明示的であっても暗黙のものであっても、また口頭であっても書面であっても限定されることなく、特定の目的に対する商品性や適合のあらゆる暗黙の保証を含む他のあらゆる契約に代わるものです。この保証によるハネウエル社の賠償責任とお客様が受けられる唯一の補償は、欠陥品の修理または交換に限られます。いかなる場合も、ハネウエル社は直接的、間接的、あるいは結果的な損害には一切責任を負いません。また、ここでご購入いただいた製品に関して生じたハネウエル社の賠償額は（そうした賠償責任が契約、保証、不法行為などに基づく請求によるものであっても関係なく）、その製品のためにハネウエル社にお支払いいただいた実際の金額を限度とします。これらの賠償責任の限度は、そのような、けが、損失、損害などの可能性についてハネウエル社が知らされていた場合であっても有効です。一部の州、地区、あるいは国などでは、偶発的または結果的な損害の除外または制限を認めていません。その場合は、上記の制限または除外が適用にならないことがあります。

この条件付保証項目はすべて区分されており、分離が可能です。つまり、いずれかの条項が無効のまま実施できない場合でも、その決定は他の項目を実施する有効性には関係ありません。この製品の製造者自身が製造または販売していない周辺装置を使用した場合には、この保証は無効になります。この周辺装置には、ケーブル、電源、クレイドル、およびドッキングステーションが含まれます。ハネウエル社は、これらの保証を製品の最初のエンドユーザにのみ適用します。これらの保証は譲渡できません。

Voyager 1200g スキャナの保証期間は 5 年間とします。

Voyager 1202g スキャナおよび CB00-010BT ベースユニットの保証期間は 3 年間とします。

Voyager 1202g バッテリーの保障期間は 1 年間とします。

付録チャート

シンボルチャート

注意：お使いの機器ですべてのシンボルがサポートされているとは限りません。

シンボル	AIM ID	AIM ID モディファイ(m)	コードID (HEX)
All Symbolologies (全シンボル)			(0x99)
Australian Post (オーストラリア郵政)]X0		A (0x41)
Aztec Code]zm	0-9, A-C	z (0x7A)
British Post (英国郵政)]X0		B (0x42)
Canadian Post (カナダ郵政)]X0		C (0x43)
China Post (中国郵政)]X0		Q (0x51)
Chinese Sensible Code (Han XinCode) (漢信コード)]X0		H (0x48)
Codabar]Fm	0-1	a (0x61)
Codablock A]O6	0, 1, 4, 5, 6	V (0x56)
Codablock F]Om	0, 1, 4, 5, 6	q (0x71)
Code 11]H3		h (0x68)
Code 128]Cm	0, 1, 2, 4	j (0x6A)
GS1-128]C1		l (0x49)
Code 16K]Km	0, 1, 2, 4	o (0x6F)
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)]X0		< (0x3C)
Code 39 (supports Full ASCII mode)]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7	b (0x62)
Code 49]Tm	0, 1, 2, 4	l (0x6C)
Code 93 and 93i]Gm	0-9, A-Z, a-m	i (0x69)
Data Matrix]dm	0-6	w (0x77)
EAN-13 (Bookland EAN を含む)]E0		d (0x64)
EAN-13 with Add-On (アドオン付き EAN-13)]E3		d (0x64)
EAN-13 with Extended Coupon Code (拡張クーポンコード付き EAN-13)]E3		d (0x64)

シンボル	AIM ID	AIM ID モディファイ(m)	コード ID (HEX)
EAN-8	JE4		D (0x44)
EAN-8 with Add-On (アドオン付き EAN-8)	JE3		D (0x44)
GS1 Composite	Jem	0-3	y (0x79)
GS1 DataBar	Jem	0	y (0x79)
InfoMail	JX0		, (0x2c)
Intelligent Mail Barcode	JX0		M (0x4D)
Interleaved 2 of 5	Jlm	0, 1, 3	e (0x65)
Japanese Post (日本郵便)	JX0		J (0x4A)
KIX (Netherlands) Post (オランダ郵便)	JX0		K (0x4B)
Korea Post (韓国郵便)	JX0		? (0x3F)
Matrix 2 of 5	JX0		m (0x6D)
MaxiCode	JUm	0-3	x (0x7 8)
MicroPDF417	JLm	3-5	R (0x52)
MSI	JMm	0	g (0x67)
NEC 2 of 5	JX0		Y (0x59)
OCR MICR (E 13 B)	Jo3		O (0x4F)
OCR SEMI Font	Jo3		O (0x4F)
OCR-A	Jo1		O (0x4F)
OCR-B	Jo2		O (0x4F)
PDF417	JLm	0-2	r (0x72)
Planet Code	JX0		L (0x4C)
Postal-4i	JX0		N (0x4E)
Postnet	JX0		P (0x50)
QR Code ならびに Micro QR Code	JQm	0-6	s (0x73)
Straight 2 of 5 IATA	JRm	0, 1, 3	f (0x66)
Straight 2 of 5 Industrial	JS0		f (0x66)
TCIF Linked Code 39 (TLC39)	JL2		T (0x54)
Telepen	JBm		t (0x54)
UPC-A	JE0		c (0x63)
UPC-A with Add-On (アドオン付き UPC-A)	JE3		c (0x63)
UPC-A with Extended Coupon Code (拡張コード付き UPC-A)	JE3		c (0x63)
UPC-E	JE0		E (0x45)
UPC-E with Add-On (アドオン付き UPC-E)	JE3		E (0x45)
UPC-E1	JX0		E (0x45)

注意：「m」は、AIM モディファイのキャラクタを示します。AIM モディファイキャラクタの詳細については、「International Technical Specification」の「Symbology Identifiers」を参照してください。

特定のシンボルに対するプリフィクス/サフィックスの入力は、汎用 (All Symbologies、99) 入力に優先します。

コード ID と AIM ID の使用方法については、[5-1 ページ](#)からの『データの編集』と [6-1 ページ](#)からの『データフォーマット』を参照してください。

ASCII 変換チャート (コードページ 1252)

注意：この表は、米国方式のキーボードに適用されます。特定のキャラクタは、国コード・PC の地域設定によって異なる場合があります。

印刷不可能なキャラクタ					
DEC	HEX	キャラクタ (コード)	DEC	HEX	キャラクタ (コード)
0	0	NULL	16	10	DATA LINK ESCAPE (DLE)
1	1	START OF HEADING (SOH)	17	11	DEVICE CONTROL 1 (DC1)
2	2	START OF TEXT (STX)	18	12	DEVICE CONTROL 2 (DC2)
3	3	END OF TEXT (ETX)	19	13	DEVICE CONTROL 3 (DC3)
4	4	END OF TRANSMISSION (EOT)	20	14	DEVICE CONTROL 4 (DC4)
5	5	END OF QUERY (ENQ)	21	15	NEGATIVE ACKNOWLEDGEMENT (NAK)
6	6	ACKNOWLEDGE (ACK)	22	16	SYNCRONIZE (SYN)
7	7	BEEP (BEL)	23	17	END OF TRANSMISSION BLOCK (ETB)
8	8	BACKSPACE (BS)	24	18	CANCEL (CAN)
9	9	HORIZONTAL TAB (HT)	25	19	END OF MEDIUM (EM)
10	A	LINE FEED (LF)	26	1A	SUBSTITUTE (SUB)
11	B	VERTICAL TAB (VT)	27	1B	ESCAPE (ESC)
12	C	FORM FEED (FF)	28	1C	FILE SEPARATOR (FS) RIGHT ARROW
13	D	CARRIAGE RETURN (CR)	29	1D	GROUP SEPARATOR (GS) LEFT ARROW
14	E	SHIFT OUT (SO)	30	1E	RECORD SEPARATOR (RS) UP ARROW
15	E	SHIFT IN (SI)	31	1E	UNIT SEPARATOR (US) DOWN ARROW

印刷可能なキャラクタ								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
32	20	SPACE	64	40	@	96	60	'
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	"	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	'	71	47	G	103	67	g
40	28	(72	48	H	104	68	h
41	29)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
60	3C	<	92	5C	\	124	7C	
61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	DEL

拡張 ASCII キャラクタ								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
128	80	€€	171	AB	«	214	D6	Ö
129	81		172	AC	¬	215	D7	×
130	82	,	173	AD	-	216	D8	∅
131	83	f	174	AE	®	217	D9	Ù
132	84	”	175	AF	—	218	DA	Ú
133	85	...	176	B0	°	219	DB	Û
134	86	†	177	B1	±	220	DC	Ü
135	87	‡	178	B2	²	221	DD	Ý
136	88	^	179	B3	³	222	DE	ƒ
137	89	‰	180	B4	´	223	DF	ß
138	8A	Š	181	B5	μ	224	E0	à
139	8B	‹	182	B6	¶	225	E1	á
140	8C	Œ	183	B7	·	226	E2	â
141	8D		184	B8	¸	227	E3	ã
142	8E	Ž	185	B9	¹	228	E4	ä
143	8F		186	BA		229	E5	å
144	90		187	BB	»	230	E6	æ
145	91	‘	188	BC	¼	231	E7	ç
146	92	’	189	BD	½	232	E8	è
147	93	“	190	BE	¾	233	E9	é
148	94	”	191	BF	¿	234	EA	ê
149	95	•	192	C0	À	235	EB	ë
150	96	—	193	C1	Á	236	EC	ì
151	97	—	194	C2	Â	237	ED	í
152	98	~	195	C3	Ã	238	EE	î
153	99	™	196	C4	Ä	239	EF	ï
154	9A	š	197	C5	Å	240	F0	ð
155	9B	›	198	C6	Æ	241	F1	ñ
156	9C	œ	199	C7	Ç	242	F2	ò
157	9D		200	C8	È	243	F3	ó
158	9E	ž	201	C9	É	244	F4	ô
159	9F	ÿ	202	CA	Ê	245	F5	õ
160	A0		203	CB	Ë	246	F6	ö
161	A1	ï	204	CC	Ì	247	F7	÷
162	A2	ø	205	CD	Í	248	F8	ø
163	A3	£	206	CE	Î	249	F9	ù
164	A4	α	207	CF	Ï	250	FA	ú
165	A5	¥	208	D0	Ð	251	FB	û
166	A6	¡	209	D1	Ñ	252	FC	ü
167	A7	§	210	D2	Ò	253	FD	ý
168	A8	¨	211	D3	Ó	254	FE	þ
169	A9	©	212	D4	Ô	255	FF	ÿ
170	AA	ª	213	D5	Õ			

印刷バーコードのコードページマッピング

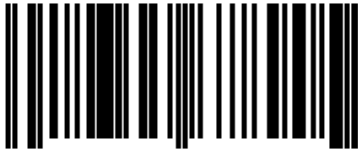
コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、バーコードが作成されたときのコードページを選択してください。これでデータキャラクタが正しく表示されます。

注意：コードページオプションが利用できるのは、Code 39、Code 93、およびCode 128 です。

コードページ	標準	内容
1	CP ISO646	
2 (初期設定)	ISO 2022	自動置換キャラクタ
3	CP Binary	
51	ISO 8859 1 51	西欧置換キャラクタ
82	ISO 2022 11 Swe	スウェーデン置換キャラクタ
83	ISO 2022 69 Fra	フランス/ベルギー置換キャラクタ
81	ISO 2022 25 Fra	フランス/ベルギー置換キャラクタ
84	ISO 2022 11 Ger	ドイツ置換キャラクタ
85	ISO 2022 11 Ita	イタリア置換キャラクタ
86	ISO 2022 11 Swi	スイス置換キャラクタ
87	ISO 2022 11 UK	イギリス置換キャラクタ
88	ISO 2022 11 Dan	デンマーク置換キャラクタ
89	ISO 2022 11 Nor	ノルウェー置換キャラクタ
90	ISO 2022 11 Spa	スペイン置換キャラクタ
91	ISO 2022 85	スペイン置換キャラクタ
92	ISO 2022 16	ポルトガル置換キャラクタ
93	ISO 2022 84	ポルトガル置換キャラクタ
94	ISO 2022 80	ノルウェー置換キャラクタ

サンプルシンボル

UPC-A



0 123456 7890

Interleaved 2 of 5



1234567890

Code 128



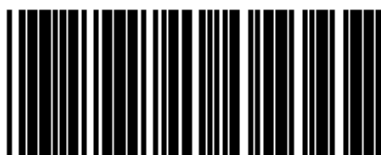
Code 128

EAN-13



9 780330 290951

Code 39



BC321

Codabar



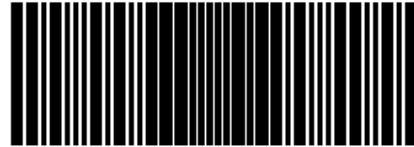
A13579B

Code 93



123456-9\$

Straight 2 of 5 Industrial



123456

Matrix 2 of 5



6543210

GS1 DataBar



(01)00123456789012

プログラミングチャート



K0K

0



K2K

2



K4K

4



K6K

6



K8K

8



K1K

1



K3K

3



K5K

5



K7K

7



K9K

9



KAK

A



KBK

B



KCK

C



KDK

D



KEK

E



KFK

F



MNUSAV.

Save (保存)



MNUABT.

Discard (破棄)

注意：文字または数字（Save を読み取る前に）をスキャンしエラーした場合は、**Discard (破棄)** を読み取り、正確に文字または数字をもう一度スキャンして、**Save (保存)** を読み取ってください。

Honeywell Scanning & Mobility

9680 Old Bailes Road
Fort Mill, SC 29707

ハネウェルジャパン株式会社

ACS/HSM

ハネウェルスキヤニング&モビリティ

〒105-0022

東京都港区海岸 1-16-1

ニューピア竹芝サウスタワー20階

TEL: 03-6730-7344(代)

FAX: 03-6730-7222

www.honeywellaidc.com